

**TOKYO UNIVERSITY
OF
AGRICULTURE
AND
TECHNOLOGY
GENERAL INFORMATION
FOR
STUDIES
AND
COURSE DESCRIPTION**

**履修案内
東京農工大学農学部**

2013年度（平成25年度）入学生適用

目次

本学の目的 農学部の目的	1	(4) 他学科履修の取扱いについて	30
ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	2	(5) 他学科・他学部科目履修願	30
		(6) 履修手続きについての注意事項	31
I. 授業について	16	5. 試験及び成績	32
1. 基本的事項	16	(1) 試験	32
(1) 学年と学期	16	1) 定期試験	32
(2) 平成25年度学年暦	16	2) 受験心得	32
(3) 授業時間割表	18	(2) 成績	33
(4) 授業時間	18	1) 成績評価基準	33
(5) 交通機関の連休などによる休講	18	2) 成績確認制度	33
(6) 学科の略号	19	II. 教育課程表	34
(7) 学籍番号	19	1. 全学共通教育科目	34
(8) 学生への周知方法	19	2. 専門科目	38
1) WEB 掲示板	20	(1) 学科専門科目	38
2) 本館掲示板配置図	21	(2) 学部共通専門科目	49
3) 学籍メール	21	(3) 開放科目	50
(9) 教務係窓口受付時間	22	3. 外国人留学生等科目	50
(10) 本学ホームページのアドレス	22	III. 全学共通教育科目の履修について	51
2. 授業科目区分と卒業要件	23	1. 全学共通教育の理念・目標	51
(1) 単位数の算定基準	23	2. 科目群について	51
(2) 授業科目の区分	23	(1) 大学導入科目	51
1) 教育課程上の授業科目区分	23	(2) 持続可能な地球のための科学技術	52
2) 開講上の形態による授業区分	23	(3) 共生人文社会科学	53
(3) 卒業について	24	(4) リテラシー科目	54
1) 卒業要件	24	(5) スポーツ健康科学	57
2) 卒業要件を満たすには	24	(6) 日本語・日本事情	58
3) 卒業に必要な最低修得単位数	24	(7) TAT I・II科目	58
4) 早期卒業	25	IV. 各学科の教育内容について	61
5) 6月・9月卒業	25	1. 生物生産学科	61
6) 成績不振学生の取り扱い	25	2. 応用生物科学科	64
3. GPA 制度及び CAP 制度について	26	3. 環境資源科学科	68
(1) GPA (Grade Point Average) 制度	26	4. 地域生態システム学科	72
(2) 成績優秀者	26	5. 共同獣医学科	77
(3) CAP 制度	26	V. 教職課程の履修	80
(4) 卒業要件・GPA・CAP 対応表	27	VI. 博物館学芸員課程の履修	81
4. 履修手続きについて	28		
(1) 履修とは	28		
(2) 履修登録の期間	28		
(3) 履修登録の手順	29		

VII. 単位互換制度について	82	IX. 学修に関する相談	86
1. 単位互換制度の概要.....	82	1. 1年次のクラス担任.....	86
2. 出願資格.....	82	2. 学科教育委員.....	86
3. 出願手続.....	82	3. 学生生活委員.....	87
(1) ガイダンスへの出席.....	82	4. 学生相談室の利用.....	87
(2) 履修計画の作成.....	82	5. 身体に障害がある者の受講措置.....	87
(3) 出願書類の提出.....	82	X. 履修案内 Q&A	88
(4) 受入可否の確認.....	83	XI. 農学部教員連絡先	92
4. 単位認定及び学業成績.....	83	XII. 体育施設等の使用, 建物配置図など	97
(1) 多摩地区国立5大学協定校.....	83	1. 施設の使用.....	97
(2) 琉球大学及び長岡技術科学大学.....	83	2. 建物配置図.....	100
5. その他.....	83	(1) 農学部構内図.....	100
(1) 授業料.....	83	(2) 教室配置図.....	101
(2) 試験実施方法.....	83	XIII. SPICA 基本操作手順 (学生用)	104
(3) 受入れ大学の施設の利用.....	83		
VIII. 各種手続きについて	84		
1. 学籍異動 (休学, 退学など).....	84		
2. 証明書の交付.....	85		
(1) 証明書自動発行装置.....	85		
(2) 卒業見込証明書の発行に関する注意事項.....	85		

●本学の目的●

本学は、広汎な学問領域における急激な知の拡大深化に対応して教育と研究の絶えざる質の向上を図り、20世紀の社会と科学技術が残した「持続発展可能な社会の実現」の課題を正面から受け止め、農学・工学及びその融合領域における教育研究を中心に社会や環境と調和した科学技術の進展に貢献することを目的とする使命指向型の科学技術大学を構築することを目標とする。

使命指向型の科学技術大学として、

- 教育においては、知識伝授に限定されず、知の開拓能力・課題解決能力の育成を主眼とし、高い倫理性を有する高度専門職業人や研究者を養成することを目標とする。
- 研究においては、学術の展開や社会的な要請に留意しつつ、自由な発想に基づく創造的研究に加えて、社会との連携により総合的・学際的な研究も活発に展開し、社会的責任を果たすことを目標とする。
- 教育と研究の両面で国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献することを目標とする。
- 本学は、教育研究と業務運営の全活動について、目標・計画の立案と遂行状況の点検評価を実施・公表し、開かれた大学として資源活用の最適化を図り、全学の組織体制と活動内容の絶えざる改善を図ることを目標とする。

●農学部の目的●

本学部では、さまざまな人間活動の拡大に伴う食料・資源問題、環境問題、人口問題等が地球規模で深刻化しつつある現状を直視し、以下のような人材の養成を目的としています。

- ①21世紀の人口・食料・資源・環境問題の解決に欠かせない、生命・生物機能・生物資源・環境・動物医学・人文社会系の諸科学に関する専門性を身に付け、課題探求能力を持ち、社会の要請に応えて、積極的に使命指向型科学を遂行できる人材
- ②専門以外の領域にも関心を持ち、それらを学習する能力を備え、自然と人間及び社会・文化に関して深い理解と洞察のできる教養豊かな人材
- ③豊かなコミュニケーション能力を備え、諸外国の文化を理解し、国際社会において活躍できる人材

●ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー●

教育担当副学長 瀬瀬明伯

東京農工大学は、大学憲章において「使命志向型教育研究（MORE SENSE）」を行うことを基本理念として掲げています。これは、本学の教育目標が、課題解決能力のある実践的な人材の育成にあることを意味します。この基本理念に沿って、専門分野別の学部・学科における教育の到達目標を定めたものがディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）です。

学部のディプロマ・ポリシーには、所属する学科を超えて、新入生の皆さんが卒業するまでに身につけて欲しい能力が示されています。そこでは、基礎学力・専門知識・応用力・社会性の4つの観点に基づいて、必要な能力が文章で述べられています。

履修案内には、皆さんがこれから4年間で学ぶ科目を示した課程表、履修する科目の順番を示したコース・ツリーが掲載されています。これらは、大学が皆さんにどのような科目を提供しているか、すなわち、大学側の取組みを示しています。これに対して、ディプロマ・ポリシーには、それらの科目を学ぶことによって、皆さんがどのような能力を身につけることができるか、すなわち、皆さん自身の成長目標が示されています。実験・実習科目で身につく能力はわかりやすいと思いますが、講義では知識を吸収するだけではなく、考え方や要点をまとめる能力及び文章で表現する能力を修得することが大切です。

学科のディプロマ・ポリシーには、専門分野に即して、身につけて欲しい能力が観点別に説明されています。カリキュラム・マップ、カリキュラム・フローチャート（この2つをカリキュラム・ポリシーといいます）を確認することによって、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの観点に対応するのか理解できるようになっています。これらの表を、今後、時々、見直すことによって、どのような能力が身についたか、また、どのような能力が不足しているかを確認しながら、学習を進めるようにして下さい。4年後、皆さんがディプロマ・ポリシーの掲げる能力を身につけ、自信を持って卒業することができるよう、大学も応援しています。

農学部学士課程ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学士（農学・獣医学）号授与時に期待される到達目標

農学とそれに関連した食料・生命・資源・環境に関する自然科学・社会科学について、

A 幅広い基礎学力・柔軟かつ論理的な思考力を有していること（学力・知識・思考）

B 高度な専門的知識を持つこと（理解・専門・発展）

C 科学的な研究手法を身につけていること（技術・分析力・考察力）

D 社会的倫理観やコミュニケーション力を備えていること（関心・意欲・態度・表現）

	生物生産学科	応用生物科学科	環境資源科学科	地域生態システム学科	共同獣医学科
A	生物生産学とそれに関連する領域の幅広い基礎学力・知識を身につけ、問題解決のための柔軟な思考力を有していること。	応用生物科学とそれに関連した領域の課題に取り組む基盤となる幅広い知識と教養を学び、柔軟な思考力を身につけていること。	環境や資源問題を理解するために必要な自然科学の基礎知識を身につけていること。	広範囲に及ぶ生命・食料生産・環境に関わる課題に取り組むための幅広い基礎学力を身につけ、異なる文化の人々とも円滑にコミュニケーションができる能力を持っていること。	獣医師としての任務を遂行するため、高度な専門的知識のみならず、低学年次からの導入教育により論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つこと。
B	生物生産学に関する専門領域を理解し、高度な専門的知識を有すること。	生物のもつ生命現象や生物個体間相互作用と共存様式を解明し、人類の持続可能な発展に貢献するために、応用生物科学の基礎から先端にいたる専門領域およびそれに関連した科学を体系的に学習していること。	人類が直面する食料・生命・資源・環境問題に関わる世界水準の自然科学研究を理解でき、科学的に思考する力を有していること。	森林・農村・都会を連続した地域と捉え、農の営みや自然と人間活動の多様な関係を対象として、自然科学と人文社会科学の協働による地域管理・計画に関する知識を身につけ、食料・生命・資源・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学的研究が理解できていること。	動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する実践力を兼ね備えた、基礎的な知識・技能を持つこと。
C	人類が直面する食料・農業・農村問題、持続的農業等の課題に対して、解決に向けての科学的な研究手法を身につけていること。	応用生物科学の分野において不可欠な、化学と生物学を基盤とした実験技術を学び、分子、細胞、個体から生物群集の活動、相互作用にいたる一連の生命現象と生物機能を理解するための分析力と考察力を身につけていること。	環境と資源の科学に必要な基礎的技能・技術を習得していること。	人類が直面する食料・生命・資源・環境問題等の課題に対して、科学的な解決方法を構想できていること。	生命現象の解明を基盤とする生命科学や応用開発等において、獣医学を基礎とした問題解決能力を持つこと。
D	農林水産業および関連産業に高い関心と意欲をもち、高い倫理性をもってその発展に寄与しうる能力を有し、異なる文化の人々とも円滑にコミュニケーションができる能力を備えていること。	バイオサイエンス、バイオテクノロジー、食品、生命科学、植物保護等の研究によってそれらの発展に寄与するとともに、成果を発信するために必要なプレゼンテーション法と、異なる文化の人をはじめ様々な人々と交流するためのコミュニケーション法を学習し、高い倫理性を持って社会に貢献することが期待できること。	環境資源問題に関わる幅広い見識をもち、異なる文化の人々ともコミュニケーションできる力を備えていること。	農林水産業および食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、高い倫理性を持って、その発展に寄与することをめざした行動ができていること。	地球規模での感染症や畜産物の安全確保などに対して貢献する、知識・技能を持つこと。

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	生物生産学とそれに関連する領域の幅広い基礎学力・知識を身につけ、問題解決のための柔軟な思考力を有していること。
観点(B)	生物生産学に関する専門領域を理解し、高度な専門的知識を有すること。
観点(C)	人類が直面する食料・農業・農村問題、持続的農業等の課題に対して、解決に向けての科学的な研究手法を身につけていること。
観点(D)	農林水産業および関連産業に高い関心と意欲をもち、高い倫理性をもってその発展に寄与しうる能力を有し、異なる文化の人々とも円滑にコミュニケーションができる能力を備えていること。

区分	授業科目	観 点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	大学導入科目				○
	自校教育			○	
	科学技術と社会		○		
	融合科目	○			
	共生人文社会科学 A	○			
	共生人文社会科学 B	○			
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	*日本語科目				○
	*日本事情科目				○
	TAT I 数学	○			
	TAT I 物理学	○			
	TAT I 化学	○			
	TAT I 生物学	○			
	TAT II 数学	○			
	TAT II 物理学	○			
TAT II 化学	○				
TAT II 生物学	○				
TAT II 地学	○				
学科共通科目	生物生産学原論	●		○	
	情報処理学		○		
	生化学	●			○
	農業微生物学	●			○
	分析科学	●			○
	農産物製造学	●			○
	生物統計学		○		
	科学英語論文講読	●			○
	農業分野専攻実習		○		
	生物生産学実験基礎		○		
	アグリバイオ実験		○		
	学外実習（農家）			○	
	学外実習（研究所）			○	
	卒業論文	○	●		
生産技術環境系科目	作物栽培学	○			
	土壌学	○			
	環境気象学	○			
	土壌物質循環・肥料科学	○			
	作物保護学	○			
	灌漑排水工学	●			○
	生物生産環境学	○			
	農地工学	●			○
	フィールド実験実習Ⅰ		○		
	フィールド実験実習Ⅱ		○		

区分	授業科目	観 点			
		A	B	C	D
植物生産系科目	植物生理学	●			○
	植物分子遺伝学	○			
	植物生態生理学	○			
	作物学	○			
	植物栄養学	○			
	園芸学Ⅰ	○			
	園芸学Ⅱ	○			
	植物育種学	○			
	植物生態学	●			○
動物生産系科目	畜産学総論	○			
	農業昆虫学Ⅰ	○			
	家畜形態・生理学	○			
	農業昆虫学Ⅱ	○			
	家畜飼養学	○			
	家畜繁殖学	○			
	家畜育種学	○			
	蚕糸・昆虫利用学	○			
	家畜衛生学	○			
	農業経済学	○			
農業経営経済系科目	農業経営学	○			
	食料システム経済学	●			○
	農業市場学	○			
	国際農業政策論	●			○
	農業資源経済学	●			○
	サステイナブルツーリズム論			○	
	農業経営経済学総合演習		○		
	農村社会調査実習			○	
新領域科目	バイオマスエネルギー論	●			○
	遺伝子細胞工学	●			○
	生物生産学特別講義Ⅰ（環境系）		○		
	生物生産学特別講義Ⅱ（植物系）		○		
	生物生産学特別講義Ⅲ（動物系）		○		
	生物生産学特別講義Ⅳ（経済系）		○		
	食料リスクアナリシス			○	
地域パートナーシップ論			○		
動物福祉論			○		
学部共通専門科目	○				

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。

*日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

※ 観点の (A), (B), (C), (D) はそれぞれディプロマ・ポリシーの観点に対応する。

観点	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B TAT I 数学 TAT I 物理学 TAT I 化学 TAT I 生物学 生物生産学原論 作物栽培学 植物生理学 バイオマスエネルギー論	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B TAT I 数学 TAT II 物理学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 生物生産学原論 植物分子遺伝学 畜産学総論	TAT II 数学 TAT II 物理学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 生化学 土壌学 環境気象学 植物生態生理学 農業昆虫学 I 農業経済学 学部共通専門科目	TAT II 数学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 作物学 植物栄養学 園芸学 I 家畜形態・生理学 農業経営学 食料システム経済学 遺伝子細胞工学 学部共通専門科目	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 農業微生物学 分析科学 土壌物質循環・肥料科学 園芸学 II 植物育種学 植物生態学 農業昆虫学 II 家畜飼養学 家畜繁殖学 家畜育種学 農業市場学 国際農業政策論 学部共通専門科目	融合科目 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 農産物製造学 科学英語論文講読 作物保護学 灌漑排水工学 蚕糸・昆虫利用学 家畜衛生学 農業資源経済学 学部共通専門科目	生物生産環境学 農地工学 学部共通専門科目	学部共通専門科目
B	科学技術と社会 情報処理学 フィールド実験実習 I	フィールド実験実習 II	農業分野専攻実習	農業分野専攻実習 生物生産学実験基礎	アグリバイオ実験 農業経営経済学総合演習 (生物生産学特別講義 I (環境系)) (生物生産学特別講義 II (植物系)) (生物生産学特別講義 III (動物系)) (生物生産学特別講義 IV (経済系))	科学技術と社会 生物統計学 卒業論文	卒業論文 (生物生産学特別講義 I (環境系)) (生物生産学特別講義 II (植物系)) (生物生産学特別講義 III (動物系)) (生物生産学特別講義 IV (経済系))	科学技術と社会 卒業論文
C	自校教育				学外実習(農家)	農村社会調査実習 食料リスクアナリシス	学外実習(研究所) 地域パートナーシップ論	サステイナブルツーリズム論 動物福祉論
D	大学導入科目 リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目

() は隔年開講科目。

* 日本語科目, 日本事情科目は留学生対象科目。

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	応用生物科学とそれに関連した領域の課題に取り組む基盤となる幅広い知識と教養を学び、柔軟な思考力を身につけていること。
観点(B)	生物の持つ生命現象や生物個体間相互作用と共存様式を解明し、人類の持続可能な発展に貢献するために、応用生物科学の基礎から先端にいたる専門領域およびそれに関連した科学を体系的に学習していること。
観点(C)	応用生物科学の分野において不可欠な、化学と生物学を基盤とした実験技術を学び、分子、細胞、個体から生物群集の活動、相互作用にいたる一連の生命現象と生物機能を理解するための分析力と考察力を身につけていること。
観点(D)	バイオサイエンス、バイオテクノロジー、食品、生命科学、植物保護等の研究によってそれらの発展に寄与するとともに、成果を発信するために必要なプレゼンテーション法と、異なる文化の人をはじめ様々な人々と交流するためのコミュニケーション法を学習し、高い倫理性を持って社会に貢献することが期待できること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	大学導入科目	○			
	自校教育	○			
	科学技術と社会	●			○
	融合科目	○			
	共生人文社会科学 A	○			
	共生人文社会科学 B	○			
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目	○			
	*日本語科目				○
	*日本事情科目				○
	TAT I 数学	○			
	TAT I 物理学	○			
	TAT I 化学	○			
	TAT I 生物学	○			
	TAT II 数学	○			
	TAT II 物理学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 化学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 生物学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 地学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 物理学実験	○			
TAT II 化学実験				○	
TAT II 生物学実験				○	
TAT II 地学実験	○				
学科共通科目	情報処理学		○		
	有機化学 I		○		
	生化学 I		○		
	分析化学 I		○		
	有機化学 II		○		
	生化学 II		○		
	分子生物学 I		○		
	植物保護学		○		
	発生生物学		○		
	昆虫生物学		○		
	分子細胞生物学		○		
	分析化学 II		○		
	有機化学 III		○		
	生化学 III		○		
	植物生理学		○		
	免疫生物学		○		
	分子生物学 II		○		
	食品化学 I		○		
	微生物生化学		○		
	天然物有機化学		○		

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
学科共通科目	生物相関学		○		
	天敵微生物学		○		
	バイオリジカルコントロール		○		
	植物病理学		○		
	食品化学 II		○		
	栄養化学 I		○		
	遺伝子工学		○		
	神経生物学		○		
	応用微生物学		○		
	生理活性物質化学		○		
	科学英語		○		
	食品製造学		○		
	専門自由科目 (食品工学)		○		
	細胞工学		○		
	栄養化学 II		○		
	植物工学		○		
	代謝工学		○		
	蛋白学		○		
	有機合成化学		○		
	生体高分子利用学		○		
	農薬化学		○		
	病原微生物学		○		
	昆虫生理学		○		
	食品衛生学		○		
	応用生物科学特別講義 I		○		
	応用生物科学特別講義 II		○		
	科学英語論文演習 I				○
	科学英語論文演習 II				○
	農場実習		○		
	応用生物科学共通実験 I			○	
	応用生物科学共通実験 II			○	
	応用生物科学専門実験 I			○	
応用生物科学専門実験 II			○		
応用生物科学専門実験 III			○		
応用生物科学専門実験 IV			○		
応用生物科学専門実験 V			○		
応用生物科学専門実験 VI			○		
応用生物科学実習		○			
卒業論文		○	○	●	
学部共通専門科目	○				

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。
 注) 応用生物科学科では、TAT II 実験科目を講義科目とは異なる観点に基づき指導をしている。
 *日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

応用生物科学科

カリキュラム・フローチャート

※ 観点の (A), (B), (C), (D) はそれぞれディプロマ・ポリシーの観点に対応する。

観点	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	大学導入科目 自校教育 科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B スポーツ健康科学科目 TAT I 数学 TAT I 物理学 TAT I 化学 TAT I 生物学	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B スポーツ健康科学科目 TAT I 数学 TAT II 化学(実験科目を除く) TAT II 生物学(実験科目を除く) TAT II 地学(実験科目を除く) TAT II 物理学実験 TAT II 物理学実験	TAT II 数学 TAT II 物理学(実験科目を除く) TAT II 化学(実験科目を除く) TAT II 生物学(実験科目を除く) TAT II 地学(実験科目を除く) TAT II 物理学実験 学部共通専門科目	TAT II 数学 TAT II 化学(実験科目を除く) TAT II 生物学(実験科目を除く) TAT II 地学(実験科目を除く) 学部共通専門科目	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 学部共通専門科目	科学技術と社会 融合科目 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 学部共通専門科目	学部共通専門科目	科学技術と社会 学部共通専門科目
B	情報処理学 有機化学 I 生化学 I 農場実習	分析化学 I 有機化学 II 生化学 II 分子生物学 I 植物保護学	発生生物学 昆虫生物学 分子細胞生物学 分析化学 II 有機化学 III 生化学 III 植物生理学 免疫生物学	分子生物学 II 食品化学 I 微生物生化学 天然物有機化学 生物相関学 天敵微生物学	バイオロジカルコントロール 植物病理学 食品化学 II 栄養化学 I 遺伝子工学 神経生物学 応用微生物学 生理活性物質化学 科学英語 (応用生物科学特別講義 I) (応用生物科学特別講義 II) 応用生物科学実習	食品製造学 細胞工学 栄養化学 II 植物工学 代謝工学 蛋白質学 有機合成化学 生体高分子利用学 農業化学 病原微生物学 昆虫生理学	専門自由科目(食品工学) 食品衛生学 (応用生物科学特別講義 I) (応用生物科学特別講義 II)	
C		TAT II 化学実験 TAT II 生物学実験	TAT II 化学実験 TAT II 生物学実験	応用生物科学共通実験 I 応用生物科学共通実験 II 応用生物科学専門実験 I	応用生物科学専門実験 II 応用生物科学専門実験 III 応用生物科学専門実験 IV 応用生物科学専門実験 V 応用生物科学専門実験 VI			
D	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目 科学英語論文演習 I 卒業論文	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目 科学英語論文演習 II 卒業論文

() は隔年開講科目。

* 日本語科目, 日本事情科目は留学生対象科目。

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	環境や資源問題を理解するために必要な自然科学の基礎知識を身につけていること。
観点(B)	人類が直面する食料・生命・資源・環境問題に関わる世界水準の自然科学研究を理解でき、科学的に思考する力を有していること。
観点(C)	環境と資源の科学に必要な基礎的技能・技術を習得していること。
観点(D)	環境資源問題に関わる幅広い見識をもち、異なる文化の人々ともコミュニケーションできる力を備えていること。

区分	授業科目	観 点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	大学導入科目				○
	自校教育		○		
	科学技術と社会			○	
	融合科目	○			
	共生人文社会科学 A	○			
	共生人文社会科学 B	○			
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	*日本語科目				○
	*日本事情科目				○
	TAT I 数学	○			
	TAT I 物理学	○			
	TAT I 化学	○			
	TAT I 生物学	○			
	TAT II 数学	○			
	TAT II 物理学	○			
TAT II 化学	○				
TAT II 生物学	○				
TAT II 地学	○				
学科共通科目	情報処理学			○	
	地球化学	○			
	環境分析化学	○			
	大気化学	○			
	水溶液化学	○			
	環境情報学	○			
	環境資源土壌学	○			
	植物組織形態制御学	○			
	生化学	○			
	機器分析化学	○			
	微生物生理生態学	○			
	環境資源有機化学	○			
	樹木生態生理学	○			
	環境資源科学実習			○	
	環境分子生物学	○			
	環境計測学	○			
	分子動態化学	○			
	森林科学概論		○		
	環境アセスメント学		○		
	科学英語論文購読	○	○		○
卒業論文	○	○	○	○	

区分	授業科目	観 点			
		A	B	C	D
学科共通科目	環境資源科学特別講義 I	●	○		
	環境資源科学特別講義 II	●	○		
	環境資源科学特別講義 III	●	○		
	環境資源科学特別講義 IV	●	○		
	環境資源科学実験 I (物理学応用)			○	
	環境資源科学実験 II (化学応用)			○	
	環境資源科学実験 III (生物学応用)			○	
	環境資源科学実験 IV (地学)			○	
	学科専門科目	住環境学	○	●	
資源リサイクル学		○	●		
地圏環境学		○	●		
大気環境学		○	●		
水界環境学		○	●		
生態系保全学		○	●		
森林資源科学		○	●		
環境気象学		○	●		
資源高分子化学		○			
資源材料・構造力学		○			
環境汚染化学		○	●		
環境微生物学		○	●		
エコマテリアル学		○	●		
環境毒性学		○	●		
資源高分子物理学		○			
森林資源形成学		○			
植物資源化学		○			
生分解学		○			
森林資源利用学		○	●		
地球環境化学		○	●		
環境植物学	○	●			
設計製図学			○		
住環境構造学	○				
ライフサイクルアセスメント		●			
資源分解・廃棄学	○	●			
CAD 設計演習			○		
学部共通専門科目	○				

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。

*日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

※ 観点の (A), (B), (C), (D) はそれぞれディプロマ・ポリシーの観点に対応する。

観点	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B TAT I 数学 TAT I 物理学 TAT I 化学 TAT I 生物学 地球化学	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B TAT I 数学 TAT II 物理学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 環境分析化学 環境計測学	TAT II 数学 TAT II 物理学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 大気化学 水溶液化学 環境情報学 環境資源科学特別講義 I 学部共通専門科目	TAT II 数学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 環境資源土壌学 植物組織形態制御学 生化学 環境資源科学特別講義 II 資源高分子化学 資源材料・構造力学 学部共通専門科目	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 機器分析化学 微生物生理生態学 環境資源有機化学 樹木生態生理学 環境資源科学特別講義 III 資源高分子物理学 森林資源形成学 植物資源化学工学 生分解学 学部共通専門科目	融合科目 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 環境分子生物学 分子動態化学 環境資源科学特別講義 IV 住環境構造学 学部共通専門科目	学部共通専門科目 卒業論文 科学英語論文購読	学部共通専門科目 卒業論文
B	自校教育 住環境学	資源リサイクル学 地圏環境学 大気環境学 水界環境学	生態系保全学 森林資源科学 環境気象学	環境汚染化学 環境微生物学 エコマテリアル学	環境毒性学 森林資源利用学 地球環境化学 環境植物学	森林科学概論 環境アセスメント学 ライフサイクルアセスメント 資源分解・廃棄学	卒業論文 科学英語論文購読	卒業論文
C	科学技術と社会 情報処理学			環境資源科学実験 I (物理学応用) 環境資源科学実験 II (化学応用)	環境資源科学実習 環境資源科学実験 III (生物学応用) 環境資源科学実験 IV (地学)	科学技術と社会 設計製図学	卒業論文	科学技術と社会 CAD 設計演習 卒業論文
D	大学導入科目 リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目 卒業論文 科学英語論文購読	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目 卒業論文

* 日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

地域生態システム学科

カリキュラム・マップ

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	広範囲に及ぶ生命・食料生産・環境に関する課題に取り組むための幅広い基礎学力を身につけ、異なる文化の人々とも円滑にコミュニケーションができる能力を持っていること。
観点(B)	森林・農村・都会を連続した地域と捉え、農の営みや自然と人間活動の多様な関係を対象として、自然科学と人文社会科学の協働による地域管理・計画に関する知識を身につけ、食料・生命・資源・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学研究が理解できていること。
観点(C)	人類が直面する食料・生命・資源・環境問題等の課題に対して、科学的な解決方法を構想できていること。
観点(D)	農林水産業および食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、高い倫理性を持って、その発展に寄与することをめざした行動ができていること。

区分	授業科目	観 点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	大学導入科目				○
	自校教育			○	
	科学技術と社会		○		
	融合科目	○			
	共生人文社会科学 A	○			
	共生人文社会科学 B	○			
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	*日本語科目				○
	*日本事情科目				○
	TAT I 数学	○			
	TAT I 物理学	○			
	TAT I 化学	○			
	TAT I 生物学	○			
	TAT II 数学	○			
	TAT II 物理学	○			
	TAT II 化学	○			
TAT II 生物学	○				
TAT II 地学	○				
学科共通科目	地域生態システム学	○			
	地域生態システム学実習 I	○			
	地域生態システム学実習 II	○			
	地域生態システム学セミナー	○			
	地域生態システム学特別演習 I		○		
	地域生態システム学特別演習 II			○	
	地域生態システム学特別演習 III				○
	フィールド安全管理学		○		
	情報処理学		○		
	インターンシップ			○	
	ECO-TOP インターンシップ I			○	
	ECO-TOP インターンシップ II			○	
	卒業論文	○	○	○	●
パッケージ科目・推奨科目	生物多様性保全学	○			
	水資源管理論	○			
	地域社会システム計画論	●	○	○	
	人と動物の関係論	●	○	○	
	測量学 I	●	○		
	植生管理学	●	○	○	
	森林生態学	●	○		
	水文学	●	○		
	土壌物理学	●	○		
	地域パートナーシップ論	●	○	○	

区分	授業科目	観 点			
		A	B	C	D
パッケージ科目・推奨科目	サステナブルツーリズム論	●	○	○	
	農業経済学	●	○		
	農の共生学	●	○		
	測量学 II	●	○		
	土壌生態管理学	●	○		
	森林計画学	●	○		
	山地保全学	●	○	○	
	森林生産システム学	●	○		
	GIS の基礎と演習	○	●		
	樹木学	●	○		
	応用力学	●	○		
	土質力学	●	○		
	水理学	●	○		
	農村地域計画学	●	○	○	
	農業機械学	●	○		
	エコマテリアル	●	○		
	環境哲学	●	○	○	
	環境文化史	●	○	○	
	比較心理学	●	○	○	
	環境公法	●	○	○	
	環境経済学	●	○	○	
	持続可能な開発のための教育(ESD)	●	○	○	
	農業経営学	●	○		
	動物生態学	●	○	○	
	生業民俗学	●	○	○	
	健康アメニティ論	●	○	○	
	インタープリテーション技術	○	○	○	●
	造園学	●	○	○	
	動物環境生理学	●	○		
	リモートセンシング論	●	○		
	森林施設工学	●	○		
	砂防工学	●	○		
森林立地学	●	○			
農地工学	●	○			
地盤工学	●	○			
生物生産環境学	●	○			
機械基礎工学	●	○			
熱工学	●	○			
構造解析学	●	○			
生態・環境情報工学	●	○			
環境教育学	●	○	○		
環境倫理学	●	○	○		

区分	授 業 科 目	観 点			
		A	B	C	D
パッケージ科目・推奨科目	比較行動学	●	○		
	地域環境社会学	●	○	○	
	国際協力論	●	○	○	
	農業市場学	●	○		
	野生動物保全技術論	●	○	○	
	景観生態学	●	○	○	
	植生学	●	○		
	野生動物保全学	●	○	○	
	環境生理生態学	●	○	○	
	森林施業論	●	○		
	森林政策学	●	○	○	
	循環資源利用学概論	●	○		
	農産プロセス工学	●	○		
	灌漑排水工学	●	○		
	水利施設工学	●	○		
	土壌物質動態学	●	○		
	動物福祉論	●	○	○	
	共生社会思想	●	○	○	
	国際開発論	●	○	○	
	地方自治論	●	○	○	
	バイオマス利用論	●	○	○	
持続的森林管理論	●	○	○		
作物栽培学	●	○			
土地利用学	●	○			
実験・実習科目	測量学実習Ⅰ	○	●		
	地域社会システム調査実習	○	●		
	森林計画学実習	○	●		
	測量学実習Ⅱ	○	●		
	植生管理学実習	○	●		
	育林学実習	○	●		
	山地保全・砂防計画学実習	○	●		
	樹木学実習	○	●		
	農業環境工学実験Ⅰ	○	●		
	農業環境工学実習	○	●		
	水理学演習	○	●		○
	農村地域計画学演習	○	●		○
	野生動物保全学実習	○	●		○
	比較行動学実験・実習	○	●		○
	森林保護・樹木医学実習	○	●		○
	森林土壌学実験・実習	○	●		○
	森林生産システム学実習	○	●		○
	農業環境工学実験Ⅱ	○	●		○
	CAD 設計演習	○	●		○
	農場実習Ⅰ	○	●		
農場実習Ⅱ	○	●			
学部共通専門科目	○				

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。

* 日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

※ 観点の (A), (B), (C), (D) はそれぞれディプロマ・ポリシーの観点に対応する。

観点	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B TAT I 数学 TAT I 物理学 TAT I 化学 TAT I 生物学 地域生態システム学 地域生態システム学実習 I	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B TAT I 数学 TAT II 物理学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 地域生態システム学実習 II 生物多様性保全学 水資源管理論 地域社会システム計画論 人と動物の関係論	TAT II 数学 TAT II 物理学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 測量学 I 植生管理学 森林生態学 水文学 土壌物理学 地域パートナーシップ論 サステイナブルツーリズム論 農業経済学 学部共通専門科目	TAT II 数学 TAT II 化学 TAT II 生物学 TAT II 地学 農の共生学 測量学 II 土壌生態管理学 森林計画学 山地保全学 森林生産システム学 樹木学 応用力学 土質力学 水理学 農村地域計画学 農業機械学 エコマテリアル 環境哲学 環境文化史 比較心理学 環境公法 環境経済学 持続可能な開発のための教育(ESD) 農業経営学 動物生態学 学部共通専門科目	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 地域生態システム学セミナー 生業民俗学 健康アメンティ論 造園学 動物環境生理学 リモートセンシング論 森林施設工学 砂防工学 森林立地学 農地工学 地盤工学 生物生産環境学 機械基礎工学 熱工学 構造解析学 生態・環境情報工学 環境教育学 環境倫理学 比較行動学 地域環境社会学 国際協力論 農業市場学 バイオマス利用論 学部共通専門科目	融合科目 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 野生動物保全技術論 景観生態学 植生学 野生動物保全学 環境生理生態学 森林施業論 森林政策学 循環資源利用学概論 農産プロセス工学 灌漑排水工学 水利施設工学 土壌物質動態学 動物福祉論 共生社会思想 国際開発論 地方自治論 学部共通専門科目	持続的森林管理論 作物栽培学 土地利用学 学部共通専門科目	学部共通専門科目
B	科学技術と社会 フィールド安全管理学 情報処理学		測量学実習 I 地域社会システム調査実習	GIS の基礎と演習 森林計画学実習 測量学実習 II 植生管理学実習	育林学実習 山地保全・砂防計画学実習 樹木学実習 農業環境工学実験 I 農業環境工学実習 水理学演習 農村地域計画学演習 野生動物保全学実習 比較行動学実験・実習 森林保護・樹木医学実習	科学技術と社会 地域生態システム学特別演習 I 森林土壌学実験・実習 森林生産システム学実習 農業環境工学実験 II CAD 設計演習	農場実習 I	科学技術と社会 農場実習 II
C	自校教育		インターンシップ ECO-TOP インターンシップ I ECO-TOP インターンシップ II	インターンシップ ECO-TOP インターンシップ I ECO-TOP インターンシップ II	インターンシップ ECO-TOP インターンシップ I ECO-TOP インターンシップ II	インターンシップ ECO-TOP インターンシップ I ECO-TOP インターンシップ II	地域生態システム学特別演習 II インターンシップ ECO-TOP インターンシップ I ECO-TOP インターンシップ II	インターンシップ ECO-TOP インターンシップ I ECO-TOP インターンシップ II
D	大学導入科目 リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目 インタープリテーション技術 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目	リテラシー科目 * 日本語科目	リテラシー科目 * 日本語科目 * 日本事情科目 地域生態システム学特別演習 II 卒業論文

* 日本語科目, 日本事情科目は留学生対象科目。

共同獣医学科

カリキュラム・マップ

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	獣医師としての任務を遂行するため、高度な専門的知識のみならず、低学年次からの導入教育により論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つこと。
観点(B)	動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する実践力を兼ね備えた、基礎的な知識・技能を持つこと。
観点(C)	生命現象の解明を基盤とする生命科学や応用開発等において、獣医学を基礎とした問題解決能力を持つこと。
観点(D)	地球規模での感染症や畜産物の安全確保などに対して貢献する、知識・技能を持つこと。

科目区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
全学共通教育科目	大学教育導入	○				
	スポーツ健康	○				
	外国語	○				
	人文社会科学	○				
	理数系基礎	○				
	外国語アドバンス	○				
	持続可能な環境・社会	○				
	理数系アドバンス	○				
	* 日本語科目				○	
	* 日本事情科目				○	
	専門教育科目	基礎獣医学科目群	獣医学概論	○		
獣医倫理			○			
獣医事法規					○	
運動器・神経系解剖学				○		
内臓・脈管系解剖学				○		
解剖学実習				○		
組織学				○		
組織学実習				○		
発生学				○		
統合生理学				○		
器官制御生理学				○		
内分泌学				○		
生理学実習				○		
獣医遺伝育種学				○		
動物行動学				○		
基礎獣医学科目群		実験動物学		○		
		実験動物学実習		○		
		基礎放射線学		○		
		獣医基礎生化学		○		
		獣医代謝生化学		○		
		生化学実習		○		
		基礎薬理学		○		
		統合薬理学		○		
		薬理学実習		○		
		病態獣医学科目群	微生物学総論		○	
			病原微生物学		○	
			微生物学実習		○	
免疫学				○		
原虫・原虫病学				○		
蠕虫・蠕虫病・衛生動物学				○		
寄生虫学実習				○		

科目区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
病態獣医学科目群	動物感染症学				○	
	家禽疾病学				○	
	魚病学				○	
	動物病理学総論		○			
	動物病理学各論 A (主要臓器)		○			
	動物病理学各論 B (他臓器・組織)		○			
	病理学実習		○			
	基礎獣医学科目群	公衆衛生学総論				○
		疫学				○
		人獣共通感染症学				○
		環境衛生学				○
		公衆衛生学実習				○
		毒性学				○
		毒性学実習				○
		動物衛生学				○
動物衛生学実習					○	
野生動物学					○	
食品衛生学					○	
食品衛生学実習					○	
公衆衛生実践実習				○		
専門教育科目	応用獣医学科目群	内科学総論		○		
		呼吸器病・循環器病学		○		
		消化器病学		○		
		外科学総論		○		
		麻酔学・手術学		○		
		軟部外科学		○		
		小動物内科学実習・基礎編		○		
		小動物内科学実習・応用編			○	
		小動物外科学実習・基礎編		○		
		小動物外科学実習・応用編			○	
		実証獣医学科目群	内分泌病・皮膚病学		○	
			代謝病・中毒学		○	
	血液免疫病学			○		
	神経病・運動器病学			○		
	泌尿器病・生殖器病学			○		
	臨床病理学			○		
	臨床薬理学			○		
	臨床腫瘍学			○		
	臨床栄養学			○		
	画像診断学			○		
	画像診断実習			○		
	眼科学			○		
	動物行動治療学			○		
	総合参加型臨床実習Ⅰ				○	
	総合参加型臨床実習Ⅱ				○	
	総合参加型臨床実習Ⅲ			○		
	総合参加型臨床実習Ⅳ			○		

科目区分	授 業 科 目	観 点					
		A	B	C	D		
専門教育科目	実証獣医学科目 大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	○				
		臨床繁殖学	○				
		繁殖機能制御学実習	○				
		臨床繁殖学実習	○				
		産業動物内科学	○				
		産業動物外科学	○				
		馬臨床学	○				
		大動物臨床実習・基礎編	○				
		大動物臨床実習・応用編			○		
		総合参加型臨床実習V			○		
		総合参加型臨床実習VI			○		
		選択科目	インターンシップ				○
			海外実習				○
	人と動物関係学			○			
	動物品種論			○			
	食品安全管理学				○		
	動物園動物学					○	
	国際感染症制御学					○	
	専修科目	獣医学演習			○		
		卒業研究			○		

* 日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

観点	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A	大学教育導入 スポーツ健康 外国語 人文社会科学 理数系基礎 外国語アドバンス 持続可能な環境・社会 理数系アドバンス 獣医学概論	スポーツ健康 外国語 人文社会科学 理数系基礎 外国語アドバンス 持続可能な環境・社会 理数系アドバンス 獣医学倫理	外国語 人文社会科学 理数系基礎 理数系アドバンス	外国語 人文社会科学 持続可能な環境・社会 理数系アドバンス	内臓・脈管系解剖学 解剖学実習 組織学 組織学実習 統合生理学 獣医遺伝育種学 実験動物学 人と動物関係学 微生物学実習	内臓・脈管系解剖学 解剖学実習 器官制御生理学 生理学実習 動物行動学 実験動物学実習 基礎放射線学 獣医基礎生化学 微生物学総論 微生物学実習	統合薬理学 免疫学 細菌・真菌・衛生動物学 寄生虫学実習 動物病理学総論	病理学実習 内科学総論 呼吸器病・循環器病学 外科学総論 麻酔学・手術学 小動物科学実習・基礎編 小動物科学実習・基礎編 繁殖機能制御学 繁殖機能制御学実習	動物理学論A(住環境) 動物理学論B(臓器・臓) 病理学実習 消化器病学 軟部外科科学 臨床繁殖学 臨床繁殖学実習	内分泌病・皮膚病学 神経病・運動器病学 臨床薬理学 画像診断学 画像診断実習 産業動物内科学 産業動物外科科学 大動物臨床実習・基礎編	代動病・中毒学 血液免疫病学 泌尿器病・生殖器病学 臨床病理学 臨床腫瘍学 臨床栄養学 馬臨床学	眼科学 動物行動治療学	
	B												
C													
D	* 日本語科目 * 日本事情科目	* 日本語科目 * 日本事情科目	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	* 日本語科目 * 日本事情科目 動物園動物学	

* 日本語科目, 日本事情科目は留学生対象科目。

● I. 授業について ●

1. 基本的事項

(1) 学年と学期

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。学年を分けて前学期、後学期の2学期とします。
前学期は4月1日から9月30日までとし、後学期は10月1日から翌年3月31日までとします。

(2) 平成25年度学年暦

		平成25年度前学期								
月	日	月	火	水	木	金	土	学部年間予定		
	4		1	2	3	4	5	6	1日	学年開始, 前学期開始
7		8	9	10	11	12	13	1~2日	春季休業	
14		15	16	17	18	19	20	3~6日	定期健康診断	
21		22	23	24	25	26	27	5日	入学式	
28		29	30					8日	新入生オリエンテーション	
5				1	2	3	4			
	5	6	7	8	9	10	11	11日	月曜日の授業を実施	
	12	13	14	15	16	17	18			
	19	20	21	22	23	24	25			
	26	27	28	29	30	31		31日	創立記念日 (通常どおり授業実施)	
6							1	1日	月曜日の授業を実施	
	2	3	4	5	6	7	8			
	9	10	11	12	13	14	15	15日	金曜日の授業を実施	
	16	17	18	19	20	21	22			
	23	24	25	26	27	28	29			
7		1	2	3	4	5	6			
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20	15日	海の日: 通常どおり授業実施	
	21	22	23	24	25	26	27	23~29日	前学期調整期間	
	28	29	30	31				7月30日	夏季休業	
8					1	2	3			
	4	5	6	7	8	9	10	7月30日	夏季休業	
	11	12	13	14	15	16	17	~9月30日		
	18	19	20	21	22	23	24			
	25	26	27	28	29	30	31			
9		1	2	3	4	5	6	7月30日	夏季休業	
	8	9	10	11	12	13	14	~9月30日		
	15	16	17	18	19	20	21	18日	秋季修了式	
	22	23	24	25	26	27	28			
	29	30						30日	前学期終了	

※学年暦に変更があった場合は、本館掲示板に変更点を掲示します。

なお、学年暦は毎年更新されます。平成26年度以降の学年暦は、WEB 掲示板、本館掲示板および本学ホームページに掲載します。

日・祝日
 休業期間
 調整期間

平成 25 年 度 後 学 期									
10 月	日	月	火	水	木	金	土	学 部 年 間 予 定	
				1	2	3	4	5	1日
	6	7	8	9	10	11	12	2日	秋季入学式
	13	14	15	16	17	18	19	14日	体育の日：通常どおり授業実施
	20	21	22	23	24	25	26	19日	金曜日の授業を実施
	27	28	29	30	31				
11 月	日	月	火	水	木	金	土		
						1	2	4日	振替休日：通常どおり授業実施
	3	4	5	6	7	8	9	8～10日	学園祭
	10	11	12	13	14	15	16	16日	金曜日の授業を実施
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
12 月	日	月	火	水	木	金	土		
		1	2	3	4	5	6	7	7日
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21	12月21日	冬季休業
	22	23	24	25	26	27	28	～1月5日	
	29	30	31						
1 月	日	月	火	水	木	金	土		
				1	2	3	4	6日	授業開始
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18	28日	後学期調整期間
	19	20	21	22	23	24	25	～2月3日	
	26	27	28	29	30	31			
2 月	日	月	火	水	木	金	土		
							1		
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28			
3 月	日	月	火	水	木	金	土		
							1		
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29	26日	卒業式
	30	31						31日	学年終了，後学期終了

(3) 授業時間割表

- ①授業は、学期ごとに週単位で編成された授業時間割表に従って行われます。ただし、不定期開講や集中講義の開講日時・場所についてはその都度 WEB 掲示板に掲示します。
- ②授業時間割表は、毎学期の授業開始約 1 週間前に掲示するとともに各自に配付します。
- ③授業時間割表の変更、休講、補講などがある場合は、その都度掲示しますので、必ず確認してください。
- ④教育課程表の開講予定時期と実際の開講時期が変更されることがあります。時間割表を参照の上、不明な点は教務係に問い合わせして下さい。

(4) 授業時間

授業時間は、下記のとおりです。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限
時 間	8 : 45 } 10 : 15	10 : 30 } 12 : 00	13 : 00 } 14 : 30	14 : 45 } 16 : 15	16 : 30 } 18 : 00	18 : 15 } 19 : 45

授業時間は、実験・実習・演習など特定の場合を除き、一区切90分間とします。

(5) 交通機関の運休などによる休講

天災等により交通機関が運休し、または運休する予定である旨、JR 中央線・JR 武蔵野線および京王線のうち2路線以上 (以下交通機関という。) が布告している場合、当該日の授業については次のように取り扱います。

- (1) 午前6時までに、当該事由による交通機関の運休が解決した場合、平常通り授業を行います。
- (2) 午前10時までに、当該事由による交通機関の運休が解決した場合、午後の授業からを行います。
- (3) 午前10時を過ぎて、当該事由による交通機関の運休が解決しない場合は、午後も休講とします。

学長が登校停止を命じた場合は、次の申し合わせによります。

※授業等における欠席の取扱いに関する申し合わせ

～平成19年12月18日大学教育委員会承認～

大学が責任を負うべき措置として、学長が登校停止を命じた場合は、大学は当該学生にとって不利益とならないよう配慮し、出席停止期間について次のとおり取り扱う。なお、処分による登校停止は、これには含めない。

1. 授業の取扱い

授業については、欠席として扱わない。

2. 定期試験の取扱い

状況に応じ代替の試験又はレポート、中間試験若しくは出席状況等による評価を行い、これをもって定期試験による評価に代える。

(6) 学科の略号

授業時間割表，掲示等には，次の学科略号を用います。

【学科略号】

学 科	略 号
生 物 生 産 学 科	An
応 用 生 物 科 学 科	Bn
環 境 資 源 科 学 科	En
地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科	Rn
共 同 獣 医 学 科*	Vn

*岩手大学・東京農工大学農学部共同獣医学科

(7) 学籍番号

学籍番号は，履修届，試験の答案，諸証明書の発行申請などを記入する際に使用します。学籍番号は，8桁で以下のような決まりで割り振られます。

平成25年度（2013年度）入学生の学籍番号は，以下のようになります。

1	3	1	*	*	#	#	#
(入学年度)	(学部コード)	(学科コード)	(各学科連番)				

* (学科コード)

生 物 生 産 学 科：5 1
応 用 生 物 科 学 科：5 2
環 境 資 源 科 学 科：5 3
地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科：5 4
共 同 獣 医 学 科：5 6

生 物 生 産 学 科：1 3 1 5 1 0 0 1～

応 用 生 物 科 学 科：1 3 1 5 2 0 0 1～

環 境 資 源 科 学 科：1 3 1 5 3 0 0 1～

地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科：1 3 1 5 4 0 0 1～

共 同 獣 医 学 科：1 3 1 5 6 0 0 1～

なお，3年次編入学生は，下3桁が501から割り振られます。

(例) 平成27年度（2015年度）に生物生産学科に3年次編入する者の学籍番号

1 5 1 5 1 5 0 1～

(8) 学生への周知方法

- ・府中地区事務部学生支援室・教務第一係・教務第二係（以下，この履修案内において「教務係」という。）から学生への連絡は，原則としてWEB 掲示板に掲示することにより行います。
- ・必要と判断された場合を除いて，学生個人に直接連絡することはありません。
- ・毎日一回はWEB 掲示板と学籍メールを確認してください。

1) WEB 掲示板

本学ホームページの「学生生活」から見るができます。

学外からもアクセス可能です。

本学ホームページ URL <http://www.tuat.ac.jp/>



1) アクセス方法

本学ホームページ

→① 学生生活

→② WEB 掲示板

→③ WEB 掲示板へ

(別ウィンドウで開きます)

もしくは下記からアクセスしてください。



2) 掲示板検索フォームから

・「所属」

・「カテゴリー」

・「記事内容」

の情報を絞り込み、必要な情報を確認することができます。

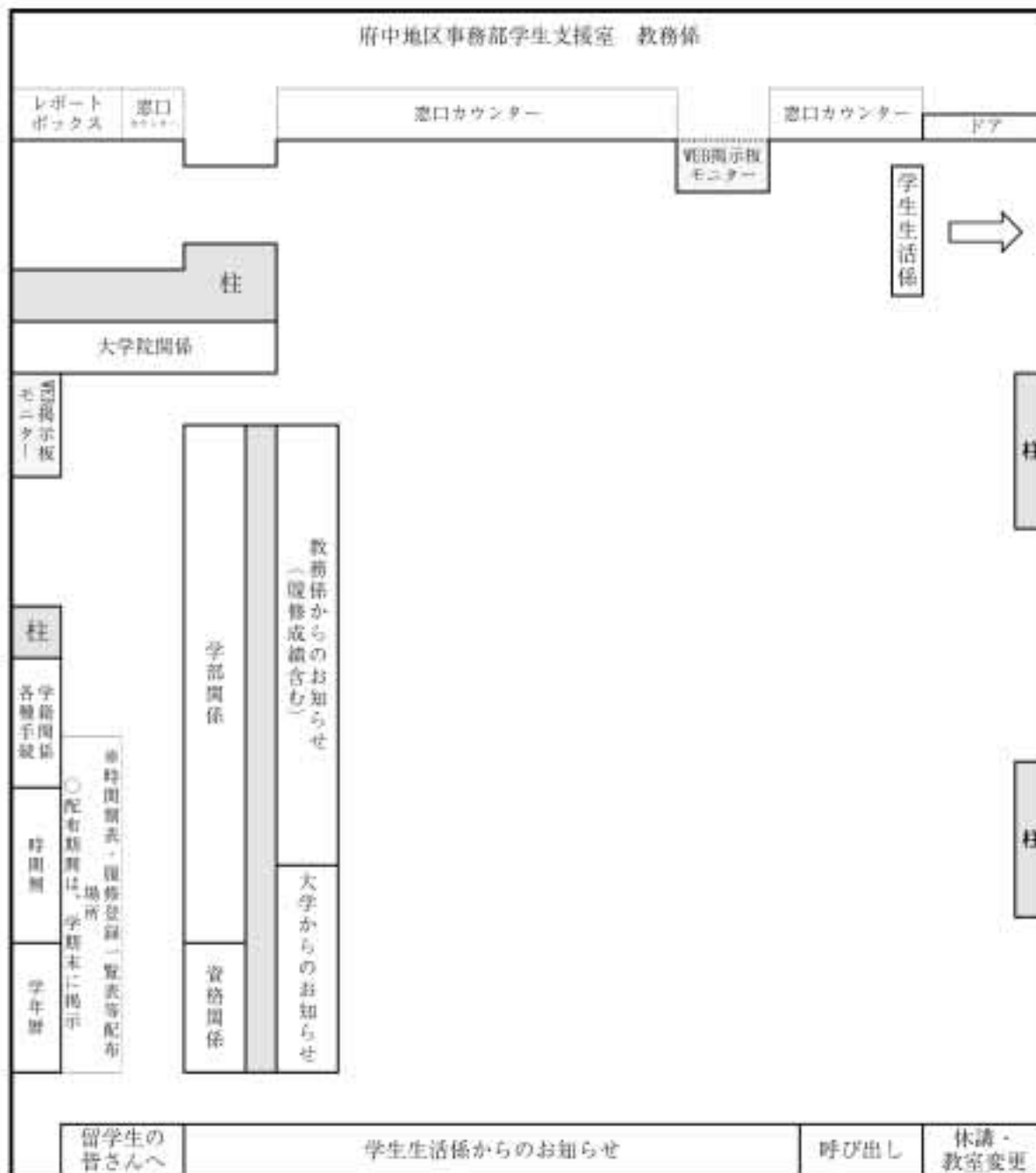
- ◆ WEB 掲示板では「授業関係」「奨学金・授業料免除」の他、「遺失物情報」を検索することができます。重要な掲示を見逃さないよう、各自で確認し、有効に活用して下さい。

2) 本館掲示板配置図

WEB 掲示板に掲載することができないクラス分けや多量の周知内容については、**本館 1F 教務係前**に掲示をします。

なお、その場合は、WEB 掲示板に掲示を開始した旨のお知らせをします。

* 今後掲示板の配置が変わる場合もありますので、注意してください。



3) 学籍メール

呼び出しなど個人宛のお知らせについては、下記メールアドレスへ送信します。

500《学籍番号》@st.tuat.ac.jp

◆メールの確認方法や、随時受信確認を行っているメールアドレスへ転送する方法については、【総合情報メディアセンター利用の手引き】を参照して下さい。

(9) 教務係窓口受付時間について

教務係窓口では、修学に関する手続・質問等を取り扱っています。
教務係窓口受付時間は、以下のとおりです。

平日及び土曜・祝日開講日 8：30～17：15

授業時間と窓口受付時間とは異なります。また、授業と授業の間の休憩時間は窓口が混雑しますので、履修している授業のない時間帯に来ると、各種手続きや申し込み等の用件を早く済ませることができます。

(10) 本学ホームページのアドレスについて

学生生活に関わる情報は本学ホームページでも随時発信しています。
<http://www.tuat.ac.jp/>

2. 授業科目区分と卒業要件

本学農学部を卒業するためには、在学中に一定の単位を修得する必要があります。その単位数などについては学則、農学部教育規則その他の申し合せ事項で規定されています。これらについては学生便覧に記載されていますので、熟読し理解しておいてください。

(1) 単位数の算定基準

大学では各授業科目について、その科目を履修し合格と認められた者に、定められた単位を与える単位制度により授業を行っています。

大学設置基準には「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位を計算するものとする」と定められています。本学では、この基準に基づき、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修などを考慮して、次のとおり学則で定めています。

- 1) 講義科目については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 2) 外国語、体育実技、演習科目などについては、30時間の授業をもって1単位とする。
- 3) 実験・実習科目などについては、45時間の授業をもって1単位とする。

従って、「1単位の授業を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」ということは、2単位の講義科目では30時間の授業と、自ら行う60時間の予習・復習が必要となります。なお、本学では、授業時間割上の1コマ(90分の授業)を2時間としていますので、2単位の授業科目では90分の講義が15回行われます。

このように単位の修得のためには、教室内での授業の他に自主的な学修が不可欠となっていますので、履修計画には上記のことを十分留意してください。

(2) 授業科目の区分

1) 教育課程上の授業科目区分

本学部の教育課程は、全学共通教育科目、専門科目および開放科目からなっています。各科目区分の教育目的は次のとおりです。

①全学共通教育科目 (P.34～)

自然科学基礎教育のための「TAT I・II」科目と教養教育科目からなります。

②専門科目 (P.38～)

主に学科の教育目的に即して専門の学術を修得するための科目です。

なお、専門科目の中には、すべての学科に共通する科目(学部共通専門科目)が含まれます。

③開放科目 (P.50)

成績が優秀で大学院への進学意欲のある学部4年次生に対して学府で開講されている授業科目です。

2) 開講上の形態による授業区分

教育課程上の授業科目を開講上の形態から、通常科目、通年科目、集中授業科目、卒業論文に分けて示す場合があります。

①通常授業科目は、前学期または後学期のいずれかで履修する科目です。

②通年科目は、前学期から後学期にまたがって1年間で履修する科目です。

(ただし、共同獣医学科では2年間の通年科目もあります。)

③集中授業科目は、一定期間に集中してまたは不定期に行われる科目です。

④卒業論文は、学科で開講期間が異なり An は3年後学期から1年半、Bn・En は4年前学期から1年間の開講となります。Rn は履修案内 p.73を参照してください。

(3) 卒業について

1) 卒業要件

卒業の要件は、次のとおりです。

- 修業年限を満たす。
- 卒業に必要な所定の授業科目の単位を修得する。

2) 卒業要件を満たすには

履修に関する相談は、教務係窓口および学科教育委員が受けますが、卒業要件の確認は学生個人の責任で行われるべきものです。以下を参照し、年度毎に履修計画を見直し、卒業に必要な科目および単位数に不足がないか確認してください。

- ①学生便覧、履修案内の教育課程表および所属学科のページを熟読する。
- ②正しく履修登録し、単位を修得する。
- ③成績表、履修案内を参考に修得科目、単位数および不足単位数等を確認する。

3) 卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには下記表に記載されている単位数が最低でも必要となります。なお、単位数以外にも学科によって必修、選択必修および選択科目などの最低修得条件がありますので、履修案内の教育課程表を必ず参照してください。

学科名(略称)	全学共通教育科目													合計 a + b	専門科目				自由 選択 単位 d	合計 単 位 a + b + c + d						
	大学 導入 科目	持続可能な 地球のための 科学技術		共生人文社会 科学			リ テ ラ シ ー 科 目	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 科 目	小 計 a	自然科学系基礎科目					小 計 b	学科専門科目					農 学 部 共 通 科 目	小 計 c				
		農 学 基 礎 ゼ ミ	自 校 教 育 科 目 MORE SENSE 入 門	科 学 技 術 と 社 会	融 合 科 目	共 生 人 文 社 会 科 学 A				共 生 人 文 社 会 科 学 B		T A T I	T A T II					必 修					選 択 必 修	選 択		
										人 間 と 文 化	社 会 の 構 造		数 学			物 理 学	化 学								生 物 学	地 学
An	1	1	6		8	8	2	26	10	18					28	54	12	0	48	2	62	8	124			
Bn	1	1	6		8	8	2	26	10	18					28	54	2	0	60	2	64	6	124			
En	1	1	6		8	8	2	26	10	19					29	55	0	0	53	2	55	14	124			
Rn	1	1	6		8	8	2	26	10	16					26	52	11	0	53	2	66	6	124			

学科名(略称)	全学共通教育科目							専門教育科目							自由 選択 単位 c	合計 a + b + c		
	大学 導入 教育	ス ポ ー ツ 健 康	外 国 語	人 文 社 会 科 学	理 数 系 基 礎	配 置 大 学 特 色 科 目 群		基 盤 獣 医 学 科 目			実 証 獣 医 学 科 目		選 択 科 目	専 修 科 目			小 計 b	
						ア ド バ ン ス	外 国 語	環 境 ・ 社 会	持 続 可 能 な	ア ド バ ン ス	理 数 系	基 礎 獣 医 学 科 目 群						病 態 獣 医 学 科 目 群
Vn	1	2	6	10	10	15		44	41	28	19	35	15	6	14	158	0	202

なお、自由選択単位に充当できる単位は下記ようになります。

- ①自分の所属する学科が指定した各科目区分の卒業に必要な最低修得単位数を超えて修得した単位
- ②自分の所属する学科が指定したカリキュラム以外で修得した単位

※自由選択単位に充当できない授業科目もありますので注意して下さい。(例 教職課程、博物館学芸員課程など)

4) 早期卒業

本学の標準修業期間は4年（共同獣医学科は6年）となっておりますが、2年次後学期までの全学期において成績優秀者（履修案内 p.26）として認定され、2年次後学期までの必修科目をすべて修得済みである場合、早期卒業の申請をすることができます。早期卒業を認められた学生は、3年以上の在学期間で卒業が可能となり、標準修業期間より短い期間で大学院への進学や新卒としての就職が可能になります。

早期卒業対象者で申請を希望する学生は、3年次前学期開始時に教務係まで申し出てください。

ただし、下記の学生は早期卒業対象者となりません。

- ①共同獣医学科学生
- ②編入・転入・再入学者
- ③転学部・転学科者
- ④入学前既修得科目認定者
- ⑤入学前在籍期間認定者

5) 6月・9月卒業

修業年限を満たし、なおかつ農学部で定められている所定の要件を満たした者は6月・9月卒業の申請をすることができます。希望する学生は、学科教育委員と相談の上、所定の期日までに教務係に申請してください。

6) 成績不振学生の取り扱い

留年した学生および卒業の見込みがない学生については、入学時に申請している連帯保証人へ学業状況を通知します。なお、卒業の見込みがない学生とは、各学科で定められた基準（履修案内 p.85）を満たさない学生であり、4年次5月中旬以降に発行できる『卒業見込証明書』の発行ができません。

3. GPA 制度及び CAP 制度について

GPA（単位あたりの評価平均値）制度は履修した科目の成績の評価を具体的な数値としてあらわす制度であり、到達目標や学習時間の設定などを計画的に行うことができます。また、多くの科目について広く浅く学修するのではなく、精選した科目について十分な予習・復習の時間を使って深く学修し、内容を真に身につけることを目的に CAP 制度を導入しています。

(1) GPA (Grade Point Average) 制度

履修登録した各科目の成績を5段階（S, A, B, C および D）評価して、それぞれに4, 3, 2, 1 および 0 の評価点を与え、各科目の評価点に単位数を乗じた合計を履修登録した科目の単位数の合計で除して算出した値です。計算式は以下のようになります。

(授業科目の評価点×単位数) の総和

授業科目の履修登録単位数

※(授業科目の評価点×単位数) の総和を GPT という。(Grade Point Total)

GPA には、D 評価の履修登録単位数も計算式の分母に含まれます。例えば履修を途中で放棄して D 評価された科目がある場合は、GPA の値が大きく低下します。

GPA 対象科目の得点計算は、原則としてひとつの学期の終了時にその学期に行われた授業（GPA 対象科目）について行います。ただし、集中講義科目については、授業が行われた学期ではなく次の学期の GPA として計算します。また、通年科目については、授業が最終的に終了した学期の GPA として計算します。

下記の授業科目は GPA の対象科目になりません。

- 入学前既修得認定科目
- 他大学単位互換科目
- 教職課程の教職に関する科目
- 博物館学芸員課程科目
- 開放科目

(2) 成績優秀者

学期中に GPA 対象科目を20単位以上修得し、当該学期の GPA が3.5以上である学生は、成績優秀者と認定されます。ただし、下記の学生は成績優秀者に認定されません。

- ①再入学・転入学・編入学等により入学した学生。
- ②本学の単位として認定された「入学前既修得科目単位（学生が本学入学以前に他大学等で修得した単位）」が20単位を超える学生。

(3) CAP 制度

CAP 制度とは1学期に履修登録できる単位数に上限を定めた制度です。

ただし、編入学により入学した学生には CAP 制度は適用されません。

本学では、履修登録できる授業科目の単位数（合計単位数）の上限は、1学期あたり26単位です。しかし、成績優秀者として認定された学生は、認定対象となった学期の次の学期には1学期あたり30単位まで履修することができます。

◎1学期あたり26単位まで、成績優秀者として認定されたなら30単位まで履修登録可能

CAP 制度の対象となる授業科目は、卒業要件の単位となる通常授業科目に限ります。下記の授業科目は CAP 制度の対象にはなりません。

- 集中講義科目（時間割表欄外に記載の集中講義科目）
- 通年科目

- 卒業論文
- 外国語検定等による認定科目
- 入学前既修得認定科目
- 他大学単位互換科目
- 共同獣医学科の実習科目
- 教職課程の教職に関する科目
- 博物館学芸員課程科目
- 開放科目

(4) 卒業要件・GPA・CAP 対応表

科目区分における卒業要件・GPA・CAP 対応表は下記のとおりです。

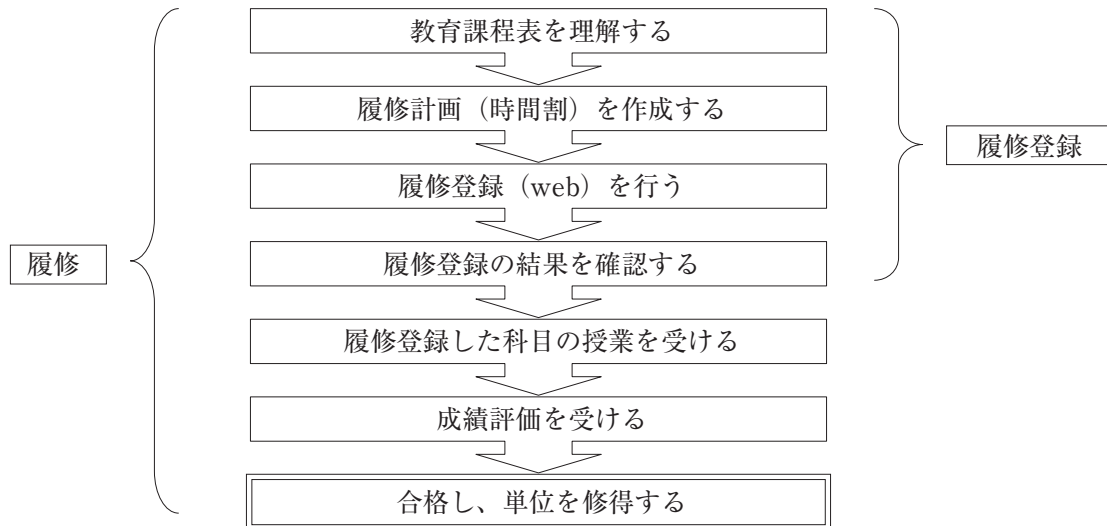
なお、外国語検定等による認定科目、入学前既修得認定科目および他大学単位互換科目には卒業要件認定単位数には上限があります。

科目区分	卒業要件	GPA	CAP	備考
通常の科目	○	○	○	
集中授業科目	○	○	×	GPA は終了学期に算入
通年科目	○	○	×	GPA は終了学期に算入
卒業論文	○	○	×	GPA は終了学期に算入
外国語検定等による認定科目	○	○	×	
入学前既修得認定科目	○	×	×	
他大学単位互換科目	○	×	×	
教職課程の教職に関する科目	×	×	×	
博物館学芸員課程科目	×	×	×	
共同獣医学科の実習科目	○	○	×	
開放科目	×	×	×	

4. 履修手続きについて

(1) 履修とは

『履修』とは決められた教育課程を習い修めることで、『履修登録』から『単位修得』までの一連の流れのことをいいます。『履修登録』とは、農学部が定めるルールに従って、学生各自が履修を希望する科目を『履修登録』し、かつ履修登録内容確認期間内に本人が責任を持って『履修登録結果を確認』する手続きです。



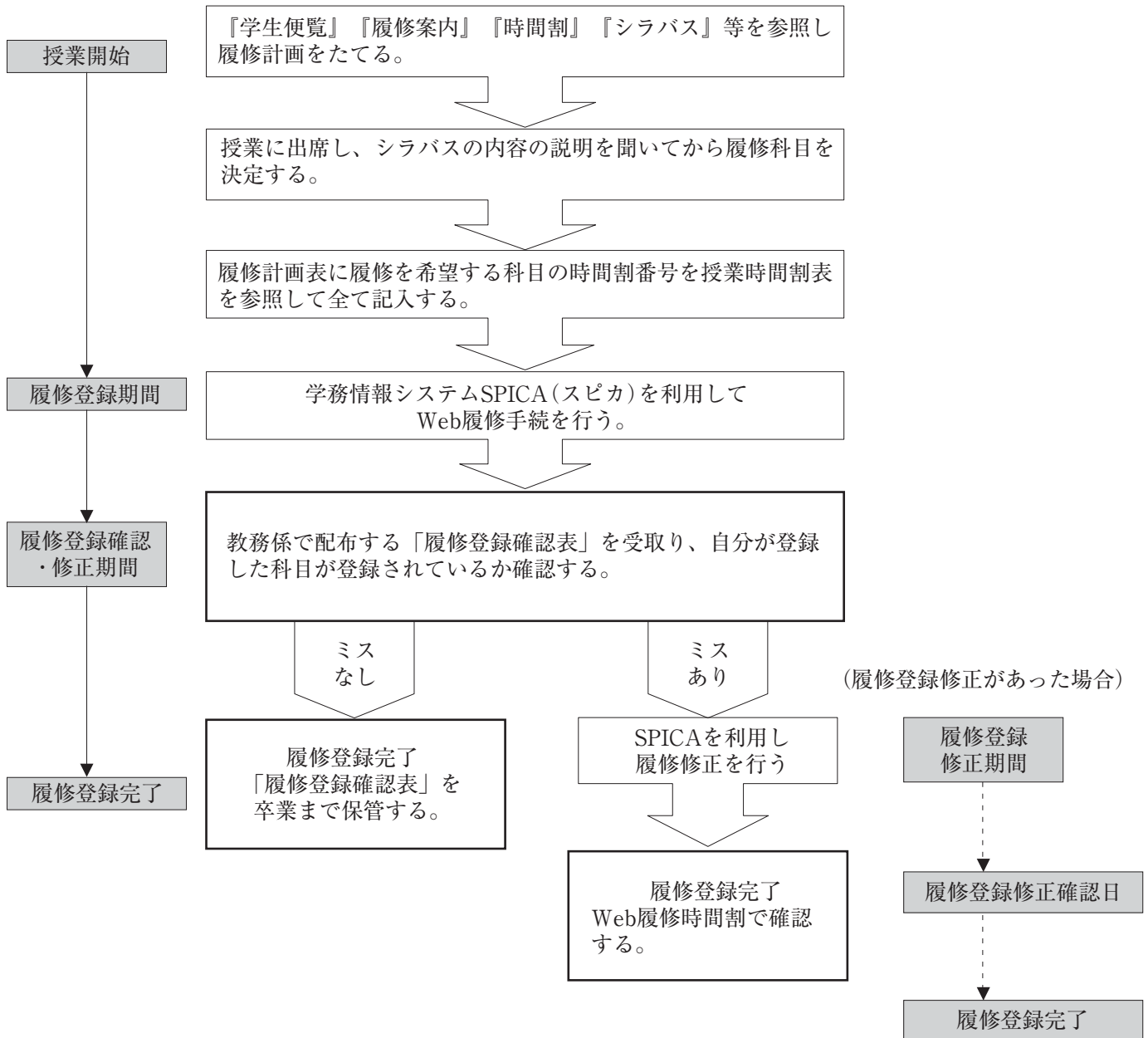
(2) 履修登録の期間

平成25年度の履修登録期間は下記の日程を予定しています。次年度からの履修登録期間は掲示板に掲示するので必ず確認してください。

登録学期	授業開講形態の区分(注)	登録期間	確認および修正期間	備考
平成25年度 前学期	・通常科目 ・通年科目 ・集中授業科目 ・教職科目	4月9日～22日	4月24日～5月1日	※日程変更がある場合は、 掲示します。
平成25年度 後学期	・通常科目 ・集中授業科目 ・教職科目	10月1日～14日 (予定)	10月16日～21日 (予定)	

(3) 履修登録の手順

履修手続きは、次の手順に従って行ってください。



Web履修登録の方法については、104ページのSPICA基本操作手順（学生用）を参照して下さい。

また、卒業年次の後期など、履修登録の必要がない場合も、Web履修登録が必要になります。(112ページ参照)

(4) 他学科履修の取扱いについて

1) 他学科科目の履修の取扱いは下記の通りです。

科目区分	履修条件
全学共通教育科目	原則自学科
他学科専門科目	自由選択として履修する場合、授業担当教員に許可を得てください。*

*共同獣医学科の岩手大学開講科目は履修できません。

- 2) 授業担当教員に許可を得る場合に、他学科・他学部科目履修願を受理してもらって下さい。
- 3) 他学科専門科目の同一名称科目であっても、自学科専門科目として振替ることはできません。
- 4) 他学科専門科目の同一名称科目を自由選択科目として修得した場合、自学科専門科目の同一名称科目を履修することはできません。

(5) 他学科・他学部科目履修願

授業担当教員の許可があれば履修することができます。ただし、他学部科目については学科教育委員に相談してください。

本履修願を、授業担当教員に直接渡してください。履修許可を得た科目は履修登録を行ってください。

(担当教員提出用) 教員各位：履修を許可する場合は受理し、授業終了まで保管下さい。

平成 年度 学期 他学科・他学部科目履修願						
時間割番号	履 修 科 目	単位数	履修時間帯	受 講 学 科 年	学 科	担当教員名
			曜日		学科	
			時限		年次	
学籍番号 ()		学科	平成	年度入学	年次	氏名

東京農工大学農学部

(6) 履修手続きについての注意事項

- 1) 履修登録は、各自が1年間および半期の履修計画を決める、卒業にも関わってくる最も重要な手続きです。履修案内、掲示板およびガイダンス時の配付資料を熟読し理解のうえ、必ず履修登録期間内に手続きを完了してください。期間外の登録は一切認められません。
- 2) 履修登録内容確認および修正は非常に重要な手続きです。学生自身のミスあるいはシステムエラーにより申告した科目が正しく登録できない場合があります。これらを修正するために履修登録確認および修正ができる制度を設けています。この所定の履修登録確認修正期間に、履修希望科目が正しく登録されたか否かを、必ず確認してください。登録されていない科目は、授業に出席し試験に合格したとしても単位は認定されません。
- 3) 重複履修（同一時限に2科目以上重複して履修すること）はできません。
- 4) 既に単位を修得した科目については、再度履修登録することはできません。
- 5) 教育課程表・時間割等に従って、在学年次に応じた授業科目を順次履修して下さい。
- 6) 自分の所属する学科以外の学科に、同一名称科目が開講されていても、自分の所属する学科開講科目を受講してください。
- 7) 履修登録に際し、オリエンテーションにより説明を行う科目がありますので、WEB 掲示板で情報を確認し必ず出席してください。例えば、農学基礎ゼミ、自然科学科目、外国語科目、スポーツ健康科学科目などです。
- 8) 不明な場合は、早めに各学科の教育委員に問い合わせてください。

5. 試験及び成績

(1) 試験

1) 定期試験

試験は、原則として「定期試験」を学期末及び学年末に行いますが、授業科目によっては学期の途中で随時行うことがあります。また、病気等のやむを得ない理由で受験できなかった学生には追試験を、不合格者には再試験を行うことがあります。

2) 受験心得

受験にあたっては、厳正な態度で臨み、不正な行為は行わないこと。受験中不正行為などがあったと認められたときは、その行為が発覚した時点から謹慎処分となり、その学期における当該学生の履修した授業科目すべての単位が無効となり、学則により相應の懲戒処分を受けることとなります。

- ①受験する学生は、特別の指示のない限り毎試験開始5～10分前までに所定の教室に入室すること。
- ②特に指示のない限り、指定された座席で受験すること。
- ③受験に必要な物品以外は、監督者の指示する場所に置くこと。
- ④携帯電話は電源を切って、カバンの中にしまうこと。
- ⑤学生証は、受験中必ず机の上に置くこと。学生証を携帯しない者は、その試験が無効になることがありますので、必ず携帯すること。
- ⑥受験中は、筆記用具類の貸借をしないこと。
- ⑦受験中は、監督者の許可なく試験場外に出ないこと。
- ⑧受験中は、騒音等を発し、他人の受験の妨げとなるようなことはしないこと。
- ⑨試験開始後30分以内は、退室をしないこと。
- ⑩30分以上遅刻した者は原則として受験することができない。ただし、事情によっては受験を許可することがありますので、授業担当教員の指示をうけること。
- ⑪答案に学科、入学年度、学籍番号、氏名の記載がないと無効になることがあるから、記載の確認をすること。
- ⑫試験時間が終了し、また、終了前に答案を作成し終わったときは、特に指定がない限り、教卓上に提出するか又は監督者に直接手渡して静かに退室すること。自己の机の上に置いて退室しないこと。
- ⑬答案用紙の持ち帰りはしないこと。
- ⑭履修承認を受けた正規受験者以外は入室しないこと。

(2) 成 績

成績評価の通知は、学務情報システムの SPICA を通じて行われます。

前学期の成績は9月下旬、後学期の成績は次年度の4月上旬（卒業に関わる年次の後学期の成績は2月下旬）です。具体的な期日は、掲示にて周知します。

成績を閲覧し、単位を修得した授業科目を確認し、次学期以降の履修計画をたてる際に参考にしてください。

学期ごとの成績は、パソコンから SPICA へログインをして、確認をしてください。

自動証明書発行機での印刷は、禁止とします。

1) 成績評価基準

成績評価は、「S」（100～90点）、「A」（89～80点）、「B」（79～70点）、「C」（69～60点）、「D」（59～0点）5段階評価で行われます。「S」、「A」、「B」、「C」を合格とし、単位を与えます。「D」を不合格（途中放棄も含む）とし、成績表には表示されますが、成績証明書には表示されません。

GPA、成績表および成績証明書記載事項の対応表

評 価	評 点	達 成 状 況	GPA 評価点	成績表への表示	成績証明書への表示	
合 格	S	100～90点	到達基準を超えた成果を上げている。	4	あり	あり
	A	89～80点	到達基準を十分達成している。	3	あり	あり
	B	79～70点	到達基準を達成している。	2	あり	あり
	C	69～60点	到達基準をおおむね達成している。	1	あり	あり
不合格	D	59～0点	到達基準に達していない。	0	あり	なし
認 定	認定	評価を認定したもの (入学前既修得単位認定等)	なし	あり	あり	

※GPA は成績表には表示されますが、成績証明書には表示されません。

2) 成績確認制度

自分の成績評価に対しての疑問などがある場合は、学期ごとに成績の確認期間が設けられているので、所定の申請書により教務係まで申し出てください。学期末に詳細を掲示します。

● II. 教育課程表 ●

1. 全学共通教育科目

全学共通教育科目(1)

区分	授業科目	単位数	開講年次								生物生産学	応用生物学	環境資源学	地域生態システム学	共同獣医学			
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			前	後	前	後	前	後	前	後								
大学導入科目	農学基礎ゼミ	1	*								○		○		○			
持続可能な地球のための科学技術	自校教育	MORE SENSE入門	1	*							○		○		※			
	科学技術と社会	科学史	2	*								この区分から6単位以上を修得すること。				この区分から6単位以上を修得すること。		
		産業史	2	*														
		農業史	2	*														
		食料・環境問題	2	*														
		技術者倫理	2						*		*							
		知的財産権論	2						*		*							
		生命倫理	2						*		*							
	自然保護文化論	2						*		*								
	融合科目	融合科目()	1						*							—		
融合科目()		1						*							—			
共生人文社会科学	共生人文社会科学A	現代倫理論	2		*						「共生人文社会科学A」2単位以上、「共生人文社会科学B」4単位以上 「人間文化」2単位、「社会の構造」2単位)を含めて8単位以上を修得すること。					「共生人文社会科学A」2単位以上、「共生人文社会科学B」4単位以上 「人間文化」2単位、「社会の構造」2単位)を含めて8単位以上を修得すること。		
		現代宗教論	2	*														
		多文化共生論	2		*													
		ジェンダー論	2					*										
		共生社会政策論	2					*										
		国際平和論	2						*									
	共生人文社会科学B	人間と文化	哲学	2				*										
			文学・芸術学	2				*										
			心理学	2				*	*									
		社会の構造	教育学	2				*										
			日本国憲法	2	*	*												
			経済学	2	*	*												
			社会学	2		*												
歴史学	2	*																
リテラシー科目	英語	リーディング・ベーシックス	1	*							○		○		○			
		ライティング・ベーシックス	1		*						○		○		○			
		イングリッシュ・コミュニケーションI	1		*						○		○		○			
		アドヴァンスト・ライティング	1			*					○		○		○			
		アドヴァンスト・リーディング	1				*				○		○		○			
		イングリッシュ・コミュニケーションII	1			*					○		○		○			
		資格試験英語演習	1	*	*	*	*	*	*	*	*					—		
		アカデミック・リーディング	1				*			*						—		
		アカデミック・コミュニケーション	1					*		*						—		

履修方法については、37ページの全学共通教育科目(共通獣医学科)を参照のこと。

○印の授業科目は必修とする。共同獣医学科における履修方法については37ページを参照のこと(一印の科目は卒業に必要な単位としては認めない。)
※印の科目は必修ではないが履修する事が望ましい。

全学共通教育科目(2)

区分	授業科目	単位数	開講年次								生物生産学	応用生物学	環境資源学	地域生態システム学	共同獣医学				
			1年次		2年次		3年次		4年次										
			前	後	前	後	前	後	前	後									
自然科学系基礎科目	TATI科目	数学	線形代数学 I	2	*							○		○		○		※	
		数学	微分積分学 I	2		*							○		○		○		※
		物理学	物理学	2	*								○		○		○		※
		化学	化学	2	*								○		○		○		○
	生物学	生物学	2	*								○		○		○		○	
	TAII科目	数学	数学	線形代数学 II	2			*											—
			数学	微分積分学 II	2			*											—
			数学	数理統計学	2			*											—
		物理学	物理学	力学	2			*											—
			物理学	電磁気学	2			*											—
			物理学	物理学実験	1		*	*							○				—
		化学	化学	物理化学 A	2		*												—
			化学	物理化学 B	2			*											—
			化学	有機化学	2			*											—
			化学	無機化学	2				*										—
			化学	化学実験	1		*	*						○		○			—
		生物学	生物学	生態学	2		*												—
			生物学	遺伝学	2			*											○
			生物学	微生物学	2			*											○
			生物学	細胞生物化学	2		*												○
生物学			生物構造機能学	2				*										—	
生物学	生物学実験		1		*	*							○		○		—		
地学	地学	地学	2		*												—		
	地学	地球環境地学	2				*										—		
	地学	地学実験	1			*								○			—		

履修方法については、37ページの全学共通教育科目(共通獣医学科)を参照のこと。

○印の授業科目は必修とする。共同獣医学科における履修方法については37ページを参照のこと（-印の科目は卒業に必要な単位としては認めない。）。

※印の科目は必修ではないが履修する事が望ましい。

全学共通教育科目（共同獣医学科）

科目群	共同獣医学科科目	授業科目	単位数	開講年次								必修	備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
大学教育導入	基礎ゼミナール	農学基礎ゼミ	1	*									◎		
スポーツ健康	スポーツ健康・基盤	体力学実技	1	*									◎		
	スポーツ健康・発展	生涯スポーツ実技	1		*								◎		
外国語	基礎英語	リーディング・ベーシックス	1	*									◎		
		ライティング・ベーシックス	1		*								◎		
		イングリッシュ・コミュニケーションⅠ	1		*								◎		
		アドヴァンスト・ライティング	1			*							◎		
		アドヴァンスト・リーディング	1				*						◎		
		イングリッシュ・コミュニケーションⅡ	1			*							◎		
人文社会科学	哲学	哲学	2			*								この科目群から10単位以上修得すること。	
	倫理学	現代倫理論	2		*										
	憲法	日本国憲法	2	*											
	経済学	経済学	2		*										
	社会学	社会学	2		*										
	心理学	心理学	2		*										
	歴史学	歴史学	2	*											
	政治学	共生社会政策論	2			*									
理数系基礎	生物学	生物学	2	*									◎		
	化学	化学	2	*									◎		
	細胞学	細胞生物化学	2		*								◎		
	遺伝学	遺伝学	2			*							◎		
	情報学	情報処理学	2	*									◎		
配置大学特色	外国語アドバンス	ドイツ語初級文法Ⅰ	1	*										同一言語から2単位以上を修得すること。	
		ドイツ語初級文法Ⅱ	1		*										
		ドイツ語初級購読	1		*										
		フランス語初級文法Ⅰ	1	*											
		フランス語初級文法Ⅱ	1		*										
		フランス語初級購読	1		*										
		中国語初級文法Ⅰ	1	*											
		中国語初級文法Ⅱ	1		*										
		中国語初級購読	1		*										
		韓国語初級文法Ⅰ	1	*											
		韓国語初級文法Ⅱ	1		*										
	韓国語初級購読	1		*											
	持続可能な環境・社会	科学史	科学史	2	*										2単位以上修得すること。
		知的財産権論	知的財産権論	2			*								
		多文化共生論	多文化共生論	2		*									
		自然保護文化論	自然保護文化論	2			*								
		産業史	産業史	2	*										
		食料・環境問題	食料・環境問題	2	*										
		技術者倫理	技術者倫理	2			*								
生命倫理		生命倫理	2			*									
現代宗教論	現代宗教論	2	*												
国際平和論	国際平和論	2			*										
理数系アドバンス	MORE SENSE 入門	MORE SENSE 入門	1	*									※	4単位以上修得すること。	
	生態学	生態学	2		*										
	微生物学	微生物学	2			*									
	物理学	物理学	2	*									※		
	線形代数学Ⅰ	線形代数学Ⅰ	2	*									※		
	微分積分学Ⅰ	微分積分学Ⅰ	2		*								※		
	数理統計学	数理統計学	2			*									
	化学実験	化学実験	1		*	*									
	生物学実験	生物学実験	1		*	*									
有機化学	有機化学	2			*										

※印の科目は必修ではないが履修することが望ましい。

2. 専門科目

(1) 学科専門科目

生物生産学科 (An) 教育課程表

◎印の授業科目は必修とする。

区分	授業科目	担当教員 ()は非常勤	単位数	毎週授業時間数								開講形態 ・ 合併学科	履修要件		
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
学科 共通 科目	生物生産学原論	学科他教員	◎4	2	2										
	情報処理学	(非常勤)	◎2	2											
	生化学	(非常勤)	2			2									
	農業微生物学	横山正ほか	2					2							
	分析科学	田中治ほか	2					2							
	農産物製造学	佐藤幹ほか	2						2					一部集中	
	生物統計学	(非常勤)	2						2					集中	
	科学英語論文講読	学科他教員	2						2						
	農業分野専攻実習	FS教員	2			3	3								
	生物生産学実験基礎	学科他教員	◎4				12								
	アグリバイオ実験	学科他教員	4					12							
	学外実習(農家)	FS教員	1					3						夏期集中	
	学外実習(研究所)	学科他教員	1								3			夏期集中	
卒業論文	学科他教員	8						4	6	6					
生産技術 環境系 科目	作物栽培学	松村	2	2											
	土壌学	田中治	2			2									
	環境気象学	(非常勤)	2			2								En一部集中	
	土壌物質循環・肥料科学	田中治・横山正・木村・大津	2					2							
	作物保護学	寺岡・本林・藤井	2						2						
	灌漑排水工学	千賀ほか	2						2					Rn	
	生物生産環境学	東城ほか	2							2				Rn	
	農地工学	渡辺裕	2							2				Rn	
	フィールド実験実習Ⅰ	学科他教員	◎1	3											
フィールド実験実習Ⅱ	学科他教員	◎1		3											
植物 生産 系 科目	植物生理学	金勝	2	2											
	植物分子遺伝学	山田哲	2		2										
	植物生態生理学	大川・平澤	2			2									
	作物学	平澤・大川	2				2								
	植物栄養学	横山正・大津	2				2								
	園芸学Ⅰ	鈴木栄・荻原	2				2								
	園芸学Ⅱ	荻原・鈴木栄・伴	2					2							
	植物育種学	山田哲・金勝	2					2							
	植物生態学	藤井・岡崎	2					2							
動物 生産 系 科目	畜産学総論	佐藤幹ほか	2		2										
	農業昆虫学Ⅰ	普後・横山岳・本林	2			2									
	家畜形態・生理学	新井克・竹村	2				2								
	農業昆虫学Ⅱ	普後・阿部・横山岳・本林・平岡	2					2							
	家畜飼養学	佐藤幹	2					2							
	家畜繁殖学	田中知	2					2						Vn	
	家畜育種学	(非常勤)	1					1						集中	
	蚕糸・昆虫利用学	蛸木・横山岳・平岡	2						2						
家畜衛生学	竹原	2						2					Vn		

この中から必修12単位を含め、60単位以上を修得すること。

区分	授業科目	担当教員 ()は非常勤	単位数	毎週授業時間数								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
農業経営経済系科目	農業経済学	山崎	2			2								
	農業経営学	(非常勤)・草処・千年	2				2						Rn	
	食料システム経済学	野見山・成田	2				2						Rn	
	農業市場学	野見山	2					2						
	国際農業政策論	豊田・山田祐	2					2						
	農業資源経済学	千年・草処	2						2					
	サステイナブルツーリズム論	土屋	1							1			Rn	
	農業経営経済学総合演習	新井・成田・草処	1					3						
農村社会調査実習	新井・成田・草処	2							6					
新領域科目	バイオマスエネルギー論	大川・千年・山田祐・岩岡・東城	2	2										
	遺伝子細胞工学	梅澤・佐藤か	2				2							
	生物生産学特別講義Ⅰ(環境系)	(非常勤)	0.5					0.5		0.5			隔年(H28年開講)・集中	
	生物生産学特別講義Ⅱ(植物系)	(非常勤)	0.5					0.5		0.5			隔年(H28年開講)・集中	
	生物生産学特別講義Ⅲ(動物系)	(非常勤)	0.5					0.5		0.5			隔年(H27年開講)・集中	
	生物生産学特別講義Ⅳ(経済系)	(非常勤)	0.5					0.5		0.5			隔年(H27年開講)・集中	
	食料リスクアナリシス	(非常勤)	2						2				集中	
	地域パートナーシップ論	土屋ほか	1							1			Rn	
動物福祉論	武田・鈴木馨・竹村	2							2			Rn		

◎印の授業科目は必修とする。

区分	授業科目	担当教員 ()は非常勤	単位数	毎週授業時間数								開講形態 ・ 併学科	履修要件
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
学 科 共 通 科 目	科学英語論文演習Ⅱ	学科教員	1								1	不定期開講	
	農場実習	FS教員	1	2									
	応用生物科学共通実験Ⅰ	学科教員	◎1			3							
	応用生物科学共通実験Ⅱ	学科教員	◎1			3							
	応用生物科学専門実験Ⅰ	学科教員	1			3							
	応用生物科学専門実験Ⅱ	学科教員	1				3						
	応用生物科学専門実験Ⅲ	学科教員	1				3						
	応用生物科学専門実験Ⅳ	学科教員	1				3						
	応用生物科学専門実験Ⅴ	学科教員	1				3						
	応用生物科学専門実験Ⅵ	学科教員	1				3						
	応用生物科学実習	学科教員	1				3					集中	
卒業論文	学科教員	8							*	*			

区分	授業科目	担当教員 ()は非常勤	単位数	毎週授業時間数								開講形態 ・ 併学科	履修要件		
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
学 科 専 門 科 目	住環境学	服部順・近江	2	2											
	資源リサイクル学	岡山	2		2										
	地圏環境学	楊	2		2										
	大気環境学	松田	2		2										
	水界環境学	大地	2		2										
	生態系保全学	多羅尾	2			2									
	森林資源科学	佐藤敬・船田・吉田	2			2									
	環境気象学	(非常勤)	2			2								一部集中・An	
	資源高分子化学	粕谷	2				2								
	資源材料・構造力学	佐藤敬	2				2								
	環境汚染化学	高田	2				2								
	環境微生物学	片山・多羅尾	2				2								
	エコマテリアル学	近江・(非常勤)	2				2							一部集中	
	環境毒性学	渡邊泉	2					2							
	資源高分子物理学	四方	2					2							
	森林資源形成学	(非常勤)	2					2						一部集中	
	植物資源化学	岡山・粕谷	2					2							
	生分解学	吉田	2					2							
	森林資源利用学	服部順・近江	2					2							
	地球環境化学	(非常勤)	2					2							
	環境植物学	伊豆田	2					2							
	設計製図学	(非常勤)	2						2						
	住環境構造学	(非常勤)	2						2						
ライフサイクルアセスメント	服部順・(非常勤)	2						2					一部集中		
資源分解・廃棄学	(非常勤)	2						2					集中		
C A D 設計演習	(非常勤)	2								6		Rn			

この中から20単位以上を修得すること。

地域生態システム学科 (Rn) 教育課程表

◎印の授業科目は必修とする。

区分	授業科目	担当教員 ()は非常勤	単位数	毎週授業時間数								開講形態 ・ 合併学科	履修要件		
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
学科 共通 科目	地域生態システム学	学科教員	◎4	4											
	地域生態システム学実習Ⅰ	学科教員	◎1	2									集中		
	地域生態システム学実習Ⅱ	学科教員	◎1		2								集中		
	地域生態システム学セミナー	学科教員	◎1				2								
	地域生態システム学特別演習Ⅰ	学科教員	◎1					2					集中		
	地域生態システム学特別演習Ⅱ	学科教員	◎1						2				集中		
	地域生態システム学特別演習Ⅲ	学科教員	◎2								2		集中		
	フィールド安全管理学	下田政ほか	1	2									一部集中		
	情報処理学 (非常勤)		2	2											
	インターンシップ	学科教員(インターンシップ委員会)	1										2～4年次		
	ECO-TOPインターンシップⅠ	学科教員	2										2～4年次		
	ECO-TOPインターンシップⅡ	学科教員	2										2～4年次		
	卒業論文	学科教員	8										4年次後期		
	パ ッ ケ ー ジ 科 目 ・ 推 奨 科 目	生物多様性保全学	星野・佐藤俊	2		2									
水資源管理論		加藤・(非常勤)	2		2										
地域社会システム計画論		土屋・朝岡・ 中島・福田・高橋	2		2										
人と動物の関係論		武田・鈴木馨・梶・ 金子・小池・吉田智	2		2										
測量学Ⅰ (非常勤)			2			2									
植生管理学		星野・吉川	2			2									
森林生態学		戸田・崔・渡辺直・ 小池・吉田智	2			2									
水文学		白木	2			2									
土壌物理学		斎藤	2			2									
地域パートナーシップ論		朝岡・土屋	1			1							An		
サステイナブルツーリズム論		土屋	1			1							An		
農業経済学		An教員	2			2							An		
農の共生学		福田・高橋	2				2								
測量学Ⅱ (非常勤)			2				2								
土壌生態管理学		豊田	2				2								
森林計画学		加用・(非常勤)	2				2						一部集中		
山地保全学		石川・五味	2				2								
森林生産システム学		岩岡	2				2								
GISの基礎と演習		岩岡・大里	2				2								
樹木学		崔ほか	2				2								
応用力学		酒井	2				2								
土質力学		向後	2				2								
水理学		加藤	2				2								
農村地域計画学		中島	2				2								
農業機械学		渋澤	2				2								
エコマテリアル		島田清・(非常勤)	2				2								
環境哲学		未定	2				2								
環境文化史		高橋	2				2								
比較心理学		甲田・武田	2				2								
環境公法		榎本	2				2								
環境経済学	吉田央	2				2									
持続可能な開発のための教育(ESD)	朝岡・(非常勤)	2				2									
農業経営学	An教員	2				2						An			
動物生態学	金子ほか	2				2									

この中から必修11単位を含めて64単位以上修得すること。

パッケージ科目・推奨科目、実験・実習科目については、ガイドランスで提示する履修プログラムごとの履修方法を参考にして修得すること。

区分	授業科目	担当教員 ()は非常勤	単位数	毎週授業時間数								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
パ ツ ケ ー ジ 科 目 ・ 推 奨 科 目	生業民俗学	福田	2					2						
	健康アメニティ論	植竹	2					2						
	インタープリテーション技術	佐藤敬・星野	2					2						
	造園学	赤坂	2					2						
	動物環境生理学	鈴木	2					2						
	リモートセンシング論	五味	2					2						
	森林施設工学	松本	2					2						
	砂防工学	石川	2					2						
	森林立地学	戸田	2					2						
	農地工学	渡辺裕	2					2					An	
	地盤工学	向後	2					2						
	生物生産環境学	帖佐	2					2					An	
	機械基礎工学	渋澤	2					2						
	熱工学	東城	2					2						
	構造解析学	島田清	2					2						
	生態・環境情報工学	酒井	2					2						
	環境教育学	朝岡	2					2						
	環境倫理学	(非常勤)	2						2					
	比較行動学	武田・甲田	2					2						
	地域環境社会学	(非常勤)	2					2						
	国際協力論	渡辺司	2					2						
	農業市場学	An教員	2					2					An	
	野生動物保全技術論	金子ほか	2						2					
	景観生態学	赤坂・(非常勤)	2						2					
	植生学	星野・吉川	2						2					
	野生動物保全学	梶	2						2					
	環境生理生態学	下田政	2						2					
	森林施業論	戸田・小池・渡辺直・吉田智	2						2					
	森林政策学	土屋	2						2					
	循環資源利用学概論	En教員	2						2				En	
	農産プロセス工学	東城・帖佐	2						2					
	灌漑排水工学	加藤・大里・(非常勤)	2						2				An	
水利施設工学	加藤・島田清・大里・(非常勤)	2						2						
土壌物質動態学	斎藤・渡辺裕	2						2						
動物福祉論	武田・鈴木馨・竹村	2						2						
共生社会思想	(非常勤)	2						2						
国際開発論	竹内・渡辺司	2						2						
地方自治論	吉田・榎本	2						2						
バイオマス利用論	東城・岩岡・大川ほか	2						2				An		
持続的森林管理論	土屋ほか	2							2					
作物栽培学	An教員	2							2			An		
土地利用学	辰己ほか	2							2					

区分	授業科目	担当教員 ()は非常勤	単位数	毎週授業時間数								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
実 験 ・ 実 習 科 目	測量学実習Ⅰ	大里・松本・斎藤	1			3								
	地域社会システム調査実習	朝岡・土屋	1			3							一部集中	
	森林計画学実習	土屋・加用・松本	2				6						一部集中	
	測量学実習Ⅱ	大里・白木・松本・辰己	1				3						一部集中	
	植生管理学実習	星野・吉川	1				3						集中	
	育林学実習	戸田・崔	2					6					一部集中	
	山地保全・砂防計画学実習	石川・白木・五味	2					6					一部集中	
	樹木学実習	渡辺直・小池・赤坂	2					6					一部集中	
	農業環境工学実験Ⅰ	MT教員	2					6						
	農業環境工学実習	MT教員	2					6						
	水理学演習	大里	1					3						
	農村地域計画学演習	中島・(非常勤)	1					3						
	野生動物保全学実習	梶・鈴木馨	1					3					集中	
	比較行動学実験・実習	武田・鈴木馨	1					3					集中	
	森林保護・樹木医学実習	渡辺直・小池・吉田智	1					3					集中	
	森林土壌学実験・実習	戸田・崔・吉田智	1						3					
	森林生産システム学実習	岩岡・松本	2						6				一部集中	
	農業環境工学実験Ⅱ	MT教員	2						6					
	CAD設計演習	中島・東城・(非常勤)	2						6					
	農場実習Ⅰ	FS教員	1							3				
農場実習Ⅱ	FS教員	1									3			

共同獣医学科 (Vn) 教育課程表

区分	授業科目	担当教員 () は非常勤	単位数			毎週授業時間数																											
			東京農 工大学	岩手 大学	備考	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次																	
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後																
基礎 獣 医 学 科 目 群	獣医学概論	学科教員		◎2	学生移動	2																											
	獣医倫理	学科教員	◎2				2																										
	獣医事法規	(非常勤)		◎1									1																				
	運動器・神経系解剖学	柴田	◎2					2																									
	内臓・脈管系解剖学	谷口・中牟田		◎2	遠隔授業				2																								
	解剖学実習	柴田・金田		◎3				6	3																								
	組織学	山本		◎2	遠隔授業				2																								
	組織学実習	柴田・金田		◎1					3																								
	発生理学	(非常勤)	◎1					1																									
	統合生理学	渡辺・永岡	◎2						2																								
	器官制御生理学	橋爪・木崎		◎2	遠隔授業				2																								
	内分泌学	渡辺・永岡		◎2							2																						
	生理学実習	渡辺・永岡		◎1						3																							
	獣医遺伝育種学	(非常勤)・(非常勤)		◎1					1																								
	動物行動学	佐藤俊・小山	◎2							2																							
	実験動物学	古市		◎2	遠隔授業				2																								
	実験動物学実習	田中あ		◎1						3																							
	基礎放射線学	(非常勤)		◎2						2																							
	獣医基礎生化学	山田・木崎・橋爪		◎2	遠隔授業					2																							
	獣医代謝生化学	新井克	◎2								2																						
	生化学実習	渡辺・永岡		◎1							3																						
	基盤薬理学	下田・佐々木	◎2								2																						
	統合薬理学	古濱		◎2	遠隔授業								2																				
	薬理学実習	下田・佐々木		◎1								3																					
	病態 獣 医 学 科 目 群	微生物学総論	谷口・古谷	◎2							2																						
		病原微生物学	原澤・未定		◎2	遠隔授業						3																					
		微生物学実習	谷口・白井・古谷・長井・佐々		◎2							3	3																				
		免疫学	松田・田中あ	◎2									2																				
原虫・原虫病学		板垣		◎2	遠隔授業							2																					
蠕虫・蠕虫病・衛生動物学		板垣		◎2	遠隔授業								2																				
寄生虫学実習		井手		◎1									3																				
動物感染症学		白井・長井・佐々	◎3											3																			
家禽疾病学		御領		◎2	遠隔授業										2																		
魚病学		水谷・(非常勤)		◎2												2																	
動物病理学総論		渋谷・鈴木	◎2										2																				
動物病理学各論A(主要臓器)		御領		◎2	遠隔授業																												
動物病理学各論B(他臓器・組織)		渋谷・鈴木・御領		◎2																													
病理学実習		渋谷・鈴木		◎2																													
応用 獣 医 学 科 目 群	公衆衛生学総論	藤川		◎1										1																			
	疫学	林谷・竹原	◎2											2																			
	人獣共通感染症学	(未定)		◎2	遠隔授業										2																		
	環境衛生学	佐藤至		◎2	遠隔授業											2																	
	公衆衛生学実習	藤川		◎1												3																	
	毒性学	鈴木和	◎2													1																	
	毒性学実習	鈴木和		◎1												3																	
	動物衛生学	竹原・林谷	◎2														2																
	動物衛生学実習	林谷・竹原		◎1													3																
	野生動物学	鈴木馨		◎1													1																
	食品衛生学	藤川	◎2															2															
食品衛生学実習	藤川		◎1															3															
公衆衛生実践実習	竹原・藤川		◎1														*	*															

◎印の授業科目は必修とする。○印の授業科目の中から6単位を修得すること。

(2) 学部共通専門科目

区分	授業科目	単位数	担当教員	開講年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
学部共通	現代農業論	2	野見山, 成田, (非常勤)							○	○	この中から2単位以上を修得すること。
	生物資源論	2	教育委員会副委員長, 横山正, (非常勤)							○	○	
	国際環境農学	2	豊田隆, 五味, 渡辺裕							○	○	
	環境生物相関論	2	渡邊泉, 岩淵, 伊豆田							○	○	
	動物と人間の行動	2	佐藤俊, 小山							○	○	
	農学部特別講義Ⅰ	1	未定							○	○	
	農学部特別講義Ⅱ	1	(非常勤)							○	○	
専門科目	海外特別実習	1	農学部教員			←	←	○	→	→	→	自由選択単位として卒業に必要な単位として修得することができる。 派遣期間中の研究計画・研究報告, 受入教員の所見・証明書等により単位を認定する。
目	職業指導(農業)	2	(非常勤講師)			○		○				自由選択単位として卒業に必要な単位として修得することができる。ただし, 高等学校教諭1種免許状(農業)を取得する者は, 必修とする。 (隔年開講)
	FS実験実習	1	FS教員			○						休業期間(夏季)に開講 ・4月上旬の履修提出期間中に農学部全体を対象として実施されるガイダンスに出席すること。

本表の授業科目は共同獣医学科の卒業に必要な単位として修得することができない。

(3) 開放科目（整合教育）

学府と学部が協力して教育効果を高めるために、教育上有益と認められる場合、成績が優秀で大学院への進学意欲のある学部4年次生に対して、学府で開講されている授業科目の履修を認め（これを「開放科目」という。）、進学後に単位を認定する制度です。

1. 受講条件

- (1) 1～3年次後学期までの通算 GPA が3.0以上であること。
- (2) 本学開放科目を実施する専攻の進学希望者であること。
- (3) 3年次編入学生は対象外とする。

2. 履修年次

4年次とする。

3. 修得単位の取扱い

履修した授業科目については、農学府の下記の2専攻に進学後に4単位までを認定し、修了要件に算入することができます。

4. 開放科目を実施する専攻及び履修可能科目は、次の通りです。

生物生産科学専攻：生物生産科学フロンティア講義Ⅰ～Ⅻ、作物生産学特論、家畜生産技術学特論、土壤環境学特論、土壤生化学・物質循環特論、作物保護学特論、昆虫管理学特論、作物学特論、植物生態生理学特論、園芸作物学特論、植物繁殖学特論、植物栄養・肥料科学特論、土壤微生物利用・バイオ肥料科学特論、植物分子生理学特論、植物遺伝育種学特論、畜産学特論、動物組織機構学特論、蚕糸科学特論、昆虫遺伝・発生学特論

共生持続社会学専攻：環境共生思想、風土共生倫理学、環境生業文化史論、農村社会学特論、アニマル・ウェルフェア特論、ヒトと動物の共生心理学、環境法特論、国際関係学特論、共生教育論、食育・食農教育論、環境経済学特論、共生農業特論、地域農業システム特論、農業資源経済学特論、食料関連産業特論、食農マーケティング論

5. 履修方法

全ての受講条件を満たしており、所属学科長の承認が得られた場合に限り、所定の期日までに、履修登録を行ってください。

6. その他

- (1) CAP（履修登録単位数の上限設定）制度の対象外とする。
- (2) 履修した開放科目の試験に合格した場合、大学院進学後に当該科目の再履修は認めない。

3. 外国人留学生等科目

区分	授業科目	単位数	毎週授業時間数								学 科 名					備 考
			1年次		2年次		3年次		4年次		生物生産学 科学科	応用生物科学科	環境資源科学科	地域生態システム学	共同獣医学 科学科	
			前	後	前	後	前	後	前	後						
日本語科目	日本語Ⅰ	2	2												外国人留学生等に適用する。	
	日本語Ⅱ	1		2												
	日本語Ⅲ	1					2									2年次以降開講
日本事情に関する科目	日本事情Ⅰ	2	2												外国人留学生等に適用する。	
	日本事情Ⅱ	2		2												

●Ⅲ. 全学共通教育科目の履修について●

1. 全学共通教育の理念・目標

東京農工大学は、その基本理念を、「20世紀の社会と科学技術が顕在化させた『持続発展可能な社会の実現』に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進する」(大学憲章)としています。本学は、実験・実習を通じて、研究マインドに裏打ちされた実践的な専門教育を行うことに特色があります。全学共通教育は、自然科学基礎教育のための「TATI・II」と、「学問のすそ野を広げ、様々な角度から物事を見ることが出来る能力」や「自分の知識や人生を社会との関係で位置付ける」能力を身に付けることを目指す教養教育から成っています。

教養教育には、外国語教育である「リテラシー科目」・「スポーツ健康科学」に加えて、「持続可能な地球のための科学技術」と「共生人文社会科学」という本学独自の科目群が設定されています。これらの科目群においては、「科学技術と社会」・「農学と工学の融合」・「共生社会の諸問題」・「人間と文化」・「社会の構造」が取り上げられ、科学技術に対する幅広い理解・専門的知識に社会的・人間学的基盤を与えることを目標にしています。以下、科目群ごとの目標と内容を示します。

2. 科目群について

(1) 大学導入科目

大学導入科目では、ほとんどの学生諸君が大学入学前までに経験してきた受動的な知識蓄積型学習から脱却し、大学において自らが問題意識を持ち、自主的に勉学する方法を身につけることを目標とします。

1) 農学基礎ゼミ

①教育の目標と内容

農学基礎ゼミは、農学部全学科の1年次学生を対象として、担当教員が用意した特定のテーマに関して少人数で行うゼミ形式の授業です。大学生活のスタートはとかく戸惑いがちですが、できるだけ早く大学生活に適應し、自発的な学習習慣を身につけることが農学基礎ゼミの目的です。また、学科を越えて農学部教員と直接交流しながら、大学生としての自覚や人格の形成、さらに社会人として活躍する上での基本的マナーなども学ぶことができます。

②履修方法と単位の認定について

4月の1年次オリエンテーションで履修ガイダンスを開催しますので、必ず出席してください。当日、担当教員およびその講義内容を記載したシラバスを配布しますので、これを参考に履修を希望するクラスを選択してください。原則として、各クラスは8名の単位で構成しますので、4月中には皆さんの希望をもとにクラス編成を行います。授業開始までの流れは、次の通りです。

- (1) 履修ガイダンス
- (2) クラス希望調査と調査結果の発表
- (3) 履修登録
- (4) 授業開始

農学基礎ゼミは1単位であり、農学部の全学科で必修科目に指定されていますので、必ず履修しなければなりません。1年次前期の6月および7月の木曜日の1時限または2時限に開講されます。開講時限はクラスによって異なり、履修ガイダンスの際に配布する農学基礎ゼミ履修案内に記載されています。また、4月中にクラス編成の希望調査・調整等を行いますので、授業開始は6月初旬です。授業への参加が

重視され、1/3以上欠席した場合は単位が認定されません。また、配属が決まったクラス以外では履修できません。

③履修上の留意点

クラス編成は希望調査に基づいて行います。希望調査用紙の提出がない場合は履修できないことがあります。クラス編成後にSPICAで履修登録を行ってください。他の科目と同様に、履修登録を行わないと単位が認定されません。

(2) 持続可能な地球のための科学技術

「持続可能な地球のための科学技術」は、MORE SENSE 入門（自校教育）、科学技術と社会および融合科目から構成されています。MORE SENSE 入門では、本学の理念・歴史と共に、農学部における研究活動、地域・社会への貢献、卒業生の活躍などに関する理解を深め、本学農学部における学びへの意欲を増進すると共に、キャリア形成を理解することを目標とします。また、科学技術と社会では、持続可能な地球を目指す本学の教育理念を実現するものであり、農学と市民教養のインターフェースとして科学技術教養を身につけることを目標とします。さらに、融合科目では、本学工学部の教員から持続可能な地球のための工学を学ぶことにより、工学の視点・発想や農学との価値観の違いなどを感じ取り、広い視野を身につけることを目標とします。

1) MORE SENSE 入門

①教育の目標と内容

本学は、20世紀の社会と科学技術が顕在化させた持続発展可能な社会の実現に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。この基本理念を「使命志向型教育研究－美しい地球持続のための全学的努力」(MORE SENSE: Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth)と標榜し、自らの存在と役割を明示して、21世紀の人類が直面している課題の解決に真摯に取り組んでいます。MORE SENSE 入門では、本学の理念・歴史と共に、農学部における研究活動、地域・社会への貢献、卒業生の活躍などに関する理解を深め、本学農学部における学びへの意欲を増進すると共に、キャリア形成を理解することを目的としています。

②履修方法と単位の認定について

MORE SENSE 入門は、1単位の講義であり、農学部の全学科の1年次学生を対象とする科目です。必ず履修しましょう。1年次前期の4月および5月の木曜日の2時限に農学部講堂で開講します。この講義は授業への参加が重視され、1/3以上欠席した場合は単位が認定されません。また、試験またはレポートの成績によって単位を認定します。

③履修上の留意点

SPICAで履修登録を行わないと単位が認定されませんので、必ず行ってください。

2) 科学技術と社会

①教育の目標と内容

「科学技術と社会」科目群では、持続可能な地球を目指す本学の教育理念を実現するものであり、農学と市民教養のインターフェースとして科学技術的教養を身につけることを目標としています。

②履修方法と単位の認定について

「科学技術と社会」科目群の講義は、1年次前期の木曜日5時限、金曜日1時限と3・4年次後期の火曜日1時限・木曜日2時限に開講されます。1年次前期においては、科学史、産業史、農業史および食料・環境問題を開講します。3・4年次後期においては、技術者倫理、知的財産権論、生命倫理および自然保護文化論を開講します。各講義は2単位であり、試験またはレポートの成績によって単位を認定します。

③履修上の留意点

SPICAで履修登録を行わないと単位が認定されませんので、必ず行ってください。

3) 融合科目

①教育の目標と内容

融合科目では、自らの専門分野とは異なる学問分野の基礎と最先端の研究について、知り、理解し、考える機会を与え、学際的な研究や技術を担う人材の育成を目標とします。

②単位の認定等

1つのテーマを履修することによって1単位が修得できます。テーマの選択と履修申請については、掲示板などで改めてお知らせします。評価方法についてはシラバスで示します。

③履修上の注意点

科目により希望者の偏りが著しく大きい場合には、調整する場合があります。その他の履修上の注意点は、掲示板などで改めてお知らせします。

(3) 共生人文社会科学

①教育の目標と内容

本学は、21世紀の人类的課題を見据え、人間と自然および人間と人間が共生する「共生持続型社会」の実現に貢献する教養豊かな科学技術者の育成を目指しています。本科目群は、この目的に沿った人文科学・社会科学系の教養科目であり、次の三項目を学生の皆さんの学びの目標としています。

(1) 共生持続型社会の前提をなす「社会的共生」に関する現代の諸問題の理解

(2) その根幹をなす人間・文化・社会の基礎的理解

(3) 理系学生にとっては異分野の学問である人文科学、社会科学のエッセンスの習得

これらを通して21世紀の市民および科学技術者に不可欠の豊かな教養と幅広い多元的視野を形成し、卒業後も共生社会や人文社会科学に関わる教養を自ら発展させうる基礎力を蓄えることを目標としています。

②教育の内容

上記の目的を達成するため、現代の人間と社会の基本的問題、人文科学・社会科学の諸分野の中から、本学学生が学ぶにふさわしい基本的内容を精選し、下記の14科目を設定しています。各科目はそれぞれ上記の学びの三目標を含みますが、重点の相違によって、共生人文社会科学Aと共生人文社会科学Bに区分されます。

・共生人文社会科学A：社会的共生に関わって現代の人間・文化・社会の諸問題を理解し、人文社会科学の視点を学びます。

現代倫理論、現代宗教論、多文化共生論、ジェンダー論、共生社会政策論、国際平和論

・共生人文社会科学B：人間と文化の根本、および社会の基礎構造を理解し、現代の諸問題を通じて人文科学、社会科学のエッセンスを学びます。

《人間と文化》：哲学、文学・芸術学、心理学、教育学

《社会の構造》：日本国憲法、経済学、社会学、歴史学

学生の皆さんの関心に従って、受講科目を選択できます。ただし、以下のように履修条件がありますので、注意してください。

・共生人文社会科学Aの科目群から1科目・2単位以上、共生人文社会科学Bの科目群から2科目4単位以上（《人間と文化》群から1科目2単位以上、《社会の構造》群から1科目2単位以上）を修得し、あわせて8単位以上修得することが必要です。

単位の認定は、科目ごとの基準に従って行われます。

③履修上の留意点

(1) 本科目の履修に際しては、高校までの教育とちがって、学生の皆さんが自ら主体的に学ぶことが、特に強く求められます。

(2) 特定科目に履修希望者が過度に集中した場合は、履修人数に制限を設けることがあります。

(4) リテラシー科目

リテラシー科目は、それぞれの言語を学習して、文化や思考法の多様性について理解を深め、正確な読解力や効果的な表現力を高めることによって、論文作成やプレゼンテーション能力の基礎を身に付けることを目標とします。

1) 英語

①教育の目標と内容

リテラシー科目の英語では、「リーディング・スキル」、「ライティング・スキル」、「コミュニケーション・スキル」の三つの柱からなる科目を開講します。

リーディング・スキルに関しては、必修科目として1年次に「リーディング・ベイシックス」、2年次に「アドヴァンスト・リーディング」を開講し、英文テキストの内容を正確に、深く、また批判的に読み解く力を養うと共に、自発的・継続的なリーディング活動を身に付けます。

ライティング・スキルに関しては、必修科目として1年次に「ライティング・ベイシックス」、2年次に「アドヴァンスト・ライティング」を開講し、自分の考えを英語で的確に表現することのできる力、また一貫した論旨で英語の文章を組み立てる力を身に付けます。

コミュニケーション・スキルに関しては、必修科目として1年次に「イングリッシュ・コミュニケーションⅠ」、2年次に「イングリッシュ・コミュニケーションⅡ」を開講し、日常的な場面におけるスピーキング技能を伸ばし、自発的に英語でコミュニケーションを行う態度を養うと共に、プレゼンテーションの技能を身に付けます。

②履修方法と単位の認定について

英語科目は、必修科目6科目6単位を履修します。必修科目の他に、選択科目として3科目3単位（「資格試験英語演習」、「アカデミック・リーディング」、「アカデミック・コミュニケーション」）を履修することができます。いずれの科目も、2/3以上出席しないと単位は認定されません。

また自らの英語力の習熟度を知り学習に役立てるため、授業の一環として、G-TELP（国際英検）を活用します。1年次では、前期「リーディング・ベイシックス」及び後期「ライティング・ベイシックス」の授業内で、履修者全員を対象にG-TELPを実施します。2年次では、後期「アドヴァンスト・リーディング」の授業内で、履修者全員を対象にG-TELPを実施します。

クラス編成に関しては、1年次の必修科目は学籍番号順のクラス編成となります。2年次の必修科目のうち、前期「イングリッシュ・コミュニケーションⅡ」は学籍番号順のクラス編成ですが、前期「アドヴァンスト・ライティング」と後期「アドヴァンスト・リーディング」は、習熟度別クラス編成となります。習熟度クラス編成の科目では、1年次後期に実施するG-TELPのスコア及び希望に基づき、上級クラス及び標準クラス（重点項目別クラス）から履修科目を選択できます。（詳細は掲示で周知します）。

成績については、毎回の授業への参加度、授業の課題（発表・テスト・レポート）、を一定の割合で評価します。1年次後期「ライティング・ベイシックス」及び2年次後期「アドヴァンスト・リーディング」においてはG-TELPのスコアについても一定比率で算入して評価する予定です。詳細はシラバス及び講義でお知らせします。

なお、TOEIC、TOEFL及び実用英語技能検定の成績により、英語科目の一部について単位を認定する制度があります。詳細は「④外国語検定試験に基づく単位認定」を参照して下さい。

③履修上の留意点

1年次は指定クラスでの履修、2年次は選択クラスでの履修となります。

④外国語認定試験の成績に基づく単位認定

下記の英語検定試験で単位認定の資格を取得した人には、2単位を上限として、これまでに単位を取得

していない科目の単位を認定します。認定可能な科目、単位数など詳しくは英語教務担当教員に問い合わせてください。認定された場合、その科目の成績評価は、下記の要領で90点（S）または80点（A）となります。

検定試験の成績による成績評価

英語検定試験	認定された場合の成績評価	
	S	A
TOEIC	860点以上	730－859点
TOEFL-PBT	600点以上	550－599点
TOEFL-iBT	100点以上	79－99点
実用英語技能検定	1級	準1級

認定科目：下記科目から2単位を限度として認定されます。

資格試験英語演習（1単位）

リーディング・ベイシックス（1単位）

ライティング・ベイシックス（1単位）

イングリッシュ・コミュニケーションⅠ（1単位）

1年次必修科目

アドヴァンスト・リーディング（1単位）

アドヴァンスト・ライティング（1単位）

イングリッシュ・コミュニケーションⅡ（1単位）

2年次必修科目

（注意）

1. 資格試験英語演習は1～4年次のいずれの学年でも認定可能です。
2. 必修科目は、開講年次・時期の早い科目から順次認定します。
3. 単位認定の申請の際、各機関の発行する「公式認定証」の添付がない場合は受理しません。TOEFL、TOEICは取得後2年以内に申し出ることとします。またTOEICについては「公開テスト」によるもののみとします。
4. 申請時期は4月上旬と10月上旬の2回です。申請期間等は別途掲示します。

2) 第二外国語

①教育の目標と内容

本学で開講される英語以外の外国語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語を第二外国語と呼びます。

まず、初級文法を一年かけて学習し、それぞれの言語の簡単な文章を、辞書を使って読解できるようになることが、最初の目標です。次に、グローバル化する現代社会にふさわしく、英語以外の外国語を修得することで、異文化への理解や関心を促し、英語と日本語では得られない多様な情報の収集と発信能力を高めます。さらには、言語一般への理解を深めることを目標としています。

②履修方法と単位の認定について

すべての学科は、同一言語の「初級文法Ⅰ」「初級文法Ⅱ」「初級講読」の中から2単位が選択必修です。これを超えて修得した単位は、自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。

初級文法は1年かけて完結しますので、各言語の「初級文法Ⅰ」と「初級文法Ⅱ」を修得することが、学習の観点からは、望ましいのですが、単位取得状況によっては、「初級講読」を含めて必修単位数を満たしてもかまいません。

ドイツ語、フランス語、中国語には、「中級Ⅰ」「中級Ⅱ」の2科目があります。「中級Ⅰ」と「中級Ⅱ」を履修するためには、「初級文法Ⅰ」と「初級文法Ⅱ」および「初級講読」を修得していなければなりません。「中級Ⅰ」と「中級Ⅱ」は、どちらか片方だけを履修してもかまいません。なお、「中級Ⅰ」と「中

級Ⅱ」は、農工で半期ごとに開講します。

③履修上の留意点

- (1) 入学手続き時に提出した「第二外国語選択希望調査票」に基づいて、1年次の第一回目の授業までに、各外国語の「初級文法Ⅰ」のクラスが編成され、掲示されます。自分のクラスを必ず確認してください。これに従って、履修登録をしてください。
- (2) 1クラス40名程度で編成されますので、不本意ながら、第1希望が通らない学生が、どうしてもできてしまいます。その場合でも、残念ながら、他のクラスを選択することはできません。授業を受けても単位はつきません。それでも、指定された以外の外国語を履修したい場合、2年次以上になれば、認められますので、2年次以上で履修してください。
- (3) 辞書の案内を含め、ガイダンスは、第一回目の授業で行います。
- (4) 各科目とも出席をとります。5回以上欠席すると、成績評価はDとなりますので注意してください。

④外国語認定試験の成績に基づく単位認定

下記の外国語検定試験で資格を取得した人には該当単位数を認定しますが、認定対象はそれまでに取得していない科目の単位に限られるため、認定可能な単位数が減ってしまう場合もあります。詳しくは第二外国語専任教員に問い合わせして下さい。認定された場合には、その科目の成績評価は、すべて80点(A)となります。

- ・ドイツ語技能検定：3級以上—4単位、4級—2単位
- ・実用フランス語技能検定：準2級以上—4単位、3級・4級—2単位
- ・中国語検定：3級以上—4単位、4級—2単位
- ・スペイン語技能検定：3級以上—3単位、4級—2単位
- ・韓国語能力試験：3級以上—3単位、2級—2単位
- ・ハングル能力検定試験：3級以上—3単位、4級—2単位

(認定例)

1年生の前学期に「ドイツ語初級文法Ⅰ」を履修してBの成績をもらい、後学期に単位認定の申請をした場合：

独検3級を取得→残りの3科目がA認定

独検4級を取得→「ドイツ語初級文法Ⅱ」1科目のみA認定

(注意)

1. 4単位認定の場合は各語「初級文法Ⅰ」「初級文法Ⅱ」「初級講読」「中級Ⅰ」が対象となります。
 2. 3単位認定の場合は各語「初級文法Ⅰ」「初級文法Ⅱ」「初級講読」が対象となります。
 3. 2単位認定の場合は各語「初級文法Ⅰ」「初級文法Ⅱ」が対象となります。
 4. 韓国語能力試験だけは、級数が大きくなるほど上級です。
 5. 申請時期は4月上旬と10月上旬の2回です。申請期間等は別途掲示します。
- ※ 外国人留学生は、第二外国語として母語を選択することはできません。第二外国語の代わりに日本語(2単位まで)を選択することができます。
 - ※ 外国籍の学生がその国籍の言語を第二外国語として履修することは、原則できません。母語に相当しない等、特別な事情のある場合は、理由書を添えて教務係に申し出てください。

3) 国際コミュニケーション演習

①教育の目標と内容

リテラシー科目のうち、国際コミュニケーション演習である Communication Skills for Scientists 科目は英語を用いた一連の演習を通して、広範な国際感覚を養成する講義科目です。大学在学中に国際社会に対し幅広い関心を持ち、かつ自文化を深く掘り下げることによって多文化を理解する基礎的な能力を身につけることを目標とします。また、グローバルな分野におけるキャリア形成への意識を高め、将来の研究やビジネスにも役立つコミュニケーション技能を獲得することを目標にしています。

②履修方法と単位の認定について

第1回目の授業でオリエンテーションを行いますので、必ず出席して下さい。当日、担当教員およびその講義内容を記載したシラバスを配布します。原則として、クラスは30名定員で構成します。授業開始までの流れは、次の通りです。

- (1) オリエンテーション
- (2) 履 修 登 録
- (3) 授 業 開 始

Communication Skills for Scientists は1単位であり、学部1～4年次を対象に自由選択単位として卒業単位に加算できます。毎回の授業への参加度が重視され、1/3以上授業に欠席した場合は単位が認定されません。

③履修上の留意点

オリエンテーションの後、Web履修登録を行って下さい。他の科目と同様に、履修登録を行わないと単位が認定されません。

(5) スポーツ健康科学

①教育の目標と内容

スポーツ健康科学科目では、社会生活を送るうえで身に付けておくべき基本的知識及び技能の一環として、人間の身体や健康、スポーツに関する正しい知識を学び、自らの体力とその維持増進方法を実践的に理解するとともに、個々人の目的に応じた身体運動・スポーツ活動を実践する能力の修得を目標とします。さらに、身体活動・スポーツの実践に伴う文化的側面の理解、ルールの遵守や他者との協調等の課題を通じて、集団の中での個人の正しい振る舞いを学び、将来の社会形成に貢献する能力を身に付けることも目標です。

これらの目標を達成するため、スポーツ健康科学科目の3科目（スポーツ健康科学理論、体力学実技、生涯スポーツ実技）はそれぞれの独自性を保ちつつ、有機的に連携しています。各科目の詳細な内容はシラバスを参照してください。

②履修方法と単位の認定について

共同獣医学科を除く全ての学科で、必修科目である体力学実技の1単位のほか、生涯スポーツ実技、スポーツ健康科学理論のいずれか1単位が選択必修となり、合計2単位が卒業に必要な最低修得単位数となります。共同獣医学科では、体力学実技の1単位と生涯スポーツ実技の1単位が必修で、合計2単位が卒業に必要な最低修得単位数となります。なお、2単位を超えて修得した単位は自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。ただし、共同獣医学科では、体力学実技の1単位と生涯スポーツ実技の1単位が必修で、合計2単位が卒業に必要な最低修得単位数となります。教職免許を取得するためには「体育」科目として2単位が必須です。「体育」科目の履修方法・単位の修得方法については、別途授業時間内に教員が説明します。

各科目の第1週目はオリエンテーションとして、科目の説明、受講クラスや種目等の選択を行います。欠席すると希望のクラス、種目等を選択できない場合があります。実技科目は全出席を原則とし、4回以上欠席すると成績評価はDとなります。さらに毎年4月に実施される学生定期健康診断を必ず受診してください。未受診の学生は、実技科目（体力学実技と生涯スポーツ実技）の履修を認められないことがあります。

③履修上の留意点

実技科目の履修に際しては、次のことに留意してください。

- (1) 身体的条件を整えたうえで授業に臨むようにしましょう。生理的に不適当な状態（不眠、過労、病気等）のとき、心理的に不適当な状態（無気力、意欲減退、協調できない等）のときは、授業への参加を認めないことがあります。

- (2) ケガをしたらすぐに担当教員に申し出てください。一見軽くても重大な障害は少なくありません。申し出がないと傷害保険が適用されないことがあります。
- (3) 体育館用のシューズが必要です。屋外用のシューズと区別して使用してください。なお、服装や用具について大学の指定するものではありません。運動に適したものを着用し、清潔を保つよう心がけてください。
- (4) 貴重品は各自で保管・管理し、盗難に遭わないよう注意してください。更衣室は授業開始10分前に開き、最終授業終了10分後に施錠します。

(6) 日本語・日本事情

①教育の目標と内容

日本語科目は、留学生が大学で日本語を使って自学自習できるようになることを目標とします。具体的には、学習に必要な教科書を読む、講義を聞く、レポートを書く、発表するといった活動を、日本語でできるようになることです。日本語科目では、読解、作文力を育成します。口頭発表練習、ビデオ等の視聴覚教材の利用を通して、高いレベルの日本語能力を育成します。

日本事情科目は、留学生の日本の文化、社会に対する理解を深めることを目標とします。日本事情Ⅰでは、大学生活や日本社会への適応を支援するために、前半で教員や日本人学生との関係構築のために必要なスキルを学び、後半で日本社会の特徴や問題について議論を通して考察します。日本事情Ⅱでは、日本における最近の科学技術に関する情報を日本語で理解できるようにすることを目標としています。具体的には、科学的な文章や、ビデオなどを利用して、理解を深め、その後、内容について討論する構成で進めます。

②履修方法と単位の認定について

日本語・日本事情科目は留学生のための科目です。日本語科目の単位は2単位まで英語の必修単位を除く外国語の単位に振り替えることができます。それ以上履修した場合の単位は自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。日本事情科目の単位は4単位まで、共生人文社会科目の単位に振り替えることができます。

日本語科目は演習科目です。日本事情科目は講義科目です。いずれの科目も成績は、試験、レポート、授業への参加度等で評価されますが、欠席が1/3以上ある場合は単位が認定されません。

③履修上の留意点

- ・高専からの編入生（留学生）が、日本語・日本事情の履修を希望するときは、日本語Ⅱ、日本語Ⅲや日本事情Ⅱを履修することをすすめています。

(7) TATⅠ・Ⅱ科目

TATⅠ科目は、本学の出身者として必ず身につけておくべき大学レベルの自然科学系科目（数学、物理学、化学および生物学）であり、高大接続と専門基礎を融合した科目です。また、TATⅡ科目は、講義と実験からなり、直接専門とのつながりはなくても、幅広い自然科学基礎学力（数学、物理学、化学、生物学および地学）を育成するための科目です。

1) 数学

①教育の目標と内容

微分積分学、線形代数学、数理統計学を学ぶことによって、農学系の諸分野に進むための数学基礎学力を身に付け、社会科学やその他の分野にも応用が出来ることを目標にしています。具体的な内容は以下の通りです。

(1) TATⅠ科目

- ・微分積分学Ⅰ：いろいろな関数の微分、Taylor展開、不定形の極限值、有理関数の不定積分、広義積分。

・線形代数学Ⅰ：行列，行列の階数，連立1次方式，行列式，逆行列。

(2) TATⅡ科目

・微分積分学Ⅱ：多変数関数，偏微分，2変数関数の極値，重積分，体積・曲面積，級数。

・線形代数学Ⅱ：ベクトル空間と線形写像，1次独立と1次従属，基底と次元，固有値と固有ベクトル，実対称行列の対角化。

・数理統計学：平均，分散，正規分布，標本，推定，検定。

②履修方法と単位の認定について

TATⅠ科目（微分積分学Ⅰと線形代数学Ⅰ）は共同獣医学科を除く農学部全学科必修です。単位の認定および評価方法については，科目ごとにシラバスで公表されます。（共同獣医学科は学科の指示に従うこと）

TATⅡ科目は各学科の指定に基づいて選択する科目です。微分積分学Ⅱと線形代数学Ⅱおよび数理統計学を開講します。

単位の認定および評価方法については，科目ごとにシラバスで公表されます。

③履修上の留意点

クラス編成に従って，SPICAで履修登録を行ってください。指定されたクラス以外での履修は認められません。

2) 物理学

①教育の目標と内容

「今日，我々の生活のいたるところに物理学は浸み込んでいます。」これは朝永振一郎著『物理学とは何だろうか』の書き出しです。物理学は技術と相互に影響を及ぼしながら発展し，現代文明はその恩恵に浴しています。また，物理学は素粒子から宇宙創成にまでその領域を広げ，人間の自然観にも大きな影響を与えています。

この科目では力学と電磁気学の分野から代表的な現象を取り上げ，それらを数量的に取り扱うことを通して，現象の観察結果からその現象の奥に潜む法則性を理解し，物理学の考え方や方法を身につけることを目標とします。

②履修方法と単位の認定について

TATⅠ「物理学」は農学部全学科必修です。4クラスを開講しますが，クラス分けについては本館掲示板に掲示します。（共同獣医学科は学科の指示に従うこと）

TATⅡ「力学」「電磁気学」「物理学実験」の履修については，学科ごとの指定に従ってください。成績は，授業中に行う小テストやレポート，期末試験の結果で評価します。

③履修上の留意点

TATⅠ「物理学」の履修登録は，クラス編成に従って行ってください。指定されたクラス以外での履修は認められません。本科目はTATⅡ「力学」「電磁気学」「物理学実験」の基礎となる科目です。

また，TATⅠ「物理学」は理科の中学教諭1種免許状および理科の高等学校教諭1種免許状取得のための必修科目となっています。理科の中学校教諭1種免許状を取得しようとする学生は，TATⅡ「物理学実験」も併せて履修してください。

3) 化学

①教育の目標と内容

TATⅠ科目では，自然科学系の大学生として必ず身につけておくべき化学の基礎を講義します。高校で化学を履修した学生はもとより，履修していない学生に対しても化学の基礎と成るべき概念をとりまとめ，わかり易くかつ興味深く解説します。

TATⅡ科目は，専門外の自然科学基礎学力を身につけることを目的とした講義です。多くの学科に共通して必要とされる4つの講義科目（物理化学A〔主に熱力学的内容〕，物理化学B〔主に構造化学的内容〕，無機化学，有機化学）と1つの実験科目が開講されます。

②履修方法と単位の認定について

TAT I 科目の「化学」は、農学部全学生の必修科目です。

TAT II 科目（物理化学 A, 物理化学 B, 無機化学, 有機化学, 化学実験）については、学科ごとに指定された科目および単位数を履修してください。

全ての科目について、時間割上および掲示等で指定されたクラスで履修してください。単位の認定および評価方法については、科目ごとにシラバスで公表されます。概ね授業参加度、レポートおよび試験のうちのいくつかにより総合的に行なわれます。

③履修上の留意点

特にありません。

4) 生物学

①教育の目標と内容

生物は環境に適応し、様々に進化してきました。生命現象を物質から遺伝子、細胞、個体、集団、生態系、様々なレベルで学ぶことで、現代の生命科学の基礎知識に根差した幅広い教養、より専門的な学問領域を理解でき将来に生かせる学識や能力を養うことを目標とします。

1 年次前期 TAT I 「生物学」では、進化のしくみ、生命現象の分子機構、環境と生物、集団と生態系の基礎を学びます。TAT II 科目では、分野ごとにより内容を深め、1 年次後期「細胞生物化学」で分子、遺伝子、細胞レベルの生命現象、「生態学」で個体ごとの生態から個体群、群集、生態系、さらには進化・応用生態学の基礎を学びます。2 年次前期「微生物学」でその基礎から人間との関わりまで、「遺伝学」でその基礎から現代遺伝学の様々なトピックス、2 年次後期「生物構造機能学」で動物と植物の分類、構造と機能、人間との関わりを学びます。

学科により 1 年次後期または 2 年次前期に開講される「生物学実験」では、実際に生物を扱った様々な実験を通して、技術や手法の基礎を習得しながら、生命現象への理解を深めます。

②履修方法と単位の認定について

TAT I 科目の「生物学」は、農学部全学生の必修科目です。

いずれの科目も学科あるいは学籍番号で指定されたクラスで受講することになります。その他成績評価の方法などについては、各科目のシラバスを参照してください。

③履修上の留意点

同じ科目名でクラスが複数存在します。SPICA で履修登録する際には、受講するクラスで正しく登録するよう注意してください。

5) 地学

①教育の目標と内容

地学系科目は広い意味で、農学や環境科学に深く関わる領域です。アグリサイエンスやエコサイエンスの基礎をかたち作る教養として、最近大きく体系化が進められている地球惑星科学という骨組みに立って、地学分野の科学的知識と考え方を身につけることを目標とします。

講義科目は、「地学」と「地球環境地学」が設定されており、前者は地球内部や宇宙までの範囲、後者は地球表層の範囲を対象にして現在の地球環境に関係する内容を講義します。また実験科目として、「地学実験」を開講します。

②履修方法と単位の認定について

「地学」および「地球環境地学」は定期開講科目ですが、「地学実験」は集中で開講します。各科目の履修方法、評価方法はそれぞれのシラバスを参照して下さい。

③履修上の留意点

「地学実験」の履修希望者は、1 年次に開講の地学を修得しておくことを推奨します。「地学」は理科の中学校教諭 1 種免許状、理科の高等学校教諭 1 種免許状の必修科目となっています。理科の中学校教諭 1 種免許状の取得を希望する学生は、併せて地学実験も履修する必要があります。なお、環境資源科学科はこの地学実験のかわりに、「環境資源科学実験Ⅳ（地学応用）」を履修してください。

●IV. 各学科の教育内容について●

1. 生物生産学科

(1) 学科の教育方針

農業生産は、食料や天然繊維・嗜好品・医薬品等々の多彩な工業原料を供給することによって人間生活を広く支えています。また、農地とそこに形成される生態系は、自然と深く結びついた環境構成要素であり、国土保全や環境保全に多面的な役割を果たしています。さらに近い将来には、再生可能なバイオマスエネルギーの重要な給源になると期待されています。生物生産学科では、日本および世界の農業を広く深く理解するとともに、農業に関わる最先端の科学と技術に関する知識を身につけて、その知識を農業の持続的発展や農産物の流通・加工、あるいは農業の多面的機能の積極的利用に活かすことのできる人材の養成を目指しています。

この目的のために、生産技術環境、植物生産、動物生産（家畜・昆虫）および農業経営経済の4分野の基礎的事項をすべての学生が理解し、そのうえで、学生個々人の選択に基づき個別分野に重点を置いた履修や全分野型の履修を進めます。これらの教育は問題解決の能力や独創的発想を生み出す能力を伸ばすことを意図して行われます。生物生産学科の卒業生は、農林水産省や都道府県の行政機関・試験場・研究所・普及機関、JA 全中や JA 全農、農林漁業金融公庫・農林中央金庫をはじめ、中・高校の教諭、農業関連企業、国連機関などに勤めています。また、大学院への進学率も高く、研究者として必要な基礎知識や研究方法をさらに学び、研究機関や大学などに就職しています。

(2) 学科の教育内容

生物生産学は農産物の生産から消費までの人と自然にかかわる総合科学です。すなわち、遺伝・発生・酵素反応など生物学の基礎から、光合成・養分吸収・窒素固定・泌乳生理など生物生産機能の解析、群落構造・施肥管理・家畜飼養管理など生産プロセスの解析と改善、農業政策、農産物の流通・消費システムなど、きわめて多岐にわたる内容が体系的に構成されています。これらの内容に関する講義と並行する形で、実際の題材を用いた生物生産学実験・生物生産学実習・農業経営経済学総合演習等が行われ、理論と実際を効果的に学ぶことができます。

1～2年次で教養を身に付けるとともに、共通科目、生産技術環境系科目、植物生産系科目、動物生産系科目、農業経営経済系科目および新領域科目の6つに分類された専門科目を履修していきます。特に新領域科目では専門に関連した最新の話題や将来を見据えたテーマについて学びます。具体的なカリキュラムは学科課程表（履修案内 p.38～39）およびコースツリー（履修案内 p.63）を参照してください。

これらの内容に関する講義と並行する形で、実際の題材を用いた生物生産学実験・農場実習・経営経済学演習等が行われ、理論と実際を効果的に学ぶことができます。

(3) 履修方法

本学科の授業科目は、全学共通教育科目および専門科目のいずれにおいても特に基礎的なもの以外はすべて選択科目となっています。これは、個々の学生が自分自身の学問的関心や進路に合わせて必要な科目を履修できるように配慮しているためです。また、履修科目を選択する際の道標として、いくつかの履修プログラムを用意しており、これについては入学後のガイダンスで詳しく説明します。

1) 学科専門科目

学科専門科目は6つに分類されていますが、特に学科共通科目は生物生産（農業）の概要を理解するために必要な授業であり、できるだけ多く履修してほしい科目群です。卒業には、これらの専門科目の中から必修の12単位を含めて、60単位以上修得することが必要です。

2) 実験・実習・演習科目の履修について

基礎的な知識がないまま専門科目を履修しても、十分に理解することはできません。2年次以降に開講される実験・実習・演習科目の履修には1年次において、全学共通科目である生物学実験と化学実験並びに学科科目である生物生産学原論とフィールド実験実習Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましいので必ず履修して下さい。

3) 卒業論文履修と研究室所属

卒業論文を選択する学生は、生物生産学科の研究室からなる16研究室のいずれかに3年次後学期から分かれて所属し、卒業論文作成の指導を受けます。

3年次後学期からの卒業論文履修にあたっては、原則として、希望する研究室で指導を受けることができます。ただし、研究室には収容しうる学生数に制限があるため、著しい偏りが生じないように、学生間で調整してもらうことがあります。学生間での調整が困難な場合には、所属希望先の教員による面接・試験等による選抜が行われることもあります。研究室への所属に際しては、別にガイダンスを行います。

生物生産学科には以下の4つの科目系があります。

ア) 生産技術環境系（土壌学，植物栄養学，農業生産技術学）

環境と調和した持続的な農業植物・動物生産のため、土壌環境，作物への養分供給，病害虫などの物理，化学，生物学的な生産環境制御に関わる科学と技術について教育と研究を行います。

イ) 植物生産系（植物生態生理学，園芸学，植物育種学，国際生物資源学，遺伝子細胞工学）

持続的な植物生産，品種改良の基盤となる農業植物の生態，生理，栄養，遺伝，育種，バイオテクノロジーなどの基礎と応用の科学と技術について教育と研究を行います。

ウ) 動物生産系（畜産学，蚕学，昆虫機能生理化学，動物生化学）

家畜，家蚕，およびその他有用農業動物の持続的な生産と利用をめざし，これら動物の遺伝，発生，生理，栄養，繁殖，生態，バイオテクノロジーなどの基礎と応用の科学と技術について教育と研究を行います。

エ) 農業経営経済系（農業経済学，農業経営・生産組織学，農業市場学，国際地域開発政策学）

農業における生産，経営，市場，多面的機能及び食糧消費構造等に関する経済学的基礎，政策，国際関係及び歴史について教育と研究を行います。

(4) 取得できる資格など

本学科には、普及指導員の筆記試験に必要な専門科目の講義が充実しているため、その資格が得やすくなります。これは従来の農業改良普及員に代わる資格で、国が実施する試験によって資格が得られます。ただし、受験には、大学卒業後4年以上または大学院修了後2年以上の実務経験が必要で、都道府県や農協等の職員として、試験研究，教育・普及指導などに一定期間従事したのちに、資格試験を受けることになります。

また、本学科では家畜人工授精師の資格を得るために必要な履修科目（講義・実験）の大部分を開講しているので、卒業後にその資格を得やすくなります。詳細については畜産学教育分野担当教員に問い合わせして下さい。

【コースツリーの説明】

生物生産学科の授業科目相互の関係を説明します。本学科では、3年次後学期から希望する研究室に所属して卒業論文研究を開始します。研究室はおおまかに授業科目と同様、生産技術環境系，植物生産系，動物生産系（家畜系と昆虫系）および農業経営経済系の分野に分かれています。しかし、入学時から1つの分野の授業科目のみを履修したのでは生物生産学（農学）を理解したとはいえません。教育方針にもあるように、広い分野を理解できる知識，専門分野における確かな技術，優れた問題解決能力の3つが本学科の教育目標です。

本学科では全学共通科目群のうち化学実験および生物学実験を必修としていますが、これらは学科専門実験の理解に必要であるためです。全学共通科目群には、哲学や心理学などの人文社会科学系科目，数学や理科などの自然科学系科目，外国語科目，スポーツ科目等，健全な精神と健全な肉体を維持・向上することにより，人格形

成の糧となる科目があります。また、専門分野にやや近い教養科目（農学部共通科目）も数多く設けられています。

これらの教養・基礎・専門教養科目を学びながら、学科専門科目を基礎的なものから応用的なものへと順に履修していきます。専門科目では、生物生産学の全体を理解するために学科共通科目群があり、そのうえに、卒業論文研究を行う比較的狭い専門分野の科目群が配置されています。

生物生産学授業科目のコースツリー



2. 応用生物科学科

(1) 学科の教育方針・教育内容

近年のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する最先端科学と技術のめざましい発展によって、生物自身の生命維持活動、生物間の相互作用、生物が生み出す物質の特性や機能などについて、それらの解明および利用が可能になってきました。人類を含めて生物は互いに無関係ではなく、食物連鎖を含めあらゆるレベルで関係をもって共存しています。生物のもつ生命現象や生物個体間相互作用と共存様式の解明は、人類が「持続可能な発展 (Sustainable Development)」を成し遂げていくために必要不可欠であり、これらの応用への道を拓くことは新しい時代の要請です。

本学科は、化学と生物学を基盤科学とし、分子、細胞、個体から生物群集の活動、相互作用にいたる一連の生命現象と生物機能を解明、応用、発展させることをめざした教育と研究を行い、バイオサイエンス、バイオテクノロジーの分野で活躍できる基礎と応用能力、さらには開発能力を備えた指導者となりうる人材を養成することを目標としています。

1, 2年次では、人文社会科学、リテラシー科目などの教養科目、自然科学系の基礎科目、および学科専門科目のうちの基礎的な科目（「有機化学」、「生化学」、「分析化学」、「分子生物学」など）を履修して、広く豊かな教養を身につけるとともに専門教育の基礎力を養います。

学生実験は、1年次後期に基礎的な実験（化学実験・生物学実験）を履修し、2年次後期からは学科の専門的な実験（応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱ、応用生物科学専門実験Ⅰ～Ⅵ）を履修します。本学科では実験を特に重視していることから、2年次後期と3年次前期は、午前中は講義、午後は学生実験という生活を送ることになります。

学科専門科目は、1年次から3年次までに基礎的な科目から次第により専門的な科目へ、また時間数も徐々に多くなるように配置されています。さらに、幾つかの「特別講義」が開講され、専門に関連した最新の情報や広範な知識を習得する機会を設けています。

4年次は、「卒業論文」の履修が中心になります。3年次までの学習によって形成された各自の関心を基礎に、分子生命化学講座、生物機能化学講座、生物制御学講座のいずれかの教育研究分野に属して、教員から指導を受けながらほぼ1年間にわたって研究に取り組み、論文を作成し、発表します。本学科の専門教育の総仕上げである「卒業論文」には、8単位があたり、毎日の大半を研究室で過ごします。

具体的なカリキュラムは学科課程表（履修案内 p.40～41）およびコースツリー（履修案内 p.67）を参照してください。

(2) 履修上の注意

卒業には、応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱを含めて、本学科専門科目60単位以上の修得が必要です。また、応用生物科学共通および専門の履修申告には、2年次前期終了時に次の要件を満たしていることが必要です。

- 1) 全学共通教育科目を25単位以上、ただし、化学実験、生物学実験を含めてTATⅡ科目を12単位以上、リテラシー科目は5単位以上を修得していること。
- 2) 学科専門科目は、18単位以上を修得していること。
- 3) 応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱ、応用生物科学専門実験Ⅰ～Ⅵの単位を修得していないと、研究室に所属して卒業論文を履修できません。

学科専門科目の実験は、2年次後学期から3年次前学期にかけて行われます。応用生物科学共通実験ⅠおよびⅡは必修科目で、卒業までに必ず履修する必要があります。また、共通実験ⅠおよびⅡの単位を修得していないと、3年次前学期の専門実験は履修できません。2年次での実験の履修は卒業論文を履修して4年間で卒業するための条件の一つとなります。注意して履修計画を立ててください。

なお、実験（応用生物科学共通実験・専門実験）の履修に関しては、施設・設備の制約から2クラスに分けま

す。

(3) 講座の研究・教育分野と講座への所属

本学科には3つの講座があり、共同して学科の教育を担当しています。卒業論文作成のために所属する講座を、学生は決定することができます。ただし、施設・設備・教員数等による制約から、各講座に入室可能な学生数には上限が設けられています。

1) 分子生命化学講座

生命を維持する上での生体物質の動的役割、すなわち、生物の代謝・生理、生物による物質変換、遺伝情報と発現・調節、蛋白質の構造と機能などに関する教育を行います。この講座は、生物化学、遺伝子機能制御学、構造生化学、発酵学、植物工学、遺伝子工学、細胞組織生化学の7つの教育研究分野で構成されています。蛋白質・糖鎖の生理機能と生物工学、酵素の構造と機能と蛋白質工学、遺伝子の構造と機能・発現調節機構の解明、微生物が生産する新しい生理活性物質（医薬など）と酵素の検索およびその生化学、などの教育と研究を行います。

2) 生物機能化学講座

生体物質（生理活性物質、脂質、糖、蛋白質、酵素、遺伝子）などの構造と機能、生物との相互作用などに関する教育を行います。この講座は、生物制御化学、生態情報化学、生物有機化学、食品化学、栄養生理化学、応用蛋白質化学の6つの教育研究分野で構成されています。生理活性物質の構造、活性、合成、生体高分子の構造・物性・機能改変、栄養素による機能調節・疾病改善作用、およびこれらの分野と密接に関連した応用分野（医薬、農薬、香料、食品、生体高分子材料など）に関する教育と研究を行います。

3) 生物制御学講座

生物の調節機能と生物間相互作用のしくみ、および生物の生存様式について教育を行います。この講座は、植物病理学、応用昆虫学、応用遺伝生態学、発生生物学、細胞分子生物学、相関分子生物学の6つの教育研究分野で構成されています。生物集団の動態、動植物と微生物の相互作用およびこれらの生理機能、発生、遺伝子発現、生殖のしくみなどについて蛋白質、遺伝子、細胞、個体、個体群、群集などのさまざまなレベルで教育と研究を行います。

(4) 卒業論文履修上の注意

卒業論文の履修は4年次からですが、所属する講座の決定は3年次後学期に行います。履修には、3年次前期終了時点で次の条件を満たしていなければなりません。

- 1) 全学共通教育科目を33単位以上、ただし、TATⅡ科目を16単位以上、リテラシー科目は6単位以上を修得していること。
- 2) 学科専門科目は実験も含めて38単位以上を修得していること。
- 3) 化学実験、生物学実験、応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱ、および応用生物科学専門実験Ⅰ～Ⅵをすべて履修していること。

また「科学英語論文演習Ⅰ」と「科学英語論文演習Ⅱ」は、卒業論文を履修した者に対して講座において開講される科目であるため、卒業論文を履修しない者は選択することが出来ません。

(5) 取得できる資格

- 1) 別表の「食品衛生コース」カリキュラムを修めた者は、食品衛生監視員、食品衛生管理者の資格が得られます。この資格は就職後、地方公共団体あるいは企業等を介し必要書類（成績証明書とコース修了証明書）を添えて保健所等へ申請し、実務につくものです。但し編入学生は、「食品衛生コース」の履修が原則不可能です。

東京農工大学農学部応用生物科学科「食品衛生コース」カリキュラム

(平成24年度改正)

区分	授業科目	単位	備考	区分	授業科目	単位	備考
必修科目	分子生物学Ⅰ	2	学科共通科目	必修科目	無機化学	2	T A T II 科目
	応用生物科学共通実験Ⅰ	1			微生物学	2	
	応用生物科学共通実験Ⅱ	1			遺伝学	2	
	応用生物科学専門実験Ⅰ	1	学科共通科目 (化学系実験)		分析化学Ⅰ	2	学科共通科目
	応用生物科学専門実験Ⅱ	1			生化学Ⅰ	2	
	応用生物科学専門実験Ⅲ	1			食品化学Ⅰ	2	
	応用生物科学専門実験Ⅳ	1	学科共通科目 (生物系実験)		有機化学Ⅰ	2	
	応用生物科学専門実験Ⅴ	1			生化学Ⅱ	2	
	応用生物科学専門実験Ⅵ	1			分析化学Ⅱ	2	
	小計	10			遺伝子工学	2	
			有機化学Ⅱ	2	学科共通科目		
			有機化学Ⅲ	2			
			食品化学Ⅱ	2			
			食品製造学	2			
			食品衛生学	2			
			天然物有機化学	2			
			小計	32			
			選択必修科目	分子細胞生物学		2	学科共通科目
				細胞工学		2	
				栄養化学Ⅰ		2	
				専門自由科目(食品工学)	2		
				病原微生物学	2		
				代謝工学	2		
				生化学Ⅲ	2		
				応用微生物学	2		
				植物栄養学	2	生物生産学科 植物系科目	
				公衆衛生学総論	1	共同獣医学科 応用獣医学科目群	
			疫学	2			
			選択必修科目については4科目8単位修得すること				
①	必修科目及び選択必修科目合計					50単位以上	
② 選択科目	別添「応用生物科学科教育課程表」に記載されている次の科目 ・本カリキュラム選択必修科目で8単位を超えて修得した科目 ・本カリキュラム以外の科目					32単位以上	
	専門科目合計					82単位以上	

応用生物科学科コースツリー

生物制御科学専攻

応用生命化学専攻



卒業論文

科学英語論文演習 I - II



学科専門科目 (学科共通科目)

食品衛生学	蛋白質学	農薬化学		
食品製造学	代謝工学	昆虫生理学		
生体高分子利用学	応用生物科学特別講義 I - II	病原微生物学		
有機合成化学	応用生物科学専門実験 I - VI	バイオリジカルコントロール		
栄養化学 I - II	応用生物科学共通実験 I - II	生理活性物質化学		
食品化学 I - II	応用生物科学実習	科学英語	植物病理学	
応用微生物学	細胞工学	植物工学	天敵微生物学	
微生物生化学	遺伝子工学	免疫生物学	生物相関学	
天然物有機化学	神経生物学	発生生物学	植物保護学	
生化学 I - III	分子生物学 I - II	分子細胞生物学	植物生理学	
有機化学 I - III	情報処理学	農場実習	分析化学 I - II	昆虫生物学



全学共通教育科目(2) (TAT I・II)

線形代数学 I - II 微分積分学 I - II 物理学 化学 生物学 化学実験 生物学実験
数理統計学 力学 電磁気学 物理化学 A・B 無機化学 生態学 遺伝学 微生物学
細胞生物化学 生物構造機能学

全学共通教育科目(1)

農学基礎ゼミ MORE SENSE 入門 科学技術と社会 融合科目
共生人文社会科学 リテラシー科目 スポーツ健康科学科目

1. 1年次および2年次前期までは、全学共通教育科目を通して、幅広い教養および基礎的な専門分野を学ぶ。
2. 2年次後期から3年次にかけて学科専門科目や専門実験を履修し、専門分野を学ぶ。
3. 3年次後期に研究室に所属し、4年次から卒業論文を履修し、卒業論文を作成する。
4. 本学科を卒業した者の多くは、応用生命化学専攻および生物制御科学専攻（大学院修士課程）に進学し、より深くそれぞれの専門分野について履修する。

3. 環境資源科学科

(1) 学科の教育方針

近代科学のめざましい発展と技術革新は、我々の生活に豊かさを生み出しました。しかしながら、急激な人口増加と化石資源に依存した大量生産・大量消費・大量廃棄は、大気、水、土壌など生物圏の環境悪化を引き起こしています。その結果、人類は生存が脅かされる種々の難問に直面しています。

本学科は、環境保護学と資源物質科学に関する教育と研究を通じ、人類が地球環境と調和しながら持続的に共存するための自然科学を創出できる人材や、物質を循環させるメカニズムを総合的に理解して地球環境に関する種々の問題の解決に貢献できる人材の育成を目指しています。

(2) 学科の教育内容

本学科は、「環境と資源」というキーワードを機軸としています。生物学・物理学・化学および地学の基礎知識を土台に、地球環境に関する基礎的な内容から、より専門性の高い内容まで、幅広く教育を行っています。

特に、物質の基本的性質や反応・挙動に関する教育と研究、地球環境を汚染する化学物質の動態解析や生態影響への評価・予測に関する教育と研究、悪化した地球環境の修復に関する教育と研究、太陽エネルギーによって固定された炭素により形成される植物バイオマスの有効利用に関する教育と研究、資源のリサイクル・再生・分解・廃棄など循環型社会の構築に関する教育と研究、などを系統的に行っています。具体的なカリキュラムは、学科課程表（履修案内 p.42～）およびコースツリー（履修案内 p.71）を参照してください。

(3) 専門科目の履修方法

卒業するためには、環境資源科学実験Ⅰ～Ⅳをのぞく学科共通科目から31単位以上、環境資源科学実験Ⅰ～Ⅳから2単位以上、さらに学科専門科目から20単位以上を修得しなければなりません。

(4) 卒業論文の履修方法

1) 履修方法

3年次に卒業論文の履修のためのガイダンスを開催し、教育研究分野の概要と卒業論文の履修方法・要件について説明します。卒業論文の履修を希望する学生は、ガイダンスの内容に基づき希望する教育研究分野を選び、その教員の指導のもとで研究を行います。4年次後学期の所定の期日に口頭発表を行い、卒業論文を作成して提出した学生は、単位の認定を受けます。

ただし、教育研究分野を選んだ学生が4年次に卒業論文の履修を申請するためには、3年次後学期終了までに以下の要件を満たしていなければなりません。

2) 履修要件

卒業に必要な124単位のうち94単位以上を修得していること。ただし、全学共通教育科目は卒業に必要な55単位のうち44単位以上（リテラシー科目6単位を含む）、専門科目は卒業に必要な55単位のうち45単位以上を修得していなければなりません。

また、実験はTATⅡ科目の必修3科目及び学科共通科目の環境資源科学実験4科目（Ⅰ～Ⅳ）の合計7科目の中から4単位以上を修得しておく必要があります。

なお、卒業論文の履修要件と卒業見込証明書の発行要件は同じです。

(5) 教育研究分野

卒業論文を履修する学生は、以下の教育研究分野を選び、論文を作成します。

環境物質科学分野

物理化学，有機化学，無機化学，生物化学などの基礎化学を基盤として，以下の各項目についての教育と研究を行う。①環境や資源を構成する物質の構造，動態，反応，機能の詳細解明。原子・分子，高分子，超分子，凝集体，器官などのさまざまな階層の物質を対象とする。②環境にやさしい材料の開発と利用。③環境や資源の新しい分光分析手法の開発。④環境中で光によって誘発される有機化学反応の発見と反応機構の解明。

環境汚染解析分野

国内から東アジア，東南アジア，アフリカにまでわたる地球規模で，人間活動による汚染物質の発生メカニズム，大気・水・土壌・生物圏における輸送過程と分布，それらの生物への蓄積や影響を，化学的な手法により解析する教育研究を行う。主な研究対象は，①大気汚染物質，特にエアロゾル（粒子状物質），②石油汚染，残留性有機汚染物質（POPs），環境ホルモン，医薬品・抗生物質等の有機汚染物質，③生態系汚染，特に有害金属類などの微量元素。

生物圏変動解析分野

地球生物圏に起こりつつある温暖化，大気汚染，酸性雨，内分泌攪乱物質による水域汚染等の重大な環境攪乱について，温室効果ガスをはじめとする炭素，窒素等の生元素循環，大気や水域における汚染物質の広域的な挙動，気候変動や大気汚染の陸上生態系への影響，人工化学物質による海洋生態系生物へのインパクトの点から解明し，地球環境問題の解決に貢献する教育研究を行う。

環境修復分野

地圏・水圏・大気圏からなる生物圏における様々な生態系が有する回復力のメカニズムを，微生物学および土壌学の視点から明らかにし，それらの知見をもとにして，汚染された生態系，そして人間活動による過度の利用のために劣化した生態系を修復すること，ならびに我々の生存にとって不可欠である土壌資源・水資源の持続可能な利用に関する教育研究を行う。

植物環境分野

植物（農作物，樹木および絶滅危惧植物）に対する環境ストレス（大気汚染ガス，エアロゾル，酸性降下物，地球温暖化など）の影響とそのメカニズムなどに関する教育と研究を行う。植物バイオマス，特に木質バイオマスの特性や形成機構の細胞生物学的解析，組織培養法による有用樹木の開発，環境変動下における樹木の適応性の生理学的解析などに関する教育研究を行う。

生活環境分野

生活環境，特に住環境で使われる木材を主とする森林資源材料について，その物性と機能の解析，それら材料の物理的・工学的な先端加工技術，複合化・機能化等に必要な接着性・耐久性・寸法安定性を目指す化学加工とそれらの応用による機能性植物資源材料の開発，循環型利用法の開発，さらにこれらの材料のライフサイクルにおける環境負荷やライフスタイルからみた評価と提案に関する教育研究を行う。

バイオマス・リサイクル分野

植物バイオマスの有効利用及びリサイクルに関する科学技術を基盤として，植物細胞壁由来の高分子資源から石油系高分子に代替可能な特性・機能をもつ高分子材料の開発，植物の生分解機構を利用したバイオマスからの有用物質生産，木造建築物の腐朽防止技術の開発，紙系廃棄物を中心とした植物繊維資源のリサイクル技術及び文化資源としての紙資料の保存処理技術の開発に関する教育研究を行う。

【コースツリーの説明】

本学科は、環境保護学と資源物質科学の分野を調和・融合させた教育を効果的に行うため、以下に示す3階層に対応したカリキュラムを実施しています。

「環境と資源」に関する科学の基礎教育は、おもに1年次から2年次にかけて行い（第1階層）、2年次後半からさらに深い専門的な教育を段階的に行います（第2階層から第3階層）。また、第2と第3階層の講義も、くさび形カリキュラムとして一部を1年次から学ぶことができます。また、学生は興味をもった教育研究分野を3年次の後半に選び、各教員の指導の下、4年次後学期の所定の期日までに研究を行い、卒業論文を作成します。

第1階層－自然科学の基礎知識や環境資源科学に対する考え方を学ぶための科目

第2階層－環境資源科学を自然科学の総合科学として捉えるための科目

第3階層－環境資源科学の特定専門領域を深く学ぶための科目

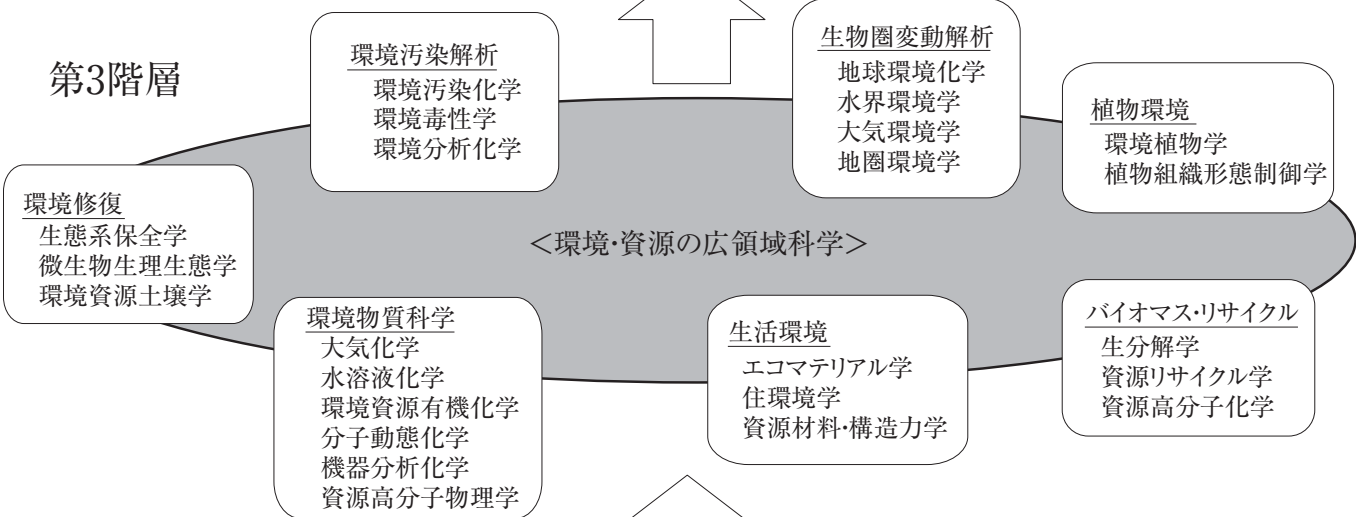
環境資源科学科 コース・ツリー

MR 専攻, MK 専攻, MI 専攻, BASE

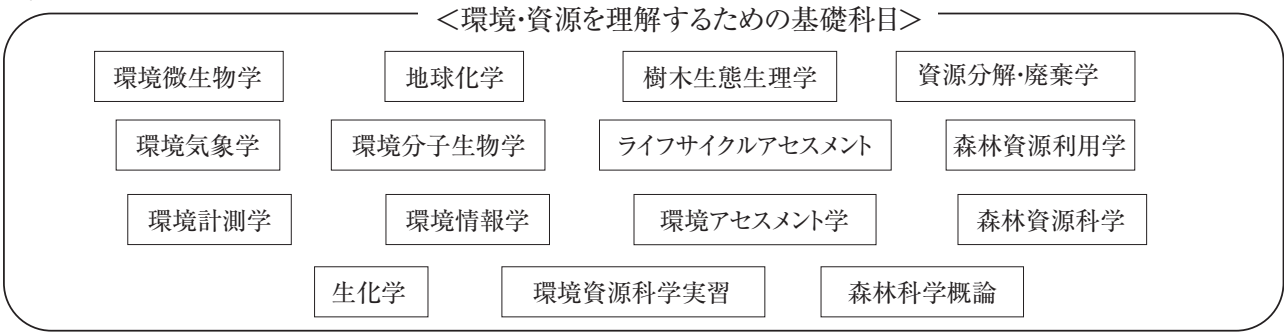


卒業研究・卒業論文

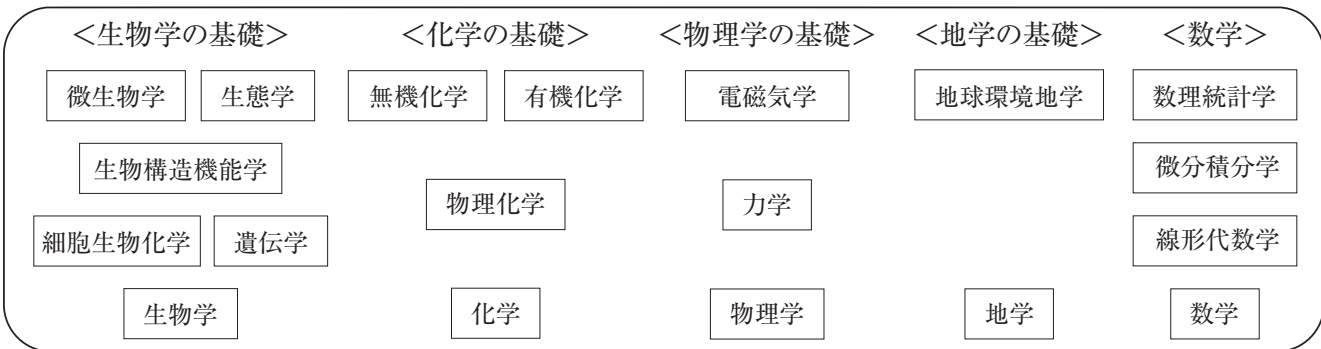
第3階層



第2階層



第1階層



4. 地域生態システム学科

(1) 学科の教育方針と教育内容

地域生態システム学科では、森林と田園や公園、農山村と都市など空間や関係性を一つの連続した「地域」として捉え、その地域に広がる生態系や人間の関わりに着目した新しい教育研究を行っています。

具体的には、野生生物や都市緑地、田園農地、森林緑地、河川などの地域資源や人間の関わりについての基礎的教育をベースに、人と自然が共生し、持続可能な生産・資源管理を行うための計画・設計・管理手法に関する教育、人々が快適に暮らし、持続可能な新しい産業を生み出すためのシステムを発展させる教育を行います。また、近年社会的ニーズの高い、地域における政策立案や環境評価、地域連携・国際協力のあり方などについて総合的に理解し、それぞれの地域で主体的に活躍できる人材の育成を目指しています。

こうした理念を達成するため、関連するさまざまな知識や技術を基本的な素養として身につけて地域社会の中で実際に応用できる能力を開発していくことが本学科の教育目的となります。すなわち、本学科の教育課程は、2年次前学期までは学科共通科目を中心に基礎的な専門教育を行い、2年次後学期から学生自身が受講する科目を選択することでその関心や希望する進路に沿って専門的な学習を深められるようにできています。また、3年次からは皆さんが興味を持った教育研究分野を選び、演習や実験・実習などの形で教員の指導による卒業研究を行い、4年次の所定の期日にその成果を発表します。具体的なカリキュラムは学科課程表（履修案内 p.44~46）およびコースツリー（履修案内 p.76）を参照してください。

(2) 履修方法

1) パッケージ・プログラムとは

本学科では、学科専門科目を組み合わせた独特のパッケージ・プログラム制による教育を行います。パッケージとは、複数の授業にまたがる内容を系統的に学ぶことを容易にするため、2~3の講義科目と実験・実習・演習科目を一組にしたものです。プログラムは、これらのパッケージを基本単位として積み上げ（基本パッケージ）、それらに関する学習の理解を広げる推奨科目を加えて構成されています。基本パッケージ科目と推奨科目の履修指定はプログラムごとに異なりますが、指定された要件を満たすとそのプログラムを修了したと認められ、本学科の卒業と同時にプログラム修了認定証が授与されます。

学生は設定されたプログラムの中から1つ以上を選択し、卒業するまでの間に指定された要件に従って履修します。プログラム登録は、4年次前期に行います。プログラム登録のためのガイダンスは2年次前学期から開催し、具体的に説明します。

ただし、3年次編入生については、卒業単位の修得はおおよそ可能ですが、プログラムの履修は難しい場合があります。

2) 本学科のプログラム

本学科には全部で8つのプログラムがあります。プログラムは、現実に生じている地域の複雑な問題を多様な視点から捉え、的確に対応できる人材を養成するため設けたもので、社会の多様なニーズに応えるとともに、皆さんの将来の進路・職業選択にも役立つように設計されています。

- ・生態系保全プログラム：自然生態系の管理に関わる諸問題の現場解決能力（情報収集、解析、デザイン）を養うと同時に、自然環境保全、野生生物管理を実践する専門家を養成するための教育を行います。
- ・森林科学プログラム：森林と森林環境の創造および設計ができる知識と技術を修得し、森林をとりまく諸問題の現場解決能力（情報収集、解析、デザイン）を養うと同時に、森林をさまざまな側面から理解できる豊かな人間性と国際感覚を養成するための教育を行います。
- ・農業環境工学プログラム：都市・農村における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図る地域環境整備、及び生産性向上と環境保全を同時に解決する持続的食料生産システム構築を担う農業環境工学の専門家を養成を目指す。

- ・共生持続社会プログラム：共生のあり方をめぐるあるべき理念と、現にある社会や文化の分析・検討を多元的な方法論から体感することを通して、人文社会科学的な分析眼と思考力・想像力をもって、人と自然・人と人との共生のあり方を考え、そのビジョンを示すことのできる能力を育成する。
- ・環境修復工学プログラム：環境の再生・修復に関して工学的観点から問題を解決する能力を養い、同時に応用生態工学、農業工学分野におけるリーダーを育成するための教育と研究を行います。
- ・流域保全・管理プログラム：流域という自然的、社会的、文化的にまとまった広域の生態系を様々な視点から把握すると共に、その管理・修復技術を既存の学の体系を超えて総合的に学ぶ。
- ・人と動物の共生プログラム：人の生活圏から離れたところに生活する野生動物の保護管理および飼育動物など人の生活圏の中にある動物との関係性の再認識等を通じての動物と人との共生社会の実現を目指す。
- ・農山村地域ガバナンスプログラム：農山村地域における、生態系と地域社会の持続可能性の維持を目的として、様々な主体の合意のもとに自然資源管理計画・景観計画・土地利用計画・地域振興計画を策定し、様々な主体の連携・協働によって諸政策を実行する。地域の持つ歴史的・文化的・生態的特性を認識し、ガバナンスの各過程を主導的に担う人材の育成を目指す。

3) コースツリー

本学科での授業科目の履修の流れを模式的に示したものがコースツリーです。授業科目は全学共通教育科目、学部共通専門科目と学科専門科目があり、学科専門科目には学科共通科目とパッケージ・推奨科目群があります。全学共通教育科目、学部共通専門科目の多くは1年次、2年次に開講され、専門科目を履修するための基礎や、専門に直結する教養を身につけます。学科専門科目のうち、学科共通科目と多くのプログラムで共通する授業科目は全学共通教育科目、学部共通専門科目と並行して1、2年次に履修できるようにカリキュラムが作られています。より専門性の高い学科専門科目は2年次後学期以降に開講されます。3年次後学期からはゼミ形式の特別演習を履修し、4年次終了までの間に卒業研究を行います。希望する場合は卒業論文を作成することができます。

さらに進んで教育・研究を目指す人には、本学科の教育・研究をより専門的に学ぶために大学院農学府のカリキュラムが用意されています。

(3) 地域生態システム学特別演習Ⅰ～Ⅲおよび卒業論文の履修

1) 地域生態システム学特別演習Ⅰ～Ⅲ

本学科では、さまざまな教育研究分野の教員が共同で授業を担当しています。学生は、3年次の後学期から教育研究分野のいずれかに所属して「地域生態システム学特別演習Ⅰ～Ⅲ」を履修します。この特別演習は、所属した教育研究分野（研究室あるいは研究グループ）でのゼミを通して学生が主体的に進める卒業研究です。学生は、その卒業研究の成果を4年次後学期の所定の期日に発表します。ただし、施設・設備・教員数等による制約から、各教育研究分野に所属可能な学生数には上限が設けられています。

3年次の前学期に教育研究分野への所属についてのガイダンスを開催し、具体的に説明します。

2) 卒業論文の履修方法・要件

自ら進めてきた卒業研究を論文の形でまとめることを希望する学生は、4年の後学期に「卒業論文」を履修することができます。卒業論文は原則として所属する教育研究分野の指導教員のもとで作成して提出します。4年次の前学期に卒業論文履修のためのガイダンスを開催し、卒業論文の履修方法・要件について具体的に説明します。

3) 本学科の教育研究分野

本学科を卒業し、専門分野についてさらに深く学ぼうとする学生は、本学大学院（修士課程）を受験することができます。本学科の教育研究分野と、関連する大学院の専攻は次のとおりです。

地域生態システム学科教育研究分野	大学院（修士課程） 関連する専攻
景観生態学，野生動物保護学，植生管理学，健康アメニティ科学，森林土壌学，森林生態学，森林生物保全学，森林水文学，森林環境工学，森林一人間系科学，森林計画学，森林利用システム学，森林資源管理学，山地保全学	農学府 自然環境保全学専攻
水資源計画学，生産環境システム学，生産環境制御学，耕地栽培システム学，エネルギー利用学，地盤工学，施設構造工学，地域生活空間計画学，ファイトテクノロジー，土地利用学	農学府 農業環境工学専攻
環境哲学・コミュニケーション哲学，環境倫理学・比較価値形成論，比較心理学，環境社会史・文化史，科学技術論，環境公法学，国際関係学，環境情報科学，環境教育学，共生福祉論	農学府 共生持続社会学専攻
水利システム工学，環境地域社会学，国際比較経済開発論，流域環境修復保全学	農学府 国際環境農学専攻
土壌生態管理学	生物システム応用科学府 (博士前期課程)

(4) 取得できる資格など

地域生態システム学科の所属学生または卒業生は次のような資格を得ることができます。その取得要件を示します。

1) 測量士，測量士補

測量に関わる科目（測量学Ⅰ，測量学Ⅱ，測量学実習Ⅰ，測量学実習Ⅱ，リモートセンシング論）を履修し，かつ，所定の履修プログラムを修了した者は，測量士補の資格が得られます。さらに1年間以上の測量実務経験により，測量士の資格が得られます。

2) ビオトープ管理士資格試験の筆記試験一部免除

指定された学科授業科目を履修しているか，年度内に履修見込みの場合，資格試験科目の受験が一部免除されます。ビオトープ管理士資格試験の詳細は財団法人日本生態系協会のホームページ（<http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>）で確認してください。なお，該当する講義科目は別に定められています。

3) 樹木医補

農学部の教育課程を修め，かつ樹木医に関わる講義分類8分野から6分野以上を選び14単位以上の履修，かつ，実験・実習において4科目を履修した者は，樹木医補の資格が得られます。さらに1年間以上の実務経験を経て樹木医の受験資格が得られます。なお，該当する講義科目および実験・実習科目は別に定められています。

4) 自然体験活動指導者

「インタープリテーション技術」を履修して最後の確認試験に合格し，所定の登録手数料を支払うことで全国体験活動指導者認定制度の「自然体験活動指導者」の資格を取得できます。本資格の詳細は，NPO法人・自然体験活動推進協議会（CONE）のホームページ（<http://www.cone.ne.jp/>）で確認してください。

5) 東京都 ECO-TOP プログラム

持続可能な社会の構築に向けて行動できる人材を育成するための「ECO-TOP プログラム」に，農学部地域生態システム学科が認定されています。指定された科目を履修することで，卒業と同時にプログラム修了者として東京都に登録されます。

6) 森林情報士 2 級

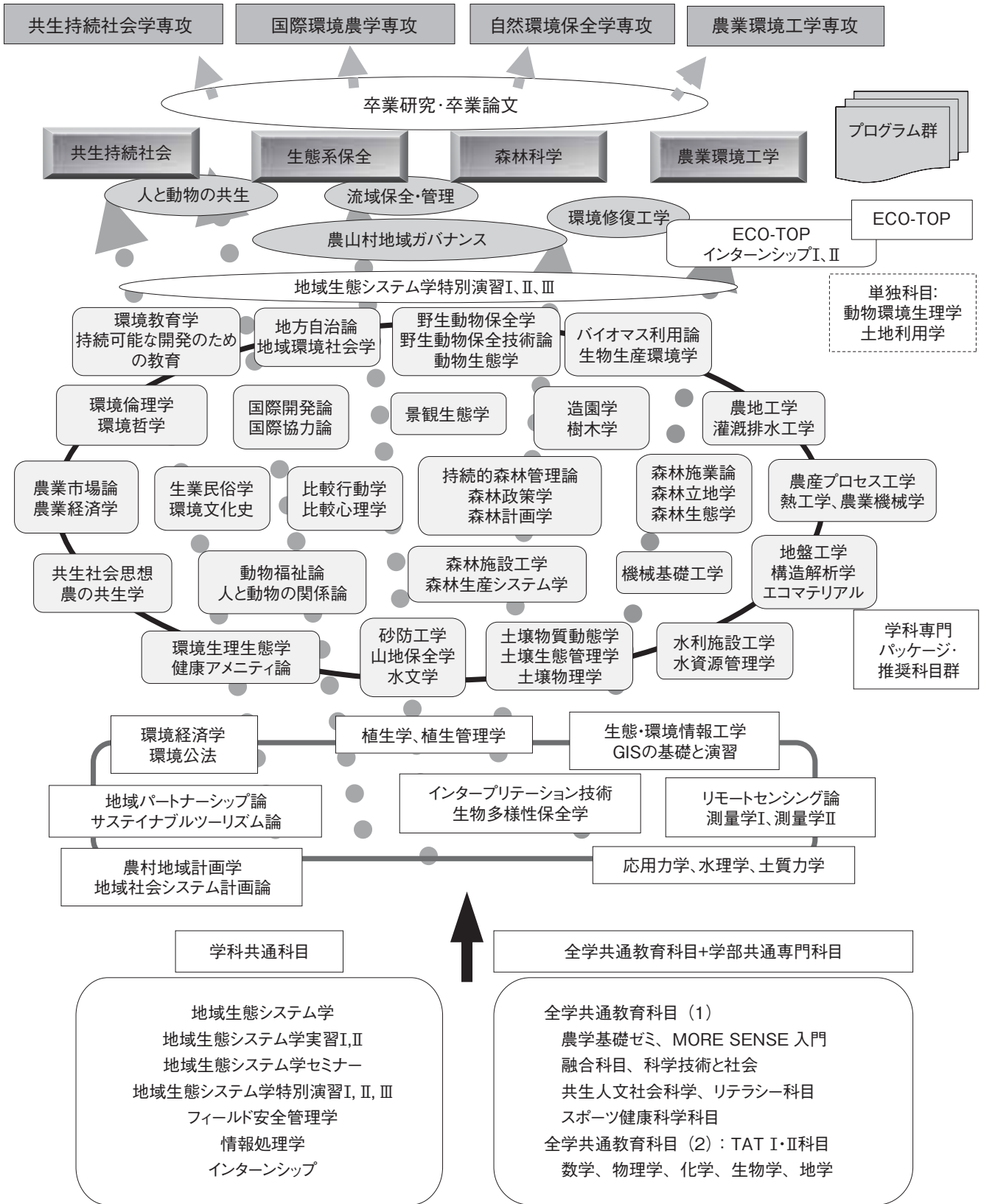
森林学の一般科目および森林情報士部門別科目を所定の分野および単位数を習得した者は、森林情報士 2 級の資格が得られます。さらに 2 年間以上の実務経験を経て森林情報士 1 級の養成研修の受講資格が得られます。なお、該当する講義科目および実験・実習科目は別に定められています。

7) 環境再生医

環境再生医は、環境の復元・再生の際に、あたかも町医者のように現状を診察（調査・診断）し、処方（対策の計画）を立て、治療（施術・施工）を行い、さらにはケア（維持管理）を持続的に行う環境の“専門医”です。本学科は環境再生医初級資格認定校であり、認定には学科指定科目を必要単位取得する必要があります。

8) 自然再生士補

「自然再生士」は、自然再生に必要な知識・技術・経験を有する、自然再生の推進者です。自然再生に係る事業全体を把握し、調査・計画・設計・施工・管理の、各々の事業段階において行われるべき業務や活動において、これらをコーディネートして自然再生を実行します。地域生態システム学科は、自然再生士補資格養成機関として認定され、所定の科目の履修状況によって、自然再生士補の認定を受けることができます。



地域生態システム学科 コースツリー

5. 共同獣医学科

(1) 学科の教育方針

共同獣医学科では、本学と岩手大学との緊密な教育連携のもと、獣医師として社会で指導的な立場で活躍できる人材の養成を行います。獣医師は、伴侶動物の診療や産業動物の治療・疾病予防・生産性の向上といった業務を行うだけでなく、乳肉製品の衛生管理などを通して人の健康を守る公衆衛生分野でも中心的な役割を果たしています。さらに、獣医師は、動物園動物や希少動物の診療・繁殖、野生動物保護、動物用および人用医薬品の研究・開発、動物生命科学の基礎研究といった非常に幅広い分野でも活躍しています。しかし、獣医師免許取得後これらの分野のエキスパートとしてすぐに活躍できるわけではなく、例えば、伴侶動物の臨床分野では、動物病院で研修医として経験を積むとともに、最新の診断法・治療法などについては自ら勉強を続けて行かなければなりません。したがって、本学科では、単に獣医師免許取得のためだけの技術的な教育のみではなく、その基盤となる高等動物の生命科学に対する十分な教育・研究を行い、さらに、最新知識を自ら取り入れる姿勢や問題解決能力を養えるようなカリキュラムを用意しています。

(2) 学科の教育内容

共同獣医学科専門教育科目では、基礎・病態科目（基礎獣医学科目）から応用・臨床科目（実証獣医学科目）へと順序よく学んでいけるように授業科目が用意されています。まず1年次の最初に、専門科目への導入として、獣医学概論で獣医学の概略を学びます。1～3年次の基礎獣医学科目では、正常な高等動物の形態・機能や生体と薬物との相互作用について、2～4年次の病態獣医学科目では、高等動物の病態時における形態・機能の変化や病原微生物・寄生虫について学修します。これら基礎・病態獣医学科目を基盤として、3～4年次の応用獣医学科目で、疾病の予防や公衆衛生について学びます。また、4～5年次の臨床獣医学科目では動物の疾病の診断、治療の基礎を学び、5～6年次にかけては実際のフィールドにおいて総合参加型臨床実習を行います。1～4年次に開講される選択科目では、獣医学に密接に関連する科目を中心に学修します。以上の授業科目では、講義と平行して実習が行われますので、各科目の理論と実際を効果的に学修できます。4～6年次の専修科目では、本学（または一部岩手大学）のいずれかの研究室に所属し、それまでに学修した専門知識や技術を用いて、基礎研究あるいは実証研究を行い、卒業研究論文を作成します。この論文作成を通して自ら学んでいく姿勢、問題解決能力、プレゼンテーション能力を養います。具体的なカリキュラムは学科課程表（履修案内 p.37～）およびコースツリー（履修案内 p.79）を参照して下さい。

(3) 履修方法

1) 学科専門科目の履修

共同獣医学科の学科専門科目はほとんどすべて必修科目です（教育課程表◎印）。これは農林水産省が定める獣医師国家試験出題基準の内容が、基礎獣医学科目、病態獣医学科目、臨床獣医学科目、応用獣医学科目のほとんどすべての講義、実習に相当するためです。本学で開講している科目を履修しますが、いくつかの科目では遠隔講義システムを使って岩手大学の授業を受講することになります。（ただし、卒業研究指導を岩手大学で受ける場合は、同大学の専門教育科目を履修できる。）各年次で開講される必修科目の単位を修得できなかった場合には、他年次で単位を修得せざるを得ませんが、その場合「重複履修（p.31を参照）」は認められませんので、6年間では卒業できなくなる可能性が高くなります。さらに多くの単位を修得できなかった場合には、以下に示してある獣医学専修科目の履修条件を満たせず、6年間では卒業できなくなります。したがって、各年次で開講される授業科目は必ずその年次で単位を修得するようにしてください。

2) 履修計画等

	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共同獣医学科	全学共通教育科目 44単位				専門教育科目 138単位 選択科目 6単位				専修科目 14単位 (獣医学演習、卒業研究)			
卒業要件単位数 202単位以上												
研究室配属							4年次後期から研究室配属 ※					

※研究室への配属決定については、課程によって必要単位数や履修科目等いくつかの条件がありますので留意してください。

3) 履修上の留意点

①本籍

本共同獣医学科においては、入学を許可された大学を本籍とします。

②履修

履修は、原則として本籍の大学で行います。

③専修科目の履修条件

- 1) 4年次後期から、基礎、病態、応用部門を包含した先端生命科学、ならびに小動物と大動物臨床における高度獣医療の2つの専修コースに分かれ、専修科目（獣医学演習および卒業研究）を履修します。
- 2) 専修科目を履修するには、3年次終了時において、卒業に必要な共通教育科目（計44単位）をすべて修得し、且つ、それまでの必修の学科専門教育科目のうち未修得単位が合わせて8単位以下であることが必要です。
- 3) 卒業研究を履修するには、獣医学演習（4単位）を修得していることが必要です。
- 4) 若干名の学生^(注1)は、5・6年次に本籍でない大学の共同獣医学科の専修コースにおいて専修科目を履修することができます。その際には、本籍の大学において、4年次終了時までの学科専門教育科目のうち、必修科目のすべての単位および選択科目から6単位以上を修得していなければなりません。

（注1）これらの学生は、本籍でない大学の共同獣医学科において、5・6年次に開講される学科専門教育科目のすべてを履修することになります。

④総合参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵ^(注2)の履修条件

5・6年次に開講される「総合参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵ」を履修するには、4年次までに所定の基準^(注3)を満たす必要があります。

（注2）本実習は、大学等の動物診療施設等において、指導教員の指導下で症例（一般市民が所有する動物）に接する臨床実習です。本実習は、農林水産省通知「獣医学生の実習における獣医師法第17条の適用において」（平成22年6月30日付け）により示された、「獣医学生が臨床実習において他者が所有する飼育動物に対して行う診療行為についての、獣医師法上の考え方」に基づいて実施されます。

（注3）獣医師の資格がない学生が臨床実習で症例に接する場合には、必要不可欠な知識、技能、態度が備わっていることを動物の所有者に示し、その質を社会に保障する必要があります。現在、全国獣医学関係大学代表者協議会において、臨床実習に必要な最小限の知識、技能、態度の到達レベルを評価するための獣医学共用試験を実施する予定です。

(4) 取得できる資格など

共同獣医学科を卒業すると獣医師国家試験の受験資格が得られます。その他、以下の資格を得ることが可能です。

- ①受験資格：共同獣医学科を卒業すると受験できる資格です。獣医師国家試験
- ②任用資格：共同獣医学科を卒業後、その資格に関連する職務についての場合に取得できる資格です。食品衛生管理者、食品衛生監視員、環境衛生監視員、飼料製造管理者

【コースツリーの説明】

獣医学の専門教育を受け獣医師になるためには、共同獣医学科専門科目についてはもちろんのこと、一般教養に関する広く深い知識も必要です。全学共通教育科目では、大学教育導入科目群、スポーツ健康科目群、外国語科目群、人文社会科学科目群、理数系基礎科目群、配置大学特色科目群を受講し、自然科学および人文社会科学全般の広い教養、外国語のコミュニケーション能力、自己の健康管理法を身につけます。以上の全学共通教育科目を土台として、共同獣医学科専門科目を学んでいきます。専門科目については「(2) 学科の教育内容」をご覧ください。

共同獣医学科授業科目コースツリー



● V. 教職課程の履修 ●

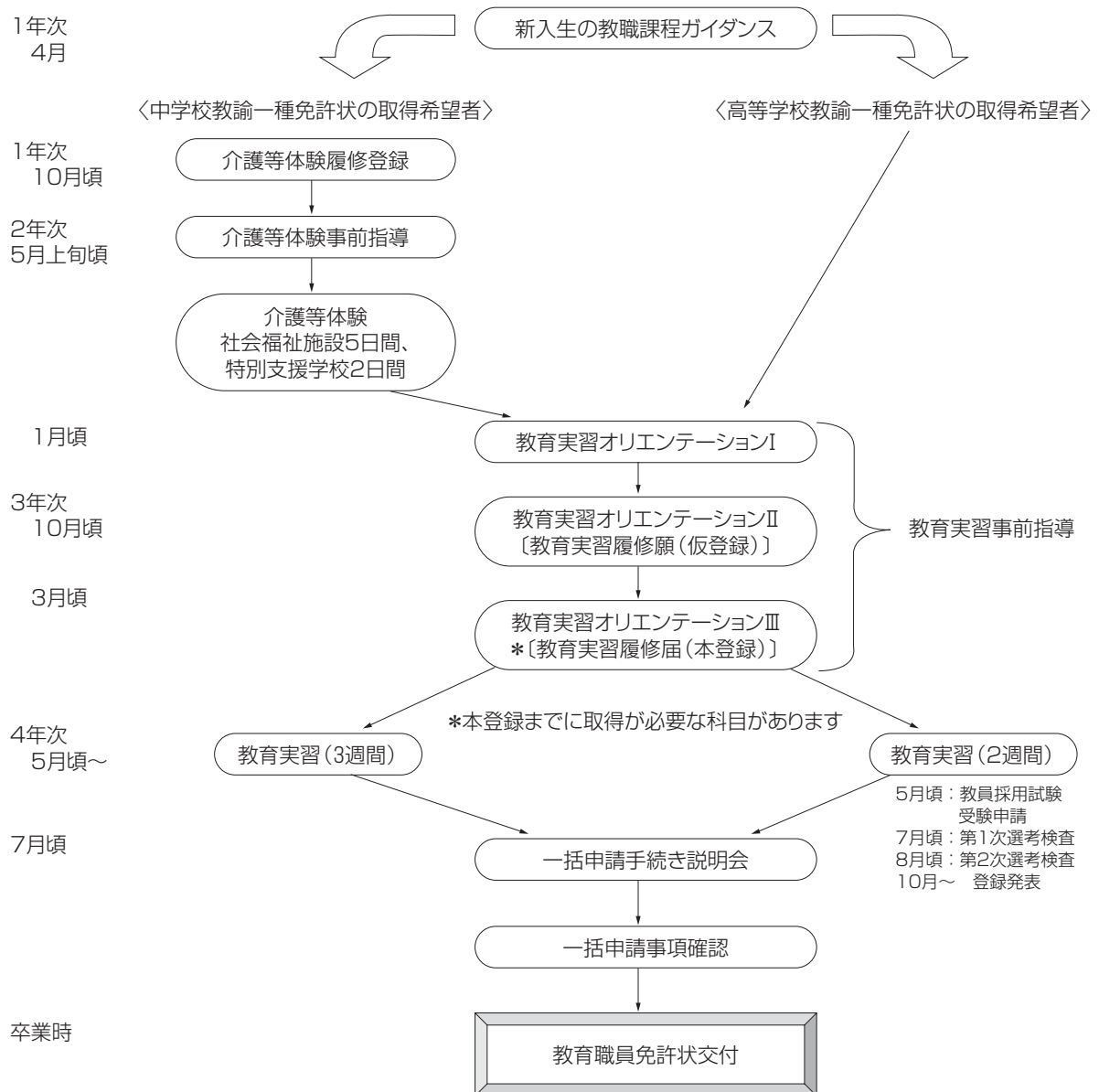
教職課程に定める「教養科目等」、「教職に関する科目」、「教科に関する科目」、「教科及び教職に関する科目」及び「介護等体験（中学校教諭1種免許状取得希望者は必修）」を履修することにより、中学校、高等学校教育職員免許状を取得することができます。（共同獣医学科を除く）

教職課程を希望する学生は、教員という人間形成に携わる責任の重い専門職であることを自覚し、教員になる意志を強固に持ち、必要な科目の内容を確実に修得するよう努めてください。

なお、毎年4月中に教職課程ガイダンスを行い、免許状を取得するための詳細な説明を行いますので、履修希望者は必ず出席してください。

教職課程については、「学生便覧：教職課程について」に記載されていますので、必ず熟読してください。不明なことがあったら、教務係又は教職課程専任教員に問い合わせてください。

～教員免許状取得までの流れ～



●VI. 博物館学芸員課程の履修●

博物館には専門的職員として学芸員を置くことが、博物館法第4条の3により定められています。本学では博物館学芸員資格を取得しようとする者のために、博物館に関する授業科目を開設しています。なお、博物館課程の履修は3年以上かかり、教職課程と並行して取得することは困難です。

また、3年次編入生は卒業までの課程修了は非常に厳しくなっています。3年次編入生で履修を希望する者は、事前に必ず教務係に問い合わせてください。

【博物館学芸員資格を取得するために履修する科目・単位数等】

授 業 科 目	単位数	時間数	開講 キャンパス	備 考
	必 修			
生涯学習概論	2	30	府 中	偶数年度開講予定
博物館概論	2	30	小金井	
博物館経営論	2	30	府 中	偶数年度開講予定
博物館資料論	2	30	小金井	
博物館展示論	2	30	小金井	
博物館資料保存論	2	30	小金井	
博物館情報・メディア論	2	30	府 中	奇数年度開講予定
博物館教育論	2	30	府 中	偶数年度開講予定
博物館実習	3	80	小金井	通年開講
合 計	19	320		

- ・博物館に関する授業科目の単位は卒業に必要な単位としては認められません。
- ・博物館に関する授業科目は集中講義で行われます。開講日程等は掲示板にてお知らせするので良く確認してください。

【学芸員課程ガイダンスについて】

毎年4月に「学芸員課程ガイダンス」を開催します。履修を希望する者は、履修についての注意事項などの説明を行いますので、必ず出席してください。開催日時および場所は掲示板にてお知らせします。

【博物館実習について】

- ・博物館実習は3年次以上が履修可能で、通年で開講されます。
- ・博物館実習を履修するには2年次終了までに「博物館実習」以外の全科目を修得済みであることが条件です。
- ・3年次の博物館実習時期が所属学部の実習等に重複し、博物館実習の履修が出来ない場合は、博物館実習の時期に所属する研究室指導教員の許可を得て4年次に履修することができます。
- ・博物館実習の希望者が多数の場合は、日程などの調整を行うこともあります。
- ・3年次の始めに「博物館実習オリエンテーション」を行いますので、博物館実習の履修を希望する者は必ず出席して下さい。開催日時及び場所は掲示板にてお知らせします。

学芸員関係事項の日程

1年	4月	学芸員課程ガイダンス（受講開始年度に参加）
1年・2年	夏休み	集中講義履修
3年	4～5月	博物館実習オリエンテーション
	5月～	博物館実習（通年）
4年卒業時		学芸員課程修了証書 授与

※ガイダンス・オリエンテーションの開催時期は目安であり、前後することがあります。詳細は掲示板等で確認して下さい。

単位取得者に対して、「博物館に関する科目の単位取得証明書」を教務係で発行しますので必要な場合は申し出て下さい。

●VII. 単位互換制度について●

1. 単位互換制度の概要

本学は、単位互換協定校（東京外国語大学・東京学芸大学・電気通信大学・一橋大学・琉球大学および長岡技術科学大学）と相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的として単位互換を実施しています。

この制度は、本学在学中に協定校において履修した授業科目について修得した単位を、本学において修得した単位として認定するものです。学生便覧「国立大学法人東京農工大学における学生の派遣、留学及び受入に関する規程」を必ず参照してください。

この制度により本学から他大学へ送り出す学生を『派遣学生』、本学が他大学から受け入れる学生を『特別聴講学生』といいます。

2. 出願資格

多摩地区国立5大学協定校

派遣時に本学に在学する2年次以上の学部学生。

琉球大学および長岡技術科学大学

派遣時に本学に在学する2年次および3年次の学部学生。

3. 出願手続

(1) ガイダンスへの出席

出願希望者は1月中旬に実施するガイダンスに必ず出席してください。なお、一度派遣学生を経験した学生であっても、次年度に協定校の授業科目履修を希望する場合は、その年度毎に内容や注意事項が変わる可能性があるため必ずガイダンスに出席しなければなりません。

ガイダンスの日程等詳細は1月上旬に掲示板に掲示します。

なお、各大学における開放科目はガイダンス時に配布いたします。

(2) 履修計画の作成

多摩地区国立5大学協定校

本学から受入れ大学までの通学時間を考慮の上、無理のない履修計画を立てるようにしてください。

琉球大学および長岡技術科学大学

琉球大学および長岡技術科学大学との単位互換にあたっては国内留学の形式をとっています。

したがって、派遣期間中は本学授業科目の単位の修得ができません。卒業必要単位数を念頭におき、本学授業科目への振替可能な授業科目を積極的に履修することが必要となってきます。シラバス等を参考にして、所属学科の教育委員と十分相談して履修計画を立てるようにしてください。

(3) 出願書類の提出

受講希望者は、各学科教育委員の承認を得て受付期間に「他大学の授業科目の履修願」などの書類を教務係に提出してください。受付期間を過ぎた書類は、一切受け付けません。

なお、選抜方法など詳細は、ガイダンスにて周知します。

(4) 受入可否の確認

協定校における派遣受入可否の結果は、掲示板にて掲示します。

4. 単位認定及び学業成績

(1) 多摩地区国立5大学協定校

受入れ大学からの成績通知に基づき、単位が授与されている授業科目について、原則として自由選択単位として認定されます。なお、卒業要件単位として認定可能な単位数を超えた授業科目については課程外履修科目として取扱われます。単位認定を受けた授業科目の成績は、原則として当該大学の授業科目名および単位数がそのまま表記され、評価が本学評価基準に対応させて記載されます。

(2) 琉球大学および長岡技術科学大学

受入れ大学からの成績通知に基づき、単位が認定されます。

5. その他

(1) 授業料

派遣学生は、本学の授業料を納入しなければなりません（国立大学法人東京農工大学における学生の派遣、留学及び受入に関する規程、第9条）。ただし、派遣学生は、派遣先大学において検定料、入学料及び授業料は徴収されません。

(2) 試験実施方法

受験上の取扱い及び追試験等の実施については、受入れ大学の規則によります。受入れ大学と本学の試験日時が重複した場合には、本学の授業科目について追試験等の措置が講じられますので、履修者本人が本学の授業担当教員と相談してください。

(3) 受入れ大学の施設の利用

履修上必要な施設・設備（附属図書館、食堂等）を利用することができます。

その際、受入れ大学が発行する「特別聴講学生証」及び本学学生証を携行して下さい。

●VIII. 各種手続きについて●

1. 学籍異動（休学，退学など）

(1) 各種願出（届出）書

願出（届出）書の配布および受付は，教務係で行っています。

	期 日	備 考
休 学 願*	4月1日からの休学 ：3月20日まで 10月1日からの休学 ：9月20日まで	連帯保証人の署名・押印，指導教員，所属学科の所属長，学生生活委員，教育委員の押印が必要。 病気による休学の場合は健康診断書を添付すること。 学期の途中からの休学の場合，授業料の取り扱いが変わるため，教務窓口にお問い合わせのこと。
復 学 願	復学をする日	休学期間満了前に休学の理由が消滅し，復学をする場合に必要。
退 学 願*	3月31日付の退学 ：3月20日まで 9月30日付の退学 ：9月20日まで	連帯保証人の署名・押印，指導教員，所属学科の所属長，学生生活委員，教育委員の押印が必要。 学期途中での退学の場合，当該在学期間中の授業料納付が必要。
転学部・転学科願	1月中旬	連帯保証人の署名・押印，指導教員，所属学科の所属長，教育委員の押印が必要。
他大学等受験届	他大学などを受験する前	連帯保証人の署名，押印，学科教育委員の押印が必要。 本学を再受験する場合も届出が必要。

*学期の途中からの休学または退学の場合：前月20日まで

(2) 注 意 事 項

- 1) 休学または退学しなければならない場合は，事前に学科教育委員および学生生活委員の先生に相談してください。
- 2) 休学期間は，通算して3年を超えることはできません。ただし，共同獣医学科については，通算して5年，再入学，転入学および編入学した学生の休学期間は在籍年限の2分の1を超えることができません。なお，在学または休学について定められた期間を超えたときは退学処分となります。その他休学に関する取扱いについては学則を参照してください。
- 3) 本学に在学のまま他大学の入学試験（本学への再入学試験を含む）を受ける場合は，学科教育委員に相談し，「他大学受験届」を提出してください。なお，合否の結果は直ちに教務係に報告し，他大学に入学する場合（本学への再入学も含む）は「退学願」を提出してください。

2. 証明書の交付

(1) 証明書自動発行装置

府中地区事務部学生支援室・学生生活係に設置されている証明書自動発行機により発行できる証明書は下記の通りです。(利用時間 平日及び土曜・祝日開講日 8:30~17:15)

	発行方法	交 付		注 意
		和 文	英 文	
学割証	自動発行機	即 日	—	在学中
在学証明書	自動発行機	即 日	即 日	在学中 (休学中は発行不可)
成績証明書	自動発行機	即 日	即 日	現学期以前までの分 (成績開示日以降)
健康診断書	自動発行機	即 日	—	在籍中 (学内の健康診断を受診した場合)
卒業見込証明書	自動発行機	即 日	即 日	卒業年次の5月中旬から発行可。 ただし、下記(2)の発行基準参照のこと。

※その他の証明書については学生便覧を参照してください。

※卒業後の証明書については、本学ホームページ《卒業生の方へ》を参照してください。

(2) 卒業見込証明書の発行に関する注意事項

卒業見込証明書は、卒業年次の5月中旬から証明書自動発行装置により即日発行可能となります。ただし下記の卒業見込証明書発行基準を満たさない場合は、発行することができません。

卒業見込証明書発行基準 (卒業年次前年度の後学期終了時における成績)

学 科	発 行 基 準
生物生産学科	卒業に必要な124単位のうち、90単位以上を修得していなければならない。
応用生物科学科	卒業に必要な124単位のうち、97単位以上を修得していなければならない。 ただし、外国語については7単位以上とする。
環境資源科学科	卒業に必要な124単位のうち94単位以上を修得していること。ただし、全学共通教育科目は卒業に必要な55単位のうち、44単位以上 (リテラシー科目6単位を含む)、専門科目は卒業に必要な55単位のうち45単位以上を修得していなければならない。 また、実験は TAT II 科目の必修3科目及び学科共通科目の環境資源科学実験4科目 (I~IV) の合計7科目の中から4単位以上を修得しておく必要がある。
地域生態システム学科	卒業に必要な124単位のうち、84単位以上を修得していなければならない。
共同獣医学科	卒業に必要な202単位のうち、149単位以上を修得していなければならない。

●Ⅸ. 学修に関する相談●

平成25年度のクラス担任，教育委員，学生生活委員は下記のとおりです。学科の各委員は年度ごとに交代します。各年度の委員の氏名および所在地は，年度始めに本館掲示板に掲示します。

1. 1年次のクラス担任

クラス担任とは，学生生活や勉学，将来の進路についての情報の提供，その他身近な問題について相談に乗ってくれる教員です。

学 科	略 号	氏 名	所在（府中キャンパス）
生 物 生 産 学 科	An	佐藤 幹	6号館402
		鈴木 栄	6号館306
応 用 生 物 科 学 科	Bn	山形 洋平	1号館107
		森山 裕亮	8号館211
環 境 資 源 科 学 科	En	芳賀 尚樹	8号館106
		高田 秀重	5号館202
地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科	Rn	○助言教員	下田 政博 スポ健103
		赤坂 宗光 1号館407	白木 克繁 1号館410
		岩岡 正博 1号館405	高橋 美貴 2号館207
		甲田 菜穂子 2号館203	戸田 浩人 1号館417
共 同 獣 医 学 科	Vn	小林 正行	7号館306

2. 学科教育委員

教育委員とは，授業科目の履修および単位の修得など学修について相談に乗ってくれる教員です。

学 科	略 号	氏 名	所在（府中キャンパス）
生 物 生 産 学 科	An	佐藤 幹	6号館402
		大津 直子	6号館309
応 用 生 物 科 学 科	Bn	山形 洋平	1号館107
		森山 裕亮	8号館211
環 境 資 源 科 学 科	En	大地 まどか	2号館117
		吉田 誠	1号館318B
地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科	Rn	斉藤 広隆	3号館309
		松本 武	1号館405C
共 同 獣 医 学 科	Vn	西藤 公司	4号館227
		古谷 哲也	新4号館456

3. 学生生活委員

学生生活委員とは、主に学生生活を送るうえで生じる身近な問題について相談に乗ってくれる教員です。

学 科	略 号	氏 名	所在（府中キャンパス）
生 物 生 産 学 科	An	鈴木 栄	6号館306
		新井 祥穂	2号館208
応 用 生 物 科 学 科	Bn	北野 克和	1号館316
		仲井 まどか	2号館415
環 境 資 源 科 学 科	En	近江 正陽	1号館310
		渡邊 泉	2号館327
地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科	Rn	金子 弥生	5号館104
		帖佐 直	3号館212
共 同 獣 医 学 科	Vn	清水 美希	7号館310

4. 学生相談室の利用

学生相談室（農学部本館1階）にて、学生生活委員およびクラス担任の教員が、学生生活全般について相談に乗ってくれます。なお、学生生活係で相談の予約ができます。

相談受付時間 毎週月曜日および木曜日 15:00~18:00

5. 身体に障害がある者の受講措置

身体障害などで受講上特別な措置及び配慮などを必要とする学生は、学科教育委員に申し出て下さい。

● X. 履修案内 Q & A ●

教務係の窓口でよく聞かれる質問事項です。参考にしてください。

Q & A にある「掲示板」とは、WEB 掲示板または本館 1F 教務係前の掲示板です。

Q

履修申告について

時間割表の配布はいつからですか？

CAP 制度はどのような科目が対象ですか？

前学期から開講される通年科目の登録を忘れました。後学期に履修登録することはできますか？

前年度に単位を落としてしまった科目と本年度の必修科目との開講が重なっています。両方の科目を履修すること（重複履修）ができるでしょうか？

4 年次学生で履修する科目がありません。履修登録をしなくてもよいですか？

履修登録の期間を過ぎてしまいましたが受け付けてもらえますか？

履修科目を学期途中で追加したいのですがどうすれば良いですか？

農学基礎ゼミや融合科目の履修登録はどのようにすればよいですか？

外国語科目は、どの担当教員の授業を履修すればよいですか？

第 2 外国語科目が希望のクラスに配属されませんでした。他の外国語を履修することはできますか？

上の学年の授業内容に興味があり履修したいのですが、履修することは可能ですか？

他の学科の全学共通教育科目の単位が取りやすいと聞きました。他の学科の授業を履修してもいいですか？

A

授業開始 1 週間前から配布します。

履修案内 p.26 を参照してください。

前学期から開講される通年科目の登録を後学期から行うことはできません。履修登録対象学期にかならず履修登録するようにしてください。

重複履修はいかなる場合も認めていません。

履修科目がない場合でも必ず学務情報システム SPICA（スピカ）上で「今学期は履修しない」を選択し、登録をしてください。

原則として受け付けません。ただし、止むを得ない事由がある場合は学科教育委員に相談してください。

原則として認めていません。ただし、止むを得ない事由がある場合は、その事由を授業担当教員および学科教育委員に相談してください。

クラス編成後に学務情報システム SPICA（スピカ）上で登録してください。

授業開始前にクラス編成一覧表を掲示します。掲示板で担当教員を確認し、学務情報システム（SPICA）上で登録してください。

自分が配属されたクラス以外での履修はできません。外国語科目は授業規模に限りがありますので、配属されたクラスの授業を必ず履修してください。

教育課程表・時間割等に従い、また学科教育委員に相談の上、履修科目を決めてください。

同じ授業科目でもその学科の教育分野によって授業内容が変わってくる場合があります。自学科の全学共通教育科目を履修するようにしてください。

Q

他学科の科目を履修したいのですが履修することは可能ですか？

他学科履修では、なぜ履修願（他学部・他学科・年次外科履修用）を出すのですか？

他学科の集中授業科目を履修したいのですが、自学科の集中授業科目と重なっています。日程調整していただけますか？

1年次の教職課程オリエンテーションに出席していないのですが、教職課程を履修することはできますか？

後学期から休学したのですが、前学期に登録した通年科目の履修はどのような扱いになりますか？

2単位の学科専門科目を1単位は学科専門科目として、1単位は自由選択単位として充当したいのですが可能ですか？

学芸員課程を履修したいのですが、どうすればいいですか？

単位互換制度を利用して他大学での履修をしたいのですが、どうすればいいですか？

自学科で取得出来る資格について知りたいのですが？

風邪（葬式・事故・入院等）で授業を休みました。欠席届を出したいのですが？

A

授業担当教員の許可があれば履修することができます。（履修案内 p.30参照）

科目によっては基礎知識がないと授業についていけない場合があります。あなたの基礎知識がその授業に足りるか否かを授業担当教員に判断してもらうために提出する必要があります。

集中授業科目および補講の日程調整は、同じ学科内においてのみしか行っていませんので、他学科科目および集中授業科目を履修する場合は期間が重なる可能性があることを承知のうえ履修登録してください。また同じ学科内においても年次が違う科目を取ろうとする場合は充分注意してください。

教職課程は1年次前期から履修することを原則とします。1年次後期以降から教職課程を履修する場合は教職担当教員の指導を受けてください。本学のカリキュラムでは途中から教職課程を履修した場合、学部卒業時に教職課程を修了できなくなる場合があります。

休学した時点で履修登録は無効となります。ただし、特別な理由があるときは履修を認める場合がありますので、学科教育委員に相談してください。

可能です。

学芸員課程ガイダンスに出席しなければなりません。詳しいことは履修案内 p.81を参照してください。

1月中旬にガイダンスが行われます。詳しいことは履修案内 p.82を参照してください。

履修案内の各学科の教育内容に記載してあります。詳しいことは、各学科の教育委員に相談してください。

本学では公欠制度を採用していませんので、授業を休んだときは、欠席となります。ただし、学校保健安全法施行規則に定める伝染病については授業欠席として扱わないような配慮をしています。伝染病に罹ったら教務係へ電話（042-367-5662）連絡し、指示をうけてください。なお、共同獣医学科の学生は、本籍大学の基準によります。

授業について

Q

レポートを提出期間内に提出できませんでした。どうすればよいですか？

授業担当教員と連絡を取りたいのですがどうすればよいですか？

レポート・課題に本やインターネットの内容を使うことができますか？

授業で配られた教材を Web 上で公開することはできますか？

授業内容を撮影・録音することはできますか？

単位・成績について

外国語検定試験等に基づく単位認定はいつ受付けていますか？

履修登録を忘れましたが、授業に出席していました。試験に合格したら単位をもらうことができますか？

成績はいつ発表されるのですか？

成績に疑問があるのですがどうすればよいですか？

卒業できるか否かを確認したいのですが？

各種書類について

証明書を即日発行してもらえますか？

A

授業担当教員に相談してください。なお、教務係では期限を過ぎたレポートは一切受け取りません。

本学の教員の場合は履修案内の巻末 (p.92～) を参照してください。また、非常勤講師の連絡先は、シラバスまたは担当する講義の始めに指示があります。指示された連絡先あるいは講義の前後に直接連絡を取ってください。

本やインターネットの情報をレポート・課題にそのまま使うことは許されません。一部分を引用して使う場合でも引用箇所や出典を示す必要があります。

授業で配られた教材はあくまで学生が個人で利用するためのものです。勝手に Web 上に公開を行うと著作権の侵害になる場合があります。

担当教員の許可をもらってから行ってください。また、撮影・録音をしたデータは個人的な利用のみ認められています。

4月と10月の月上旬(卒業に関わる年次の後学期の成績は2月下旬)に申請を受け付けています。詳しい日程については申請期間の1ヶ月前に掲示板にて周知します。

履修登録していない科目は、たとえ出席し、試験に合格したとしても単位は認定されません。

前学期の成績は9月末に、後学期の成績は4月上旬に発表します。詳しい日程については掲示板上にて周知します。

成績発表後に成績確認申請期間があり、確認申請を受け付けています。詳しい日程については申請期間1ヶ月前に掲示板にて周知します。

履修案内と成績表を参照し自分で卒業できるかを確認してください。卒業認定は3月上旬の教授会にて行われます。どうしても卒業することができるか不安な人は、学科教育委員へ問い合わせてください。

証明書の種類によって異なりますので履修案内 p.85参照してください。

Q

窓口で申請した証明書の受け取りの際に学生証を忘れました。受け取れますか？

窓口で申請した証明書などの書類の受け取りを代理人に頼めますか？

休学の申請はいつまでに行えばよいでしょうか？

A

証明書は個人情報ですので、学生証がなければ証明書を渡すことはできません。

止むをえない事情により証明書を受け取れない場合は、委任状にて代理人が受け取ることができます。

休学は教育委員会等で審議しなくてはなりませんので、休学の意思が固まった時点で直ちに教務係に申し出てください。なお、一度支払った授業料は学期の途中で返付することができませんので注意してください。

休学の申請は原則として

- ・ 4月1日から休学する場合は3月20日までに
 - ・ 10月1日から休学する場合は9月20日までに
- 行ってください。

●Ⅻ. 体育施設等の使用，建物配置図など●

1. 施設の使用

以下にグラウンドをはじめとする体育施設等の使用手続及び心得を記載しました。熟読のうえ使用して下さい。

(1) グラウンド（府中地区及び小金井地区）

1) 使用手続

- ①授業，クラブ活動等で使用しない月曜日から金曜日までの10時～16時半まで，2)の使用上の注意に従って使用できる。
- ②平日16時半以降及び休日にクラス，講座，その他任意の団体が使用を希望する場合は，以下のとおり開かれる運動施設運営協議会に代表を出席させ，使用日程等の調整を受ける。
- ③府中地区グラウンドの運動施設運営協議会は，原則として毎月第2火曜日の17時から掲示で指定された場所で開催される。（長期休暇前は，前月にまとめて2ヵ月分の調整をすることがある。）
- ④小金井地区グラウンドの運動施設運営協議会は，毎月第3木曜日の16時30分から掲示で指定された場所で開催される。

2) 使用上の注意

- ①雨天，雨天後，冬季など，グラウンドの軟弱な時は，原則として使用してはならない。試合などで，どうしても使用しなければならない時は，責任を持って事後の整理をすること。
- ②ビン類・花火その他の危険物を持ち込まないこと。
- ③車輛（自転車を含む）で立ち入らないこと。
- ④授業時間中は，その授業以外の学生はグラウンド内に立ち入らないこと。
- ⑤グラウンド内での飲食及び喫煙は禁止する。
- ⑥使用後は，必ず「ブラシ」または「とんぼ」をかけ整備すること。

(2) 総合屋内運動場

（体育館・武道場・トレーニングルーム）（府中地区および小金井地区）

1) 使用手続

- ①授業，クラブ活動等で使用しない月曜日から金曜日までの10時～16時まで，2)の使用上の注意に従って使用できる。ただし，管理人のいない時は原則として使用できない。
- ②トレーニングルームの利用はマシン類の操作等を伴うので，事前に講習を受けた者に限定する。講習会は，掲示で指定された日時・場所で開催される。
- ③平日16時半以降及び休日にクラス，講座，その他任意の団体が使用を希望する場合は，以下の通り開かれる運動施設運営協議会に代表を出席させ，使用日程等の調整を受ける。
- ④府中地区総合屋内運動場の運動施設運営協議会は，原則として毎月第2火曜日の17時から掲示で指定された場所で開催される。（長期休暇前は，前月にまとめて2ヵ月分の調整をすることがある。）
- ⑤小金井地区総合屋内運動場の運動施設運営協議会は，毎月第3木曜日の16時30分から掲示で指定された場所で開催される。

2) 使用上の注意

- ①体育館シューズを着用すること。土足，はだし（武道場は除く）は認めない。
- ②総合屋内運動場内での飲酒及び喫煙は，禁止する。
- ③使用後は必ず清掃すること。

- ④体育館管理人の指示に従うこと。

(3) テニスコート（府中地区及び小金井地区）

1) 使用手続

- ①授業等で使用しない時は、府中地区は学生部事務棟西側（オムニコート）、小金井地区はグラウンド東側（オムニコート）のテニスコートに限り、2)の使用上の注意に従って使用できる。各地区学生生活係において、学生証と引換にコート入口の鍵を受け取り、当該施設を使用できる。ただし、使用できる日時は次のとおりである。

両地区とも月～金 9：00～10：20 10：30～11：50
13：10～14：40 14：50～16：30

- ②平日16時半以降及び休日にクラス、講座、その他任意の団体が使用を希望する場合は、以下のとおり開かれる運動施設運営協議会に代表を出席させ、使用日程等の調整を受ける。
- ③府中地区テニスコートの運動施設運営協議会は、原則として毎月第2火曜日の17時から掲示で指定された場所で開催される。（長期休暇前は、前月にまとめて2ヵ月分の調整をすることがある。）
- ④小金井地区テニスコートの運動施設運営協議会は、毎月第3木曜日の16時30分から掲示で指定された場所で開催される。

2) 使用上の注意

- ①コートの状態が悪い時は使用できない。判断に迷う時はスポーツ健康科学担当教員または担当係に相談し、指示を受けること。
- ②使用に当たっては必ずテニスシューズを着用すること。
- ③使用後は「イーゼースイープ」または「コートブラシ」をかけること。
- ④コートを退去する際、他に使用者がいない場合はコート出入口を施錠すること。
- ⑤コート内での飲食及び喫煙は禁止する。
- ⑥担当係の指示に従うこと。

(4) ゴルフ練習場（府中地区）

1) 使用資格

ゴルフ練習には危険が伴うので次の者を使用適格者として限定する。

- ①授業でゴルフを履修した者
- ②一般学生の場合はスポーツ健康科学担当教員の認定を受けた者

2) 使用手続

- ①授業、クラブ活動等で使用しない月曜日から金曜日までの10時～16時半まで使用できる。ゴルフ練習場（以下「練習場」とする）使用適格者はスポーツ健康科学担当教員の発行する証明書を学生生活係に提示し、学生証・証明書と引換に練習場入口の鍵を受け取り、3)の使用上の注意に従って使用できる。
- ②使用資格を持つ者で平日16時半以降及び休日にクラス、講座、その他任意の団体が使用を希望する場合は、以下のとおり開かれる運動施設運営協議会に代表を出席させ、使用日程等の調整を受ける。
- ③上記の運動施設運営協議会は、原則として毎月第2火曜日の17時から掲示で指定された場所で開催される。（長期休暇前は、前月にまとめて2ヶ月分の調整をすることがある。）

3) 使用上の注意

- ①使用にあたっては体育館シューズを使用することとし、土足禁止とする。
- ②マットを使用する。
- ③規定のキャンバスを使用する。
- ④規定の打席内から打球する。
- ⑤他者が打球中は自分の打席から決して前方に出ない。

- ⑥複数の者が使用する場合は、ボールの回収を一斉に行う。
- ⑦他者が打球中は、その打席には決して入らない。
- ⑧練習場を退去する際、他に使用者がいない場合は練習場出入口を施錠すること。
- ⑨ゴルフの練習は危険を伴うので、練習場内での飲食及び喫煙は、禁止する。
- ⑩その他、この施設を使用するに当たってはスポーツ健康科学担当教員の定める決まり、指示に従うこと。

(5) 工学部合宿研修施設

学生の正課及び課外活動等の研修、合宿練習のための合宿研修施設があり、その利用を希望する者は、サークル代表者会議に出席して学友会の調整を受け、「工学部合宿研修施設使用願」を小金井地区学生サポートセンター 学生生活係へ使用開始日の7日前までに提出し、

「東京農工大学合宿研修施設使用心得」を遵守して使用できる。

(6) 運動用具

- 1) 各地区学生生活係に、ソフトボール、テニスラケット、サッカーボール等の用具が備え付けてあるので、使用することが出来る。なお、借用する場合には、運動用具貸出簿に記入し、学生証と共に受付に提出すること。
- 2) 総合屋内運動場（府中地区及び小金井地区）には、次の用具及び器具が備え付けてあるので、各施設内の受付（体育館管理人）に申し出てその許可を得て使用することが出来る。

卓球用具一式、バドミントン用具一式、バレーボール用具一式、バスケットボール等。

(7) 図書館

開館時間及び休館日

開館時間	
通常開館	
月～金	8：45～21：00
土（府中図書館）	10：00～17：00
土（小金井図書館）	12：30～19：30
日	13：00～17：00
短縮開館（夏季・冬季休業および3月）	
月～金	8：45～17：00
土～日	休館

※授業が開講される土曜・祝日は9：00～18：00

休館日	
国民の祝日（授業開講日は除く）	
本学創立記念日（5月31日）	
授業期を除く8月・9月・12月・2月・3月の末日（その日が土曜・休日の時はその前日）	
年未年始（12月28日から翌年の1月4日まで）	
この他に臨時に休館することがあります。	

(8) 自習室（農学部本館25室）

開放時間：7時（開錠）～21時（施錠）

※定期メンテナンスのため、原則として毎週金曜日12：30～作業終了まで（おおむね2～4時間）閉室します。

各自のノートパソコンを接続することもできます。この際は、ブラウザで外部サイトを開いて、検疫・認証を受けてください。

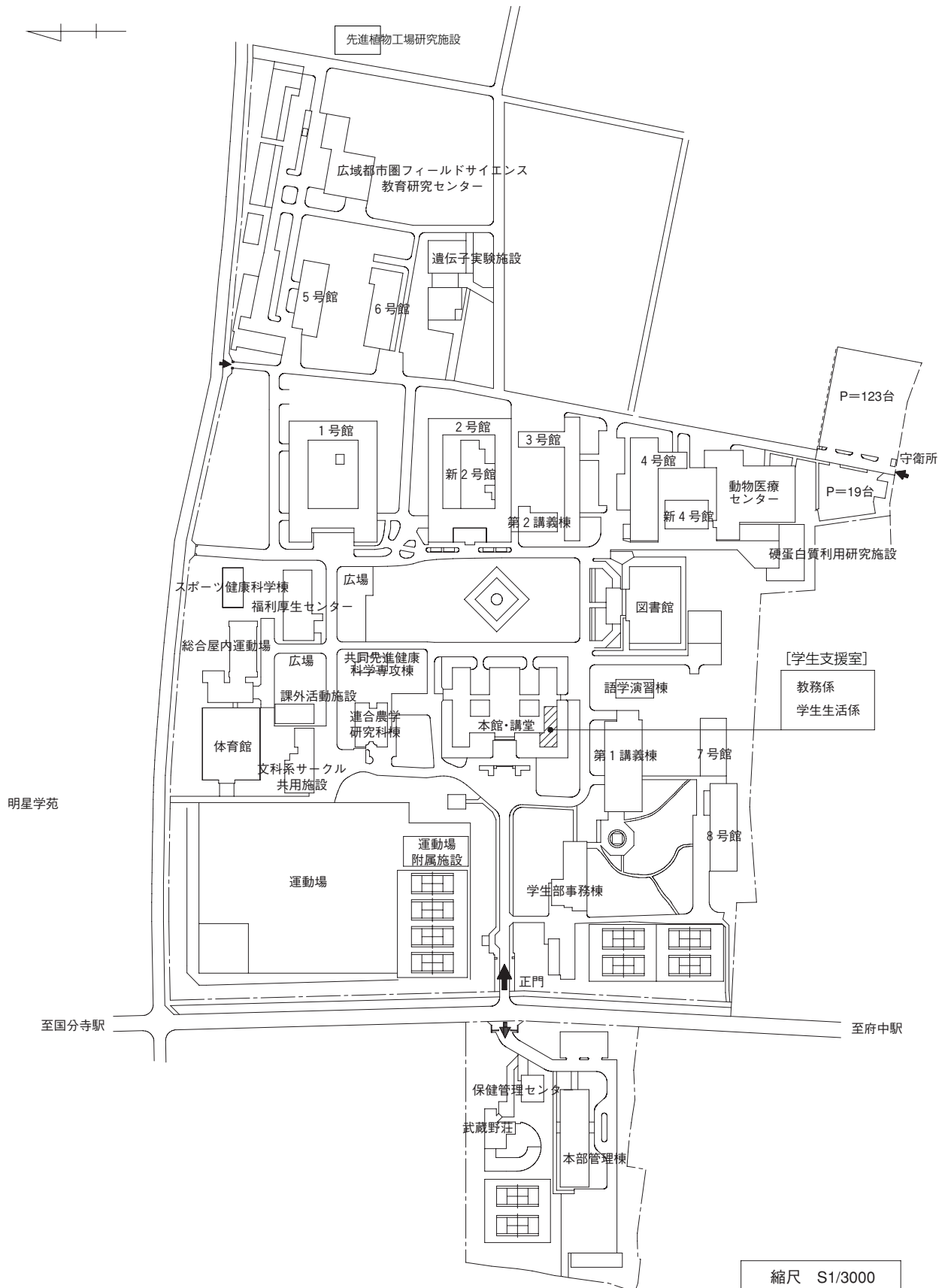
〔注意事項〕

- ・パソコンにファイルを保存することはできません。（保存しても再起動すると自動削除されます。）
- ・飲食は禁止、私語は控えましょう。
- ・最後に退室する人は空調（冷暖房）、蛍光灯の電源を必ず切りましょう。
- ・ごみ、消しゴムのカス等は各自で片づけましょう。
- ・忘れ物に注意してください。特にUSBメモリを忘れないようにしてください。

※コピー用紙やトナーがなくなったり、エラーが起きた場合は教務係（本館1F）まで。

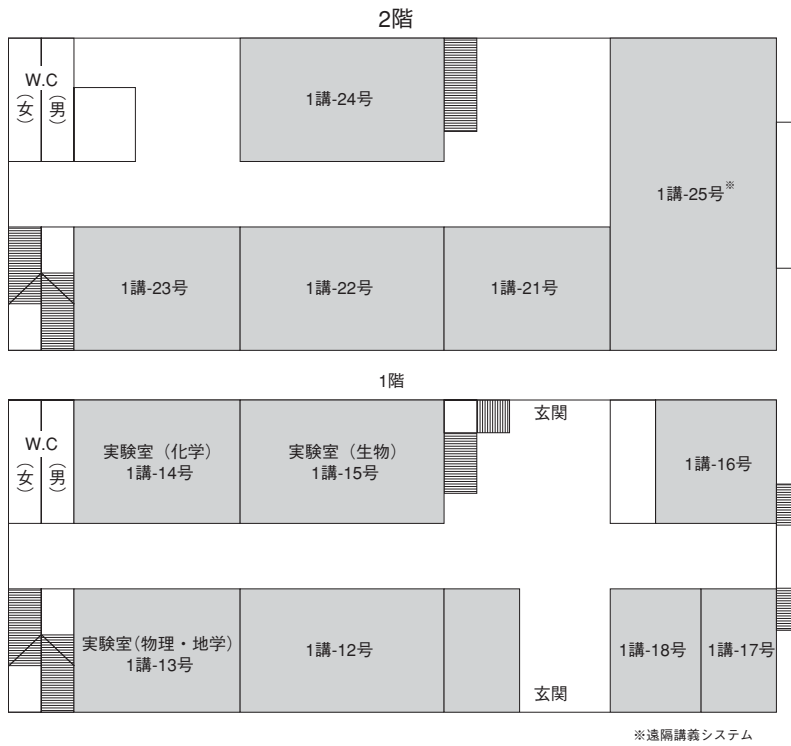
2. 建物配置図

(1) 農学部構内図

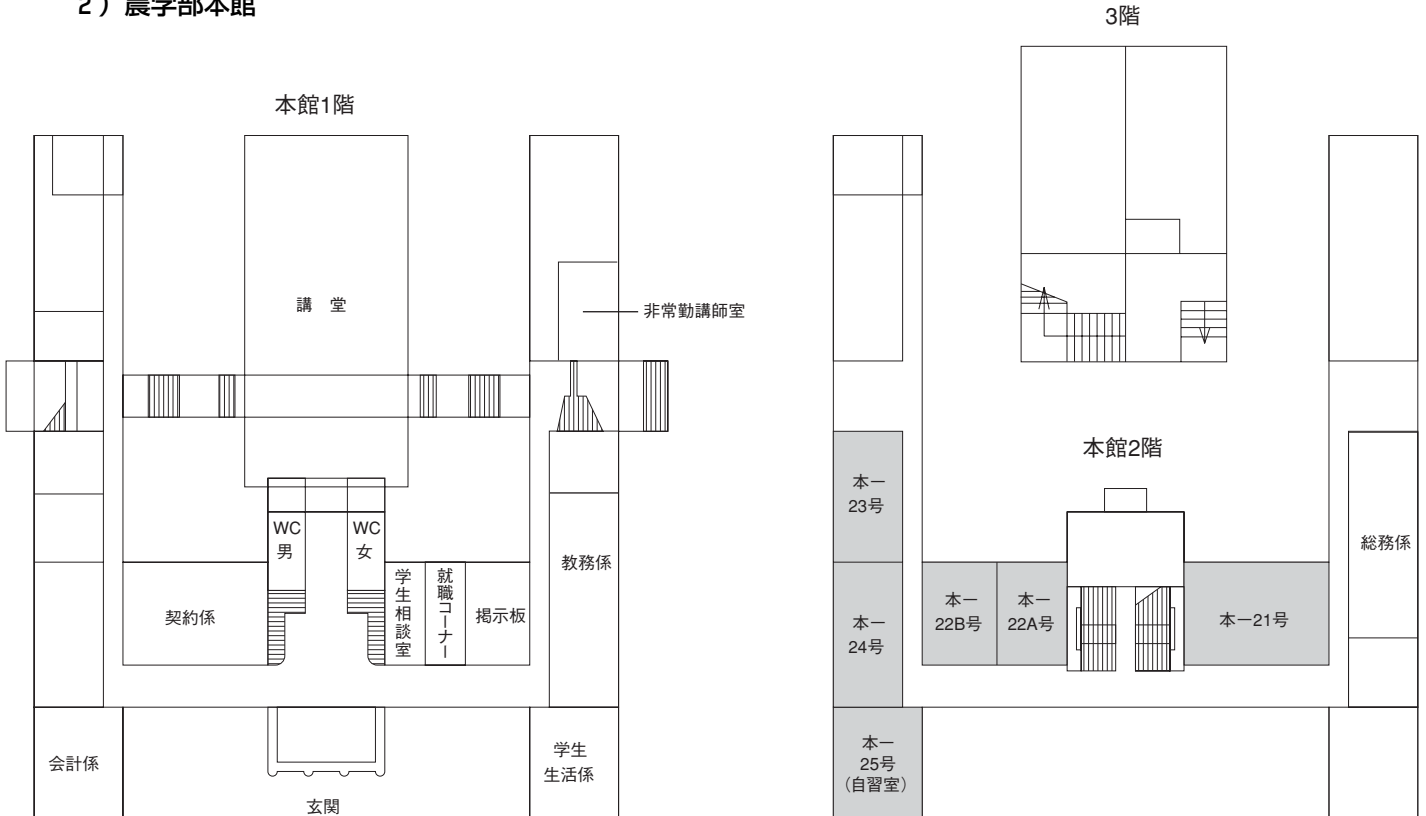


(2) 教室配置図

1) 農学部第一講義棟

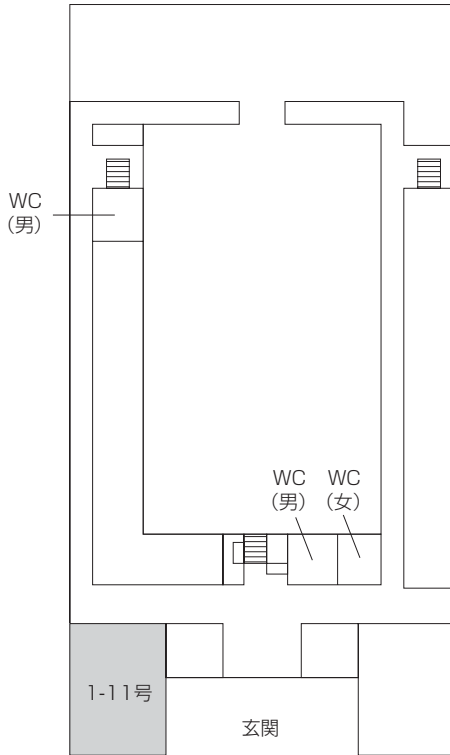


2) 農学部本館



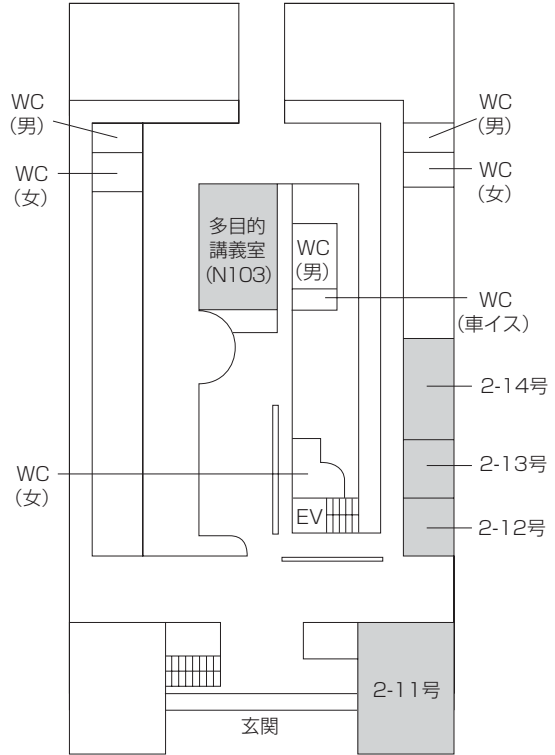
3) 1号館

1号館1階

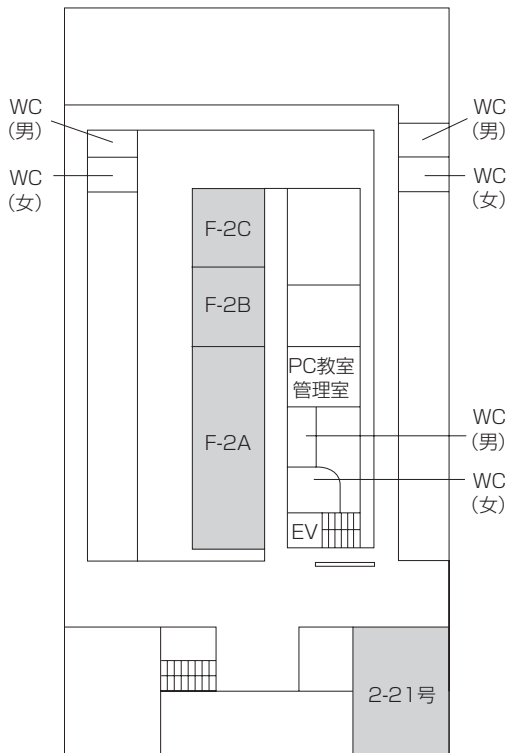


4) 2号館

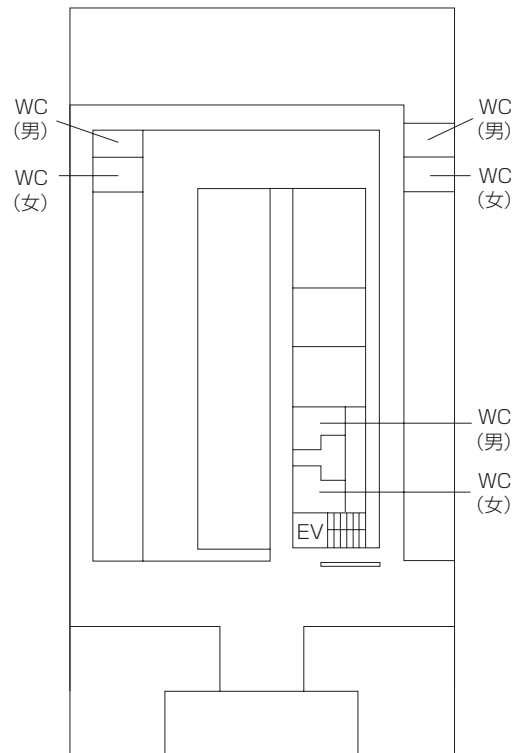
2号館1階



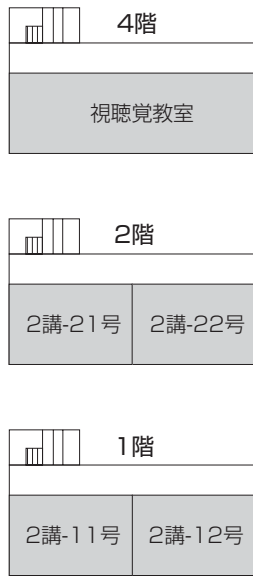
2号館2階



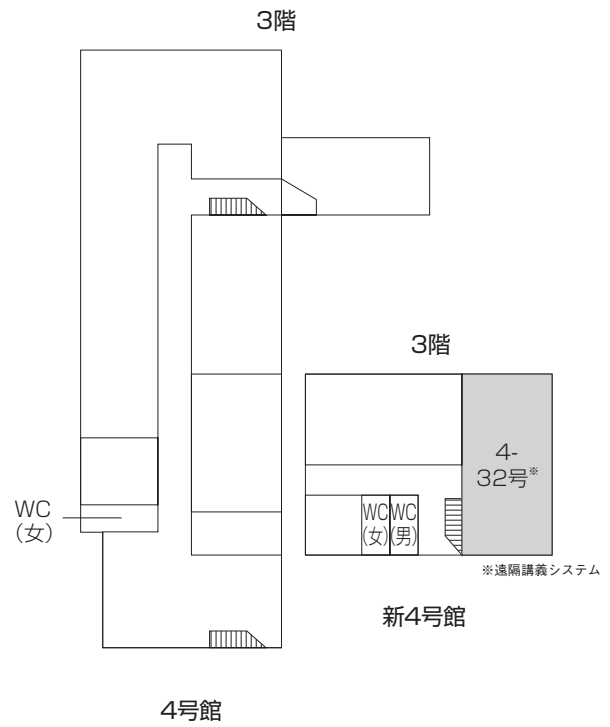
2号館3階



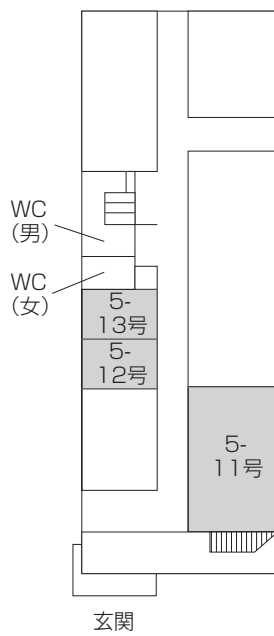
5) 農学部第2講義棟



6) 4号館, 新4号館



7) 5号館1階



●XI. SPICA 基本操作手順（学生用）●

（東京農工大学学務情報システム）

【I】ログイン方法



＜アクセスについて＞

東京農工大 HP のメニューバーで「学生生活」をクリックします。

※以下のアドレスからも飛べます。

<https://spica.gakumu.tuat.ac.jp/portal2/>



「学務情報システム（SPICA）利用のご案内」をクリックして SPICA 利用案内文へ。



SPICA 利用案内文の「SPICA 学務情報システム 新ログイン入り口」をクリックすると、ログイン画面になります。



<ログイン画面>

ID とパスワードを入力し (①),
「ログイン」ボタンをクリックします (②)。

※PC 教室で利用する時の ID・パスワードを使用してください。

(証明書自動発行機用で発行済)

※パスワードを変更した場合は変更後のパスワードを入力して下さい。

学生のポータル画面です。
 ここにあるメニューを選んで、それぞれの操作を行います。



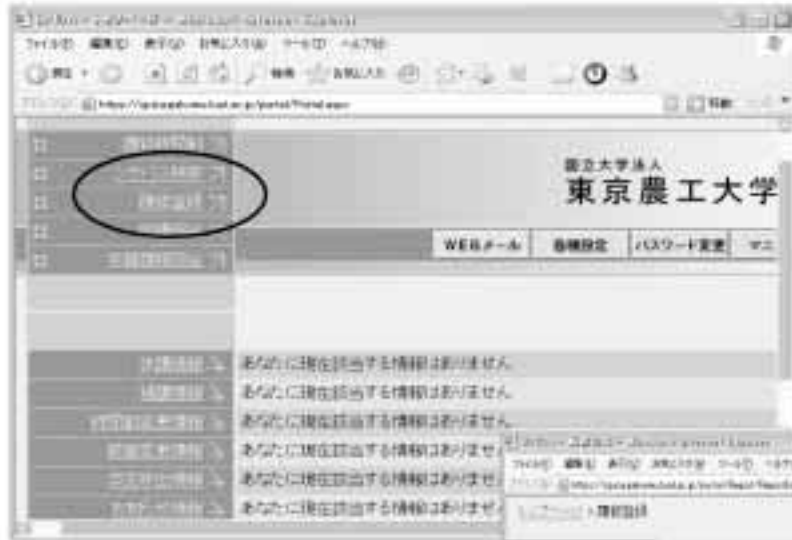
セキュリティ確保の点から、適宜、パスワードの変更をお勧めいたします。
 新規パスワードは英数字、記号を使用した 8 桁以上のパスワードとなります。
 パスワードの変更は、総合情報メディアセンターの Web サイトで行います。SPICA からパスワード変更はできません。
 パスワードを忘れた場合、総合情報メディアセンター窓口(小金井 8 号館 2 階、府中新 2 号館 2 階)で再発行してください。



【Ⅱ】履修登録方法（時間割表から入力する方法と一覧表から入力する方法があります）

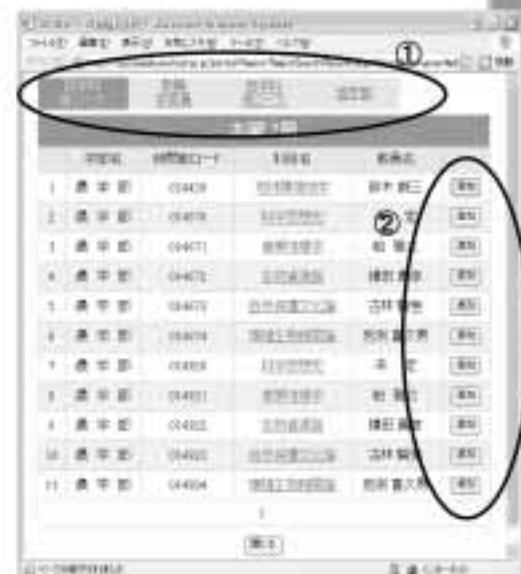
<1>時間割表形式入力の場合

学生ポータル画面のメニューで「履修登録」をクリックします。



個人の履修登録画面が時間割表の形式で表示されます。

履修登録する曜日時限の「追加」ボタンをクリックして下さい(①)。一度入力した科目を削除する場合は「削除」ボタンをクリックすることで取り消せます(②)。



履修可能科目一覧が表示されます。

開講対象毎（自学科科目，他学科科目，他学部科目等）に別シートになっています(①)。履修する科目を選んで「追加」ボタンをクリックして下さい(②)。

※各画面では，科目名をクリックするとシラバスが表示されます。科目選択時の参考にして下さい。

全ての履修科目の入力が完了したら、
登録画面下の「確認画面へ」をクリック
します。



<登録エラーがない場合>



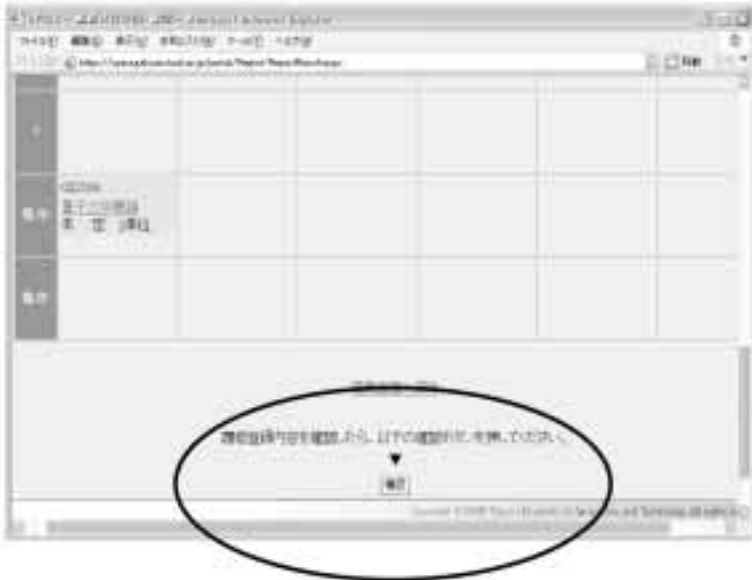
時間割形式の確認画面になります。
(この画面では入力は出来ません)

<登録エラーがある場合>



時間割の上にエラーの説明が表示されます。エラー科目も
赤く表示されますので、「削除」ボタンで削除してください。

エラー科目の削除後、再度「確認画面へ」をクリックすると、
エラーの無い、時間割形式の確認画面が表示されます。



時間割形式の確認画面下にある「確認」ボタンをクリックします。

(ここでクリックしないと、履修登録は完了しません)

再度追加・修正を行いたい場合は「編集画面へ戻る」をクリックして、登録画面から適宜入力し、最後に「確認」ボタンをクリックして下さい。



履修登録手続きはこれで終了です。

「トップページ」をクリックすると、学生ポータルメニュー画面に戻ります。

< 2 >一覧表形式入力の場合

学生ポータル画面のメニューで「履修登録」をクリックします。



登録画面で「一覧表形式入力」をクリックします。

履修したい科目の時間割コードを入力します。(①)

全ての履修科目の入力が完了したら、画面下の「編集結果を保存」をクリックします。(②)



再度同じ画面（一覧表）が表示されますので、一番下の「確認画面へ」をクリックして下さい。（③）



<登録エラーがない場合>

時間割形式の確認画面になります。
（この画面では入力は出来ません）

<登録エラーがある場合>

科目一覧の上にエラーの説明が表示されます。
エラー科目も備考欄に赤字で表示されますので、削除の
チェックボックスにチェックを入れて、「編集結果の保
存」→「確認画面へ」の手順を行なって下さい。



エラーの無い、時間割形式の確認画面になります。



時間割形式の確認画面下にある「確認」ボタンをクリックします。

(ここでクリックしないと、履修登録は完了しません)

再度追加・修正を行いたい場合は「編集画面へ戻る」をクリックして、登録画面から適宜入力し、最後に「確認」ボタンをクリックして下さい。



履修登録手続きはこれで終了です。

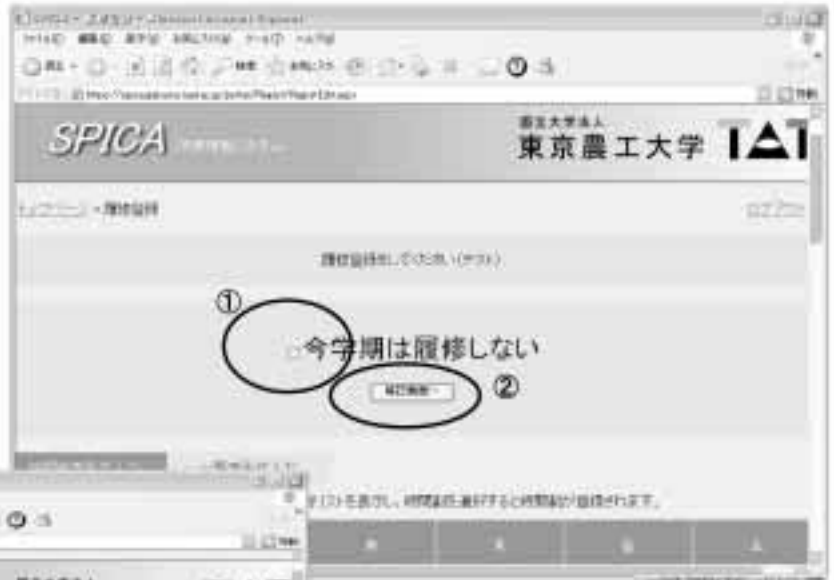
「トップページ」をクリックすると、学生ポータルメニュー画面に戻ります。

< 3 > 履修登録を行わない場合

4年次生の後期など、集中講義以外の科目の履修登録の必要が無い場合は以下の手続を行なって下さい。
(休学者がこの手続を行なう必要はありません)

登録画面の一番上、「今学期は履修しない」のチェックボックスをクリックして①、「確認画面へ」をクリックして下さい②。

下記の画面が表示されます。



問題なければ画面下にある「確認」ボタンをクリックして、内容を確認して下さい。③



履修登録を行う場合は「編集画面」に戻って登録手続を行なって下さい。

<注>工学部で開講する集中講義の履修登録は別途登録用紙にて行ないます。工学部の集中講義のみ履修する場合もこの手続を行なって下さい。

< 4 >他学科・他コース・他学部・他専攻科目の履修を希望する場合

自学科開講科目以外の履修を希望する場合、原則として科目の担当教員（大学院生は指導教員）等の許可が必要になります。（自学科の教員の許可が必要な場合があります。詳細は各自問い合わせして下さい。）



時間割形式の入力画面で、他学科・他学部等の科目を履修したい曜日時限の「追加」ボタンをクリックして下さい。

履修可能科目一覧が表示されます。
「他学科」、「他学部」、「他専攻」等の科目の中から自分の履修希望科目を探して、「追加」ボタンをクリックします。



追加した科目はオレンジ色で表示されます。
このままでは登録されませんので、「確認」ボタンをクリックして下さい。



確認画面が表示されます。

教員の許可を経ている場合は「はい」をクリックして下さい。

※許可無く「はい」をクリックして履修登録した場合、成績評価がつかなくても救済措置はありません。必ず教員の許可を経たから登録して下さい。



確認が完了すると、科目が黄色く表示されます。

この状態にならないと、画面下の確認ボタンをクリックした際にエラーとなりますので、注意して下さい。

※自学科の科目も含め、全ての履修希望科目を入力し終わったら、必ず最終的な確認手順を行なって、履修登録完了の画面を表示させて下さい。

【Ⅲ】各種確認ページの閲覧

ポータル画面から、自分の情報が確認できます。



< 1 > 履修時間割



*自分の時間割表が確認できます。

(入力はありません)

*「印刷用ページ」をクリックすると、A4サイズでの印刷が出来ます。(①)

*科目名をクリックすると、シラバス画面が表示されます。(②)

< 2 > シラバス検索

* 検索条件を入力し、「検索」ボタンをクリックします。
(条件は一つでも複数でも検索可能です)

検索条件を入力する画面。検索ボタンが赤い円で囲まれている。

検索結果	所属学部	所属学科	所属学年	所属学期	所属科目
1	工学部	電子工学科	A2	2-4	情報処理
2	工学部	機械工学科	A2	2-4	情報処理
3	工学部	機械工学科	A2	2-4	情報処理
4	工学部	情報工学科	A2	2-4	情報処理
5	工学部	情報工学科	A2	2-4	情報処理
6	工学部	情報工学科	A2	2-4	情報処理
7	工学部	情報工学科	A2	2-4	情報処理
8	工学部	情報工学科	A2	2-4	情報処理

検索された科目の一覧から該当の科目を探し、「詳細」ボタンをクリックします。

検索された科目の詳細ページ。印刷用ページボタンが赤い円で囲まれている。

表示されたシラバスは「印刷用ページ」をクリックして、印刷することができます。

< 3 >成績照会



The screenshot shows the SPICA portal interface for a student. At the top, there is a navigation bar with the SPICA logo and the text '国立大学法人 東京農工大学 TAT'. Below this, there is a section titled '成績一覧' (Academic Record). The table below lists the student's academic performance across several semesters.

学期年度	学期	所属学部	科目番号	科目名	担当教員	評価
2007	1	30000	2200001	心算学	中村 浩二	A
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	水元 真由子	C
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	伊藤 真由	B
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	佐藤 清和	B
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	田中 浩二	B
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	横井 和雄	B
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	佐藤 清和	A
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	佐藤 清和	B
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	佐藤 清和	B
2007	1	30000	2200001	インテリジェント・システム	佐藤 清和	B

ポータル画面で、「成績照会」をクリックすると、個人の過去の成績一覧を参照する事が可能です。

< 4 >学籍情報照会



氏名・学籍番号・所属学科などの基本情報，連帯保証人の住所・氏名，休学の履歴などを確認する事が出来ます。

※住所変更・改姓等があった場合は，府中地区事務部学生支援室まで速やかに申し出て下さい。

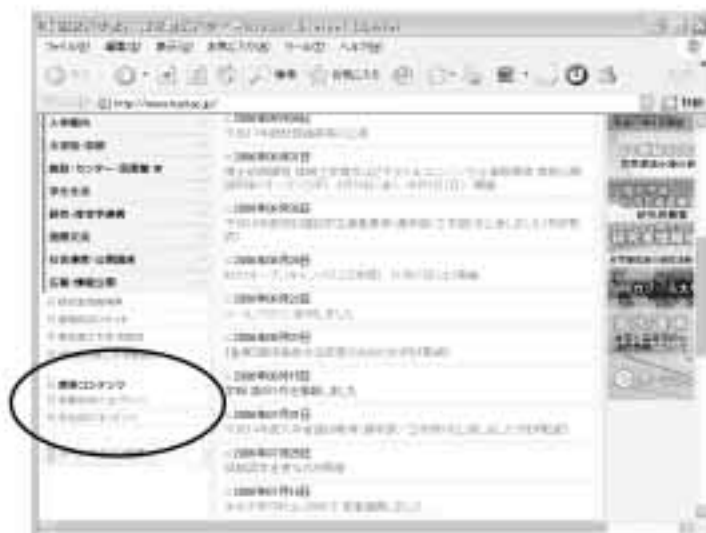
< 5 >各種お知らせの閲覧について

休講のお知らせや時間割の変更などを確認する事が出来ます。



この情報のみ、携帯電話からアクセスして閲覧する事が可能です。

携帯サイトのアドレスは、農工大学のホームページ左サイドにある、携帯コンテンツ（学生向け）を参照して下さい。



大学内の掲示板に掲載される全ての情報が記載されるわけではありません。

必ず各学部、各大学院の掲示板も確認するようにして下さい。

履修案内

東京農工大学農学部